

シラバス (授業概要) 看護学部看護学科 2022 Syllabus

2022 年度入学生

2021 年度以前の入学生

教養基礎領域

自然・人間・社会	
教育原理	2
教育心理学	4
物理学	6
化学	8
生命科学	10
基礎演習	12

専門基礎領域

社会と環境	
公衆衛生学	14
社会福祉概論	16
家族関係論	18
こころと発達	
生涯発達心理学	20
体の仕組みと働き	
解剖学Ⅰ	22
解剖学Ⅱ	24
生理学Ⅰ	26
生理学Ⅱ	28
栄養生化学	30
疾病の成り立ちと回復	
微生物・感染	32
薬理	34

看護専門領域

基礎看護学	
看護学原論Ⅰ	36
看護学原論Ⅱ	38
基礎看護技術Ⅰ	40
基礎看護技術Ⅱ	42
地域在宅看護学	
地域在宅看護学概論Ⅰ	44
臨地実習	
基礎看護学実習Ⅰ	46
聖隷看護基盤実習	48
公衆衛生学	
公衆衛生看護学概論	50
公衆衛生看護学実習Ⅰ	52

教職に関する科目

教職概論	54
学校保健	56

教養基礎領域

自然・人間・社会	
教育制度論	58
医療法学	60
キャリアデザイン	62
国際・地域	
英語Ⅲ (看護英語)	64

専門基礎領域

社会と環境	
保健統計学	66
疫学	68
公衆衛生学	70
保健医療行政論	72
養護概説	74
こころと発達	
臨床心理学	76
カウンセリング	78
体の仕組みと働き	
生化学	80
疾病の成り立ちと回復	
病理・病態	82
健康障害論Ⅰ	84
健康障害論Ⅱ	86
薬理・薬剤	88
臨床栄養	90

看護専門領域

基礎看護学	
基礎看護学	
基礎看護技術Ⅲ	92
基礎看護技術Ⅳ	94
基礎看護技術Ⅴ	96
成人看護学	
成人看護学概論	98
成人看護援助論Ⅰ	100
成人看護援助論Ⅱ	102
成人看護援助論Ⅲ	104
成人看護援助論演習	106
老年看護学	
老年看護学概論	108
老年看護援助論Ⅰ	110
老年看護援助論Ⅱ	112
母性看護学	
母性看護学概論	114
母性看護援助論Ⅰ	116
母性看護援助論Ⅱ	118
小児看護学	
小児看護学概論	120
小児看護援助論Ⅰ	122
小児看護援助論Ⅱ	124

精神看護学	
精神看護学概論	126
精神看護援助論Ⅰ	128
精神看護援助論Ⅱ	130
在宅看護学	
在宅看護学概論	132
在宅看護援助論	134
看護の統合	
地域包括ケア看護論	136
看護倫理	138
看護管理論Ⅰ	140
看護管理論Ⅱ	142
国際看護論	144
災害看護論	146
看護研究Ⅰ	148
看護研究Ⅱ	150
看護統合セミナー	152
国際看護研修	154
国際看護実習	156
臨地実習	
基礎看護学実習Ⅱ	158
急性期看護学実習	160
慢性看護学実習	162
老年看護学実習Ⅰ	164
老年看護学実習Ⅱ	166
母性看護学実習	168
小児看護学実習	170
精神看護学実習	172
在宅看護学実習	174
統合実習	176
公衆衛生学	
公衆衛生看護技術論	178
公衆衛生看護技術論演習	180
公衆衛生看護活動論	182
公衆衛生看護活動論演習	184
公衆衛生看護総合演習	186
公衆衛生看護管理論	188
公衆衛生看護学実習	190
教職に関する科目	
健康相談活動	192
特別支援教育概論	194
道徳・特別活動・ 総合的な学習の時間	196
教育課程・方法論	198
生徒指導の理論と方法	200
教育相談の理論と方法	202
学校体験活動	204
養護実習事前事後指導	206
養護実習Ⅰ	208
養護実習Ⅱ	210
教職実践演習 (養護教諭)	212

科目名	教育原理
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	「教育」と聞いて、最初に思い浮かぶのは学校ではないだろうか。しかし、学校教育が成立したのは、人類の長い歴史に照らせば比較的最近のことである。この講義では、教育の基礎的な概念や教育の歴史と思想を理解することで、今、私たちが当たり前と思っている「教育」を問い直し、現代教育の意義と課題を考察することを目的とする。
到達目標	1. わが国と欧米諸国における教育の歴史・思想を理解する。 2. 教育とは何か、その意義と目的を理解し、説明できるようになる。 3. 現代の学校教育の長所・短所について、自分の考えを述べられるようになる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：イントロダクション</p> <p>第 2 回：教育学の基礎① 教育学の基礎概念</p> <p>第 3 回：教育学の基礎② 子どもたちの育ちの現状</p> <p>第 4 回：発達と教育① 前思春期における家庭環境と発達・教育</p> <p>第 5 回：発達と教育② 思春期における友達関係と発達・教育</p> <p>第 6 回：発達と教育③ 思春期における人格再統合</p> <p>第 7 回：教育の歴史① 形成と教育</p> <p>第 8 回：教育の歴史② 近代学校の誕生</p> <p>第 9 回：教育の歴史③ 日本における公教育制度の成立と展開</p> <p>第 10 回：教育の思想① 宗教と教育</p> <p>第 11 回：教育の思想② 子どもの発見</p> <p>第 12 回：教育の思想③ 新教育と公教育制度</p> <p>第 13 回：現代教育の意義と課題① 戦後日本の教育改革の理想と展開</p> <p>第 14 回：現代教育の意義と課題② 情報化社会における学校への期待と課題</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	木村元・汐見稔幸『アクティベート教育学01 教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。
参考図書	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理 第三版』有斐閣アルマ、2016年。
事前・ 事後学修	・事前学修：テキストの該当箇所を目を通しておく。(2回～15回) ・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連文献・資料を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) ※毎回の事前・事後学修の目安時間は40分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	太田知実(1210研究室) <a href="mailto:tomomi-ot@seirei.ac.jp">tomomi-ot@seirei.ac.jp</a> 詳細は初回の授業で提示する。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教育心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	学校における児童生徒の主体的な学習を支えるために知っておくべき学習過程、動機づけ、対人関係、適応・不適応などに関する基本的事項を説明し、児童生徒の発達を踏まえた指導や関わりの基礎となる考え方を修得できるようにする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童生徒の学習の形態や概念及びその過程についての基本的な知識・理論を理解する。</li> <li>2. 児童生徒の主体的な学習を支える動機づけ、集団 (対人関係)、教育評価等の基本的事項とその意義について理解する。</li> <li>3. 児童生徒の主体的な学習活動を支えるために、学校における適応・不適応の基本的事項について理解し、児童生徒に対する指導と関わりについて考える。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回：教育心理学を学ぶことの意義</p> <p>第2回：動機づけ・やる気を高める1 (内発的/外発的動機づけ)</p> <p>第3回：動機づけ・やる気を高める2 (原因帰属、学習性無力感)</p> <p>第4回：動機づけ・やる気を高める2 (自己効力、目標設定)</p> <p>第5回：記憶について1 (短期記憶、長期記憶)</p> <p>第6回：記憶について2 (再生・再認、忘却)</p> <p>第7回：学習理論について1 (古典的/道具的条件づけ)</p> <p>第8回：学習理論について2 (観察学習、代理強化)</p> <p>第9回：学習の形態・教授方法について</p> <p>第10回：教育評価 (児童生徒をどう評価するのか)</p> <p>第11回：児童生徒-教師関係 (ピグマリオン効果)</p> <p>第12回：学級という集団 (集団規範、集団圧力、凝集性)</p> <p>第13回：学校における適応と不適応1 (総論)</p> <p>第14回：学校における適応と不適応2 (いじめ)</p> <p>第15回：学校における適応と不適応3 (不登校)</p>

アクティブラーニング	授業で扱うトピックの関する問いについてグループで議論して、全体で共有する。
授業内のICT活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30% (リアクションペーパー等)
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	長峰伸治 (看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	本科目の授業は、看護学部、社会福祉学部合同で行う。新型コロナウイルス対策の特例として異学部間の学生の交差をなくすために、2 教室間で、同時双方向型メディア授業を行う。1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施する。対面授業を看護学部 8 回、社会福祉学部 7 回行う (従って、メディア授業の回数はその逆になる)。授業時間中に適宜、質疑応答に応じることができるようにする。

科目名	物理学
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2単位 (30時間) 選択 1 Semester
DP番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	人間は物理法則に従って動いているため、人体や人間の運動を深く理解するためには物理学に関する知識が不可欠である。本科目は、特にバイオメカニクス分野の前提となる力学の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。</li> <li>2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。</li> <li>3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 津森 伸一</p> <p>第1回：ガイダンス，物理学とは何か，物理量とその表し方</p> <p>第2回：変位・速度・加速度，等速直線運動，等加速度直線運動</p> <p>第3回：力の合成と分解，ニュートンの第1法則（慣性の法則）</p> <p>第4回：ニュートンの第2法則（運動の法則）</p> <p>第5回：問題演習(1)</p> <p>第6回：力のつり合い，ニュートンの第3法則（作用反作用の法則）</p> <p>第7回：重力，垂直抗力</p> <p>第8回：問題演習(2)</p> <p>第9回：摩擦力</p> <p>第10回：仕事，エネルギー（位置エネルギー，運動エネルギー，食物エネルギー）</p> <p>第11回：問題演習(3)</p> <p>第12回：重心，力のモーメント</p> <p>第13回：重心の合成</p> <p>第14回：問題演習(4)</p> <p>第15回：総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、反転授業、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	パソコンと WebClass を用いて、授業用コンテンツの閲覧、小テストの実施、及びリアクションペーパーの作成や返信を行います。
評価方法	筆記試験 60%、小テスト 30%、リアクションペーパー10%、計 100%で評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。
課題に対する フィード バック	小テストは WebClass を用いて行い、解答後即座にテストの点数や解説が表示されます。リアクションペーパーは WebClass を用いて提出を行い、教員より個別に質問の回答やコメントを返信します。
指定図書	なし
参考図書	高等学校「物理基礎」「物理」教科書
事前・ 事後学修	① 授業前に指定された動画教材を閲覧し WebClass の小テストを行うこと (40 分). ② 授業後に指定図書の演習問題を解いてみること (40 分).
オープンエ デュケーシ ョンの活用	NHK 高校講座「物理基礎」が公開するライブラリ ( <a href="https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/">https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/</a> ) を用いた反転学習を行います。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取って下さい。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	

科目名	化学
科目責任者	有信 哲哉
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生命現象を分子レベルで理解するための基盤となる有機立体化学・反応有機化学の基本を学び、生体分子の機能などを分子レベルで理解できることを学ぶ。また、今後も発展する看護学・医学・生命科学に対して生涯に渡って自律的に学び続けるための学力的な基盤をつくる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有機化合物の立体構造を表記できる。</li> <li>2. 重要な有機化合物の性質・反応性を説明できる。</li> <li>3. 生体を構成する分子の構造的特徴について述べることができ、その役割を説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：原子の構造，安定同位体，放射性同位体  第2回：電子配置，周期律  第3回：電気陰性度，分子間相互作用  第4回：VSEPR 則，結合角  第5回：分子の形と極性  第6回：炭化水素と命名法，官能基  第7回：シクロアルカンと立体配座（いす形・舟形）  第8回：キラル中心，立体配置  第9回：酸化・還元，本格的な酸化数の決め方  第10回：不飽和炭化水素，付加反応  第11回：アルコール，カルボン酸・エステル  第12回：置換反応  第13回：求核付加反応  第14回：糖類・二糖類・多糖類  第15回：アミノ酸の性質と反応，タンパク質</p>



アクティブラーニング	その他（分子模型を用いたアクティブラーニング） 基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中に学生自身が分子模型を組み立てることで、分子の構造や安定性について考えてもらう。
授業内のICT活用	特になし
評価方法	筆記試験（90%）、課題提出物（確認テスト）（10%）、計100%で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	講義中に行う確認テストに関しては、授業において詳細な解説を行う。
指定図書	橋爪健著作 橋爪のゼロから劇的！にわかる 無機・有機化学の授業（旺文社） HGS 分子構造模型 A型セット 有機化学入門用（丸善出版） ISBN：978-4-621-30126-5
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習では、授業計画の該当項目について、教科書を読むこと（40分）。 事後学習では、講義ノート、教科書等を読み返し、さらに関連する演習問題を解き、理解を深めること（40分以上）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	生命科学																																
科目責任者	熊澤 武志																																
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター																																
DP番号と科目領域	DP2 教養基礎																																
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																
科目概要	生命科学は、生命の営みを細胞や分子レベルで研究し、生物学や化学だけでなく、あらゆる分野から総合的に研究しようとする学問です。本科目では、生命の基本単位である細胞や生命体の複製を中心とした生命基礎現象のしくみを学び、生殖、がん、ストレス、依存症、性、老化、死などの生命のメカニズムを理解しつつ、看護学を学ぶ上で必要となる生命科学の発展的知識を身につけることを目的とします。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体のリズムについて説明できる。</li> <li>2. 細胞の基本機能と細胞周期について説明できる。</li> <li>3. 遺伝子と遺伝子操作技術について理解できる。</li> <li>4. 遺伝子多型と個人差の関係について説明できる。</li> <li>5. 生命活動に影響を及ぼす諸因子について説明できる。</li> <li>6. 生命科学を基礎とする医療の進歩について具体的に述べることができる。</li> <li>7. 生命への関心を深め、問題意識を高めることができる。</li> </ol>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：生体のリズム</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第2回：細胞と細胞周期</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第3回：がんの生物学</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第4回：フリーラジカルとストレス</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第5回：放射線生物学</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第6回：薬物依存</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第7回：血液型の科学</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第8回：中間のまとめとテスト</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第9回：遺伝子の発現とその制御</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第10回：遺伝子操作技術と遺伝子治療</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第11回：DNA鑑定と個人識別</td> <td style="text-align: right;">黒崎 久仁彦</td> </tr> <tr> <td>第12回：性の科学～LGBTsについて</td> <td style="text-align: right;">津田 聡子</td> </tr> <tr> <td>第13回：出生前診断</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第14回：生命科学の倫理</td> <td style="text-align: right;">長谷川 智華</td> </tr> <tr> <td>第15回：生命と死・まとめ</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：生体のリズム	熊澤 武志	第2回：細胞と細胞周期	熊澤 武志	第3回：がんの生物学	熊澤 武志	第4回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志	第5回：放射線生物学	熊澤 武志	第6回：薬物依存	熊澤 武志	第7回：血液型の科学	熊澤 武志	第8回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志	第9回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志	第10回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志	第11回：DNA鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦	第12回：性の科学～LGBTsについて	津田 聡子	第13回：出生前診断	熊澤 武志	第14回：生命科学の倫理	長谷川 智華	第15回：生命と死・まとめ	熊澤 武志
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：生体のリズム	熊澤 武志																																
第2回：細胞と細胞周期	熊澤 武志																																
第3回：がんの生物学	熊澤 武志																																
第4回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志																																
第5回：放射線生物学	熊澤 武志																																
第6回：薬物依存	熊澤 武志																																
第7回：血液型の科学	熊澤 武志																																
第8回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志																																
第9回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志																																
第10回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志																																
第11回：DNA鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦																																
第12回：性の科学～LGBTsについて	津田 聡子																																
第13回：出生前診断	熊澤 武志																																
第14回：生命科学の倫理	長谷川 智華																																
第15回：生命と死・まとめ	熊澤 武志																																

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリフレクション課題などに取り組んでもらいます。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリアクションペーパーの作成、レポートの提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	中間テスト (40%)、定期試験 (40%)、平常点 (20%) を総合的に評価します。平常点には小テストの成績、レポートの提出、リフレクション課題への記述内容などが含まれます。なお、レポートの評価法にはルーブリックは用いません。
課題に対する フィード バック	小テストは採点後に返却し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。また、2~7 回目の授業で前回の授業範囲の中から簡単な小テストを実施しますので、理解度の評価に役立ててください。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了~18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	基礎演習
科目責任者	隆 朋也
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、主体的に学ぶ姿勢とそのため の技能を修得することは、大学在学中はもとより、生涯のさまざまな場面で学び・成長するた めに欠かせないスタディ・スキルである。本科目では、大学での学修に必要な基礎技能を修得 し、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学修方法を確立することを目的とする。
到達目標	1. 大学での学修方法が理解できる。 2. 多様なものの見方や異なる価値観を理解できる。 3. 根拠に基づき、自分の意見や主張を明確に述べることができる。 4. 文献、雑誌、インターネットなどからテーマに沿った情報や資料を収集・整理できる。 5. 科学的、論理的な視点でレポートを作成できる。 6. 能動的で自律的・自立的な学習態度を身に付けることができる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 隆朋也、安田智洋、熊澤武志、長峰伸治、佐久間佐織、小平朋江 神崎江利子、岡田眞江、江口晶子、吉里心希、河野貴大、有村優範、兼子夏奈子 山本智子、早川ゆかり、太田知実、山崎淑恵、寺田康祐、遠山大成</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 ガイダンス/大学で学ぶ意義</p> <p>第 2 回 大学での学修方法 ・主体的学修、事前・事後学修の必要性、学修資源の活用など</p> <p>第 3 回 PC の活用法と情報倫理 ・授業や演習における PC の活用法や留意事項について</p> <p>第 4 回 図書館の活用、資料の探し方 ・図書館の利用方法を学ぶ</p> <p>第 5 回 文章を要約する ・論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる</p> <p>第 6 回 見聞きした内容を記録する ・主張の根拠となる情報を正確にメモできる</p> <p>第 7 回 レポートの組み立て方 ・アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて</p> <p>第 8 回 文献・資料の使い方 ・引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する</p> <p>第 9 回 伝えるための文章の書き方 ・文章の構成の仕方の基本を理解する</p> <p>第 10 回 プレゼンテーションのポイント ・パワーポイントを用いた口頭発表の方法、注意点など</p> <p>第 11 回 学生相互のレポート添削 ・作成したレポートを学生間で相互評価しフィードバックを得る</p> <p>第 12・13 回 グループワーク ・テーマについての情報収集・ディスカッション ・グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り</p> <p>第 14・15 回 グループ発表・まとめ ・パワーポイントを用いた口頭発表 ・ループリクを活用した他者評価、教員からのフィードバック ・授業内容の振り返り</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。講義形式の授業・演習の他に、グループワークを行います。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用し、リアクションペーパー、レポート、グループワークの進捗・成果報告、e-ポートフォリオ等を作成します。 グループワークでは、PC を活用して情報収集や資料作成を行います。
評価方法	リアクションペーパー (30%)、レポート (40%)、グループ発表資料と発表内容 (30%) を総合的に評価します。 なお、レポート・グループ発表は、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは WebClass を利用して提出し、質問等は必要に応じて全体にフィードバックします。その他の提出物についても、担当教員が確認した後に WebClass 上で対応します。 グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。
指定図書	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書
参考図書	『看護学生のための よくわかる大学での学び方』前原澄子・遠藤俊子、金芳堂
事前・ 事後学修	事前学修：各講義に事前学修課題が提示される。文献を調べたり、自分の考えをまとめたりして授業に臨む (30 分程度)。 事後学修：授業の学びをまとめ、記録する (30 分程度)。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者 (看護学部：隆) の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール (tomoya-t@seirei.ac.jp) で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	講義形式の授業においては 2 教室間での同時双方向型メディア授業を行う。講義担当教員が 1 教室で対面授業を行い、その様子を別教室に TV 会議システムで配信する形で行う。メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教員を 1 名以上配置し、教育の質を維持する。また授業時間に講義担当教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる機会も設ける。グループワーク等の演習が中心となる授業では、それぞれの教室に担当教員を配置した対面形式の授業を行う。

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 1セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	公衆衛生学は人間集団を対象とした健康を保持、増進、予防するための実践的科学であり、同時に社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための学問でもある。そのような公衆衛生学の現状を理解し、健康問題解決のための手段を学修する。具体的には、予防の概念とその種類、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、産業衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	集団における健康問題の実態と原因を明らかにし、保健・医療・福祉の現状を理解する。 1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 公衆衛生の概念  第2回 疾病予防、健康増進、公衆衛生活動  第3回 人口統計① (人口静態統計、平均余命)  第4回 人口統計② (人口動態統計)  第5回 健康指標  第6回 生活習慣病の予防① (総論、健康づくり)  第7回 生活習慣病の予防② (栄養、運動、休養、その他)  第8回 感染症とその対策① 感染症予防法、検疫、その他  第9回 感染症とその対策② 予防接種、その他  第10回 食品衛生 食中毒、食品汚染  第11回 産業保健  第12回 生活環境① 居住環境、室内汚染  第13回 生活環境② 上下水道、廃棄物  第14回 生活環境③ 騒音、振動、大気汚染  第15回 環境保健 地球環境問題 (地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、その他)</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学 2022 南江堂 国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会
参考図書	医療情報科学研究所 編 公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア 2018 丸井英二 編著 わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学 弘文堂 2020
事前・ 事後学修	前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。事前・事後学修では定義や法令、計算方法等を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	社会福祉概論
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30時間) 必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をまじえて学習していきます。
到達目標	1. 社会福祉の基礎概念を説明できる。 2. 社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 3. 医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;佐々木正和、佐藤順子、福田俊子、川向雅弘</p> <p>第1回：社会福祉の基礎概念 現代社会における社会福祉とは (佐々木)</p> <p>第2回：社会福祉をとりまく状況 貧困問題等 (佐々木)</p> <p>第3回 社会福祉の歴史と展開 戦前の社会福祉の歴史 (佐々木)</p> <p>第4回 社会福祉の仕組みと経営 法律・サービスについて (佐々木)</p> <p>第5回 社会福祉の機関と施設 各福祉機関について (佐々木)</p> <p>第6回 社会福祉と援助と方法 ソーシャルワーク・グループワーク (福田)</p> <p>第7回 社会保障制度 (健康保険、高齢者医療、労災等) (佐々木)</p> <p>第8回 公的扶助制度 (生活保護、手当等) (佐々木)</p> <p>第9回 子ども家庭福祉 子どもへの支援(事例紹介) (佐々木)</p> <p>第10回 高齢者福祉 高齢者への支援 (事例紹介) (佐々木)</p> <p>第11回 障がい者福祉 障がい者への支援 (事例紹介) (川向)</p> <p>第12回 地域福祉 地域連携・地域包括ケアシステム (佐藤)</p> <p>第13回 これからの社会福祉の課題 現在ある社会福祉の課題について (佐藤)</p> <p>第14回 社会福祉を支える人たち 様々な社会福祉職 (佐々木)</p> <p>第15回 まとめ (佐々木)</p>



アクティブ ラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Webclass を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT を活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。</li> <li>・ 毎回の授業で Webclass を活用します。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リアクションペーパー (10%)、テスト (90%)</li> </ul>
課題に対する フィード バック	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペー パーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	山縣文治・岡田忠克編「よくわかる社会福祉」 ミネルヴァ書房
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に教科書の単元を読み込んでおくこと (1~15 回)</li> <li>・ 講義前に前回資料の復習をしておくこと (2~14 回)</li> </ul> <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること (1~15 回)</li> </ul> <p>(事前・事後学修 目安時間 40 分)</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	社会福祉学部所属の佐々木正和研究室 (2605 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスア ワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士・社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教 授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	家族関係論
科目責任者	佐藤 弘明
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	現代家族の中の人間関係を社会学観点から理解し、医療従事者として必要な家族を見る目を養う。また現代家族をめぐるさまざまな問題や人間関係について、心理学的立場から理解を深める。
到達目標	1. 自ら経験する現実の家族を社会的観点から相対化することによって家族および家族関係について理解を深める。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：(1) 家族とは何か？ (社会学の立場から) (2) 日本の家族 (過去と現在)・佐藤弘明</p> <p>第 2 回：(1) 日本の家族 (過去と現在) (2) 少子化とは何か / 日本社会の少子化について・佐藤弘明</p> <p>第 3 回：夫と妻 / 少子化を通してみる夫と妻・佐藤弘明</p> <p>第 4 回：(1) 親と子 / 少子化を通してみる親と子 (2) 祖父母と孫 / 少子化を通してみる祖父母と孫・佐藤弘明</p> <p>第 5 回：夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達 柴田俊一</p> <p>第 6 回：夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一</p> <p>第 7 回：親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族 柴田俊一</p> <p>第 8 回：親子関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	(佐藤) 定期試験 (100%) の結果で評価する。ただし、授業中の質疑応答を加点要素とする。 (柴田) レポート 100% で評価する。
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。
指定図書	なし
参考図書	授業中、適宜提示します。
事前・ 事後学修	(佐藤) 講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノートの再読が必要です。少なくとも 40 分はかけてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う。 1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30時間) 必修 1セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。</li> <li>2. 1の知識を得ることで、これまでどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」</p> <p>第2回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成）</p> <p>第3回： 乳児期の発達（基本的信頼感）</p> <p>第4回： 幼児期前半の発達1（第1次反抗期、言語能力の発達）</p> <p>第5回： 幼児期前半の発達2（自律性、トイレトレーニング）</p> <p>第6回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達）</p> <p>第7回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ）</p> <p>第8回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係）</p> <p>第9回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成）</p> <p>第10回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達）</p> <p>第11回： 中年期の発達1（中年期危機）</p> <p>第12回： 中年期の発達2（アイデンティティの再体制化）</p> <p>第13回： 高齢期の発達（エイジング）</p> <p>第14回： 発達障害の理解と支援1（学習障害、注意欠如多動性障害）</p> <p>第15回： 発達障害の理解と支援2（自閉スペクトラム症）</p>

アクティブ ラーニング	アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。
授業内の ICT 活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30%(リアクションペーパー等)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治 (看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	解剖学 I
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構成について述べることができる。</li> <li>2. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。</li> <li>3. 心臓血管系の構造と機能について述べるができる。</li> <li>4. 内臓系の基本的な構造と機能について述べるができる。</li> <li>5. 解剖実習見学では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくるができる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、解剖学総論（解剖学用語、人体の構成）、</p> <p>第 2 回：組織学総論（細胞、組織）、</p> <p>第 3 回：消化器系（消化管の管壁、口、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）</p> <p>第 4 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）</p> <p>第 5 回：呼吸器系（上気道、下気道、胸膜・縦隔）</p> <p>第 6 回：脈管系（心臓の構造、心臓の血管、刺激伝道系、）</p> <p>第 7 回：脈管系（血管の構造、循環路、リンパ系）、中間テスト</p> <p>第 8 回：浜松医科大学での解剖学実習見学</p> <p>第 9 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第 10 回：自律神経系、内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島、副腎）</p> <p>第 11 回：運動器系（基本構造、骨の連結、全身の骨、主な骨格筋）</p> <p>第 12 回：運動器系（基本構造、骨の連結、全身の骨、主な骨格筋）</p> <p>第 13 回：感覚器系（視覚器、平衡聴覚器、皮膚）</p> <p>第 14 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 15 回：まとめ、中間テスト</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。
評価方法	中間テスト (60%)、小テスト (30%) レポート (10点) を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	解剖学Ⅱ
科目責任者	顧 寿智
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学Ⅱは、解剖学Ⅰに引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そして看護学に必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	6. 神経系の構造と主な機能を述べることができる。 7. 神経系病理との繋がりを述べることができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：前期のまとめ、神経組織  第 2 回：神経系（神経系の構成、脊髄）  第 3 回：神経系（脳幹、小脳、間脳）  第 4 回：神経系（大脳、脳室）  第 5 回：神経系（脳脊髄膜、脊髄神経）  第 6 回：神経系（脳神経）  第 7 回：神経系（伝導路）、解剖実験  第 8 回：まとめ、中間テスト</p>



アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・ タブレットアプリ (Visible Body など) ・ DVD などの活用を取り入れて実施する。
評価方法	中間テスト (60%)、小テスト (30%) レポート (10点) を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として、図書館にある DVD 「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12 時～13 時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	生理学 I
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化・吸収の意義とその機能について説明できる。</li> <li>2. 呼吸運動とガス交換について説明できる。</li> <li>3. 循環系の意義、心臓の機能、心電図、血管系の機能、循環調節について説明できる。</li> <li>4. 血液と体液の組成とその機能について説明できる。</li> <li>5. 腎臓の機能、尿の生成、排尿ならびに体液の調節機構について説明できる。</li> <li>6. 神経系の機能について説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス・栄養の消化と吸収-1  第 2 回：栄養の消化と吸収-2  第 3 回：栄養の消化と吸収-3  第 4 回：呼吸の生理学-1  第 5 回：呼吸の生理学-2  第 6 回：心臓・循環の生理学-1  第 7 回：心臓・循環の生理学-2  第 8 回：血液と体液-1  第 9 回：血液と体液-2  第 10 回：尿の生成とその排泄-1  第 11 回：尿の生成とその排泄-2  第 12 回：神経機能の基礎・自律神経系  第 13 回：脊髄と脳-1  第 14 回：脊髄と脳-2  第 15 回：脳の高次機能・まとめ</p>

アクティブラーニング	小テストやリフレクション課題への取り組みのほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークを取り入れながら進めます。
授業内のICT活用	WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、リフレクション課題への記述内容（10%）を総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、坂井建雄/岡田隆夫/宇賀貴紀 著、第11版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社 「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1) : 解剖生理学」林正健二 編、第4版、メディカ出版
事前・事後学修	小テストやリフレクション課題の作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	熊澤武志（1716研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	生理学Ⅱ
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体防御システムについて説明できる</li> <li>2. 体温の調節機構について説明できる。</li> <li>3. ホルモンの種類およびその作用・調節機構について説明できる。</li> <li>4. 生殖、発生、成長、老化、それぞれのメカニズムについて説明できる。</li> <li>5. 感覚系の機能について説明できる。</li> <li>6. 筋系の機能および筋収縮について説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：生体の防御機構  第 2 回：体温とその調節  第 3 回：内分泌系の機能と調節－1  第 4 回：内分泌系の機能と調節－2  第 5 回：生殖と発生  第 6 回：成長と老化  第 7 回：感覚の生理学  第 8 回：筋肉の機能・まとめ</p>

アクティブラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（10%）を総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答えは次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、坂井建雄/岡田隆夫/宇賀貴紀 著、第11版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社 「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1)：解剖生理学」林正健二 編、第4版、メディカ出版
事前・事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	熊澤武志（1716研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	栄養生化学
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2単位 (30時間) 必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	栄養生化学は生命活動と体内に取り入れた栄養素との相互作用を化学的・栄養学的に研究する学問です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、栄養素の生化学的基礎を学び、分子や細胞レベルでの代謝・調節機構、生活習慣病の予防やライフステージに沿った栄養管理のポイント等を理解することを目的とします。本科目で学ぶ用語や名称は、医療における共通言語であり、その理解は看護を学修する上での基盤となります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療における栄養生化学の役割について述べることができる。</li> <li>2. 酵素、ビタミン・補酵素について説明できる。</li> <li>3. 糖質の構造、機能、代謝について説明できる。</li> <li>4. 脂質の構造、機能、代謝について説明できる。</li> <li>5. タンパク質の構造、機能、代謝について説明できる。</li> <li>6. ポルフィリン代謝と異物代謝について説明できる。</li> <li>7. 遺伝子発現の仕組みについて説明できる。</li> <li>8. ライフステージごとの栄養の特徴について述べるができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス・栄養生化学の基礎知識</p> <p>第2回：生体の構成成分と栄養素</p> <p>第3回：酵素の特徴とはたらき</p> <p>第4回：糖質の構造と性質</p> <p>第5回：糖質の代謝</p> <p>第6回：脂質の構造と性質</p> <p>第7回：脂質の代謝</p> <p>第8回：タンパク質の構造と性質</p> <p>第9回：タンパク質の代謝</p> <p>第10回：ビタミン・ミネラルの種類とはたらき</p> <p>第11回：エネルギー代謝</p> <p>第12回：遺伝子の生化学</p> <p>第13回：代謝の異常</p> <p>第14回：栄養状態の評価と判定</p> <p>第15回：ライフステージと栄養</p>

アクティブ ラーニング	整理問題を用いた自主学修やリフレクション課題に取り組むほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら授業を進めます。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	定期試験（80%）、リフレクション課題への記述内容（20%）を総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学、小野彰史/倉貫早智/五味郁子/柴田みち/杉山みち子/鈴木志保子/外山健二/中村丁次 著、第13版、医学書院
参考図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [2] 生化学、畠山鎮次 著、第14版、医学書院
事前・ 事後学修	リアクションペーパー作成や整理問題を解く等して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業ではリアクションペーパーの作成も含めて、事前学修に40分程度、事後学修に40分程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	微生物・感染
科目責任者	永田 年
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	感染症にかかった患者を看護する立場にある人々は感染症についての知識はもちろん、感染症の原因である病原微生物について十分な知識を持ち、これに基づいた適切な処置が必要である。また、感染症と深く関連性のある免疫学についての十分な知識も必要である。これらのことを学習目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物学の体系的な基礎知識とその特徴を学び、病原微生物と感染及び発病の概念が理解できるようにする。</li> <li>2. 生体の種々の防御機構(特に免疫)を学び、病原微生物に対する適切な対応処置に関する知識を修得できるようにする。</li> <li>3. 現在、問題になっている、院内感染、日和見感染について十分な知識を得る。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：微生物・感染を学ぶ意義、微生物・感染の基礎知識、微生物の種類</p> <p>第 2 回：細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質</p> <p>第 3 回：感染と感染症</p> <p>第 4 回：感染に対する生体防御機構</p> <p>第 5 回：滅菌と消毒、感染症の検査・診断・治療、感染症の現状と対策</p> <p>第 6 回：病原細菌と細菌感染症</p> <p>第 7 回：病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症</p> <p>第 8 回：病原ウイルスとウイルス感染症</p>



アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 100% (定期試験)
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』南嶋 洋一他著、医学書院
参考図書	
事前・ 事後学修	講義内容に比べ講義時間が少ないため、予習・復習をすること。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。 2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。 また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	薬理
科目責任者	川村 和美
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>薬理・薬剤では、医薬品の作用機序を中心に、体内動態、副作用、相互作用などを学習します。本科目の学習を通じて、国家試験に合格するための知識を身につけるだけでなく、それぞれの医薬品の特徴や使用例を具体的に説明し、配薬、服薬介助などの援助時に、医薬品に興味を持てるように、授業を進めたいと思います。医薬品の名前は多い上にカタカナだらけでややこしく、取っ付きにくいと思いますが、皆さんが自信を持って臨床で活かせるよう、できる限りわかりやすく薬に親しみが持てるように解説します。</p> <p>全員 A 評価の単位を取得してくれることを期待しています。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な薬剤の作用機序を理解する。</li> <li>2. 特徴的な薬の代表的な副作用を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>臨床で薬に触れたときにどんな薬かわかる、それぞれの薬に興味を持てるように、下記のスケジュールで幅広い領域を網羅した授業を行います。</p> <p>第1回：第1章 薬を知ろう</p> <p>第2回：第2、3章 循環器内科、代謝・内分泌内科で主に使われる薬</p> <p>第3回：第4、5、6章 消化器内科、呼吸器内科・アレルギー科、整形外科で主に使われる薬</p> <p>第4回：第7、8章 腎臓内科・泌尿器科・生殖器科、感覚器科で主に使われる薬</p> <p>第5回：第9、10章 精神科・心療内科、神経内科で主に使われる薬</p> <p>第6回：第11章 感染症科で主に使われる薬</p> <p>第7回：第12章 腫瘍内科・緩和医療科で主に使われる薬</p> <p>第8回：第13章 救命救急科・麻酔科で主に使われる薬</p> <p>試験問題対策問題解説</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	授業内の質問はリアクションペーパーやWeb Class で随時、受け付けます。
評価方法	評価は100点満点とし、点数配分を定期試験90%、学習態度10%（出席点）とします。 合計点が60点に満たない場合は、再試を実施します なお、本試験に欠席をした学生も再試験の対象となります。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし 発刊を予定しているテキスト（薬事日報）の原案（レジュメ）に従って授業を行います。
参考図書	日本医薬品集、治療薬マニュアル（医学書院）などの医薬品集
事前・ 事後学修	Web Class にアップロードしてある試験対策問題を実施すると、授業の復習と国家試験対策になります。 講義時に配布する資料は、随時、情報を更新し、Web Class 上にPDFをアップロードするので、必要に応じてご活用ください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業後に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は、病院ならびに保険薬局における実務経験と、薬科大学と企業における授業経験が豊富な薬剤師が教授します。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とし、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑 応答等に対応します。一昨年度、本科目は遠隔授業の曜日にあたっていたため、15 コマすべて を zoom を用いて実施しました。コロナウイルスの蔓延状況によっては、遠隔授業の実施科目に なる可能性はあり、その場合はオンライン授業を検討します。 担当教員は教育設計の専門家『インストラクショナルデザイナー』であるとともに、eラーニン グによる授業設計者の資格（eLP シニアマネージャー/eLP シニアラーニングデザイナー/eLP シ ニアコンサルタント）を有するため、オンラインとなった場合にも e ラーニング教材に近い講 義コンテンツを提供します。

科目名	看護学原論 I
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「看護とは何か」「看護職者は何をするのか」「看護学とはどのような学問のか」などの原理を探究し、看護学の本質的な理解を深め、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護の本質や歴史を学修し、看護を構成する人・健康・環境について理解を深める。看護実践のための理論的根拠や看護技術について学修し、看護実践の基盤を構成する要素について理解を深める。看護の専門性への道程を理解し、看護・看護学のこれからの展望と課題について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践と看護の変遷を理解する</li> <li>2. 看護の対象、健康、環境をとらえる視点を理解する</li> <li>3. 看護実践のための理論的根拠を理解する</li> <li>4. 看護実践に必要な技術を理解する</li> <li>5. 保健・医療・福祉のシステムの中で果たす看護の役割について自分の考えを述べることができる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 看護とは何か</p> <p>第2回 看護実践と看護の変遷</p> <p>第3回 看護に求められる教育</p> <p>第4回 看護の対象とその理解 統合体としての人間</p> <p>第5回 看護の対象とその理解 健康障害をもつケアの対象の理解</p> <p>第6回 健康・病気の捉え方</p> <p>第7回 健康に影響する要因</p> <p>第8回 ライフサイクルと健康</p> <p>第9回 看護実践のための理論的根拠</p> <p>第10回 看護実践のための理論的根拠 (反転授業)</p> <p>第11回 看護における倫理と価値</p> <p>第12回 看護技術とは</p> <p>第13回 看護実践における看護過程の展開</p> <p>第14回 保健・医療・福祉システム</p> <p>第15回 専門職としての看護のあり方</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します 第9回は学生による反転授業、第15回はグループワークをもとにpptを活用し学修内容をプレゼンします
授業内の ICT活用	WebClassを用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時にはpptを作成します
評価方法	授業参加度(20%)、ミニテスト(20%)、定期試験(60%)
課題に対する フィード バック	*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します
指定図書	志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編(2022) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論, メディカ出版
参考図書	授業内で紹介します
事前・ 事後学修	<b>【事前学修】</b> *单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2~14回には授業中にミニテストを実施します。 <b>【事後学修】</b> *授業内容、テキストの振り返りをします。グループワークに必要な内容を個人学修で振り返ります
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	榎原理恵:1616 研究室 連絡先 <a href="mailto:rie-k@seirei.ac.jp">rie-k@seirei.ac.jp</a> 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	看護学原論Ⅱ
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	社会と看護学に関する基礎となる知識を学修して、社会に求められる看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護における法的根拠を理解するとともに、看護実践における倫理的課題や医療安全についての理解を深め、看護の専門性について理解を深める。チーム医療や保健・医療・福祉における協働について基礎的な知識や考え方を学修する。さらに、社会から求められる看護の役割の拡大への展望と課題について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における法的根拠を理解する</li> <li>2. 看護の対象となる人々の多様性を理解し、看護の継続性を理解する</li> <li>3. 看護実践における倫理的課題を認識し、対応力の基盤をみにつける</li> <li>4. 看護とその責務、今後の展望と課題について自己の考えを述べることができる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回 看護における法的側面 法の概念と看護実践の職業的法的規則</p> <p>第2回 多職種で取り組む地域包括ケアシステム</p> <p>第3回 看護の展開と継続性 <span style="float: right;">川村佐和子</span></p> <p>第4回 倫理的課題への対応 <span style="float: right;">ディベート</span></p> <p>第5回 医療安全への取り組み</p> <p>第6回 災害看護と国際看護</p> <p>第7回 看護とその責務</p> <p>第8回 今後の展望と課題</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します。 第4回は学生によるディベート、第8回はグループワークをもとにpptを活用し学修内容をプレゼンします。
授業内の ICT活用	WebClassを用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時にはpptを作成します。
評価方法	授業参加度(20%)、ミニテスト(20%)、定期試験(60%)
課題に対する フィード バック	*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。 *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。
指定図書	志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編(2022) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論, メディカ出版
参考図書	授業内で紹介します
事前・ 事後学修	<b>【事前学修】</b> *单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2~7回には授業中にミニテストを実施します。 <b>【事後学修】</b> *授業内容、テキストの振り返りをします。グループワークに必要な内容を個人学修で振り返ります。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	榎原理恵:1616 研究室 連絡先:rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	基礎看護技術 I																																																																																											
科目責任者	田口 実里																																																																																											
単位数他	2 単位 (60 時間) 必修 1 セメスター																																																																																											
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																																																																											
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																																																																											
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、看護場面に共通する技術としてコミュニケーション、感染予防、バイタルサイン測定、療養環境の調整、活動と休息を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。																																																																																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる</li> <li>2. 看護に共通する技術を修得できる</li> <li>3. 看護の対象となる人の療養環境について理解し、必要な技術について学修し修得できる</li> <li>4. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる</li> <li>5. 実施した看護技術について、グループで意見交換し、安全・安楽の視点で評価できる</li> <li>6. 能動的な学修態度を身に着けることができる</li> </ol>																																																																																											
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 田口実里、早川ゆかり、有村優範、炭谷正太郎、佐久間佐織、吉里心希、榎原理恵</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>科目ガイダンス・看護技術とは</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>コミュニケーションの意義と構成要素</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>関係構築のためのコミュニケーションの基本</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>感染予防に必要な技術 I ①</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【演習】感染予防に必要な技術①</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【演習】感染予防に必要な技術②</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>環境調整に必要な技術①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>活動と休息の基本的な知識</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>活動と休息の援助の実際</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>【演習】体位変換</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>【演習】体位保持</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>【演習】車いす移乗・移送</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>【演習】ストレッチャー移乗・移送</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>【演習】技術の確認：ベッドメイキング</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>効果的なコミュニケーション技術</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>コミュニケーション障害への対応</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>【演習】効果的なコミュニケーション技術①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>【演習】効果的なコミュニケーション技術②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>バイタルサインの観察①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>バイタルサインの観察②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>【演習】技術の確認：バイタルサイン</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第29回</td> <td>【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第30回</td> <td>【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ③・まとめ</td> <td>田口実里</td> </tr> </table> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p>		第1回	科目ガイダンス・看護技術とは	田口実里	第2回	コミュニケーションの意義と構成要素	田口実里	第3回	関係構築のためのコミュニケーションの基本	田口実里	第4回	感染予防に必要な技術 I ①	早川ゆかり	第5回	感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション	早川ゆかり	第6回	【演習】感染予防に必要な技術①	早川ゆかり	第7回	【演習】感染予防に必要な技術②	早川ゆかり	第8回	環境調整に必要な技術①	田口実里	第9回	環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス	田口実里	第10回	【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換①	田口実里	第11回	【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換②	田口実里	第12回	活動と休息の基本的な知識	有村優範	第13回	活動と休息の援助の実際	有村優範	第14回	【演習】体位変換	有村優範	第15回	【演習】体位保持	有村優範	第16回	【演習】車いす移乗・移送	有村優範	第17回	【演習】ストレッチャー移乗・移送	有村優範	第18回	【演習】技術の確認：ベッドメイキング	田口実里	第19回	効果的なコミュニケーション技術	田口実里	第20回	コミュニケーション障害への対応	田口実里	第21回	【演習】効果的なコミュニケーション技術①	田口実里	第22回	【演習】効果的なコミュニケーション技術②	田口実里	第23回	バイタルサインの観察①	田口実里	第24回	バイタルサインの観察②	田口実里	第25回	【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①	田口実里	第26回	【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②	田口実里	第27回	【演習】技術の確認：バイタルサイン	田口実里	第28回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ①	田口実里	第29回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ②	田口実里	第30回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ③・まとめ	田口実里
第1回	科目ガイダンス・看護技術とは	田口実里																																																																																										
第2回	コミュニケーションの意義と構成要素	田口実里																																																																																										
第3回	関係構築のためのコミュニケーションの基本	田口実里																																																																																										
第4回	感染予防に必要な技術 I ①	早川ゆかり																																																																																										
第5回	感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション	早川ゆかり																																																																																										
第6回	【演習】感染予防に必要な技術①	早川ゆかり																																																																																										
第7回	【演習】感染予防に必要な技術②	早川ゆかり																																																																																										
第8回	環境調整に必要な技術①	田口実里																																																																																										
第9回	環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス	田口実里																																																																																										
第10回	【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換①	田口実里																																																																																										
第11回	【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換②	田口実里																																																																																										
第12回	活動と休息の基本的な知識	有村優範																																																																																										
第13回	活動と休息の援助の実際	有村優範																																																																																										
第14回	【演習】体位変換	有村優範																																																																																										
第15回	【演習】体位保持	有村優範																																																																																										
第16回	【演習】車いす移乗・移送	有村優範																																																																																										
第17回	【演習】ストレッチャー移乗・移送	有村優範																																																																																										
第18回	【演習】技術の確認：ベッドメイキング	田口実里																																																																																										
第19回	効果的なコミュニケーション技術	田口実里																																																																																										
第20回	コミュニケーション障害への対応	田口実里																																																																																										
第21回	【演習】効果的なコミュニケーション技術①	田口実里																																																																																										
第22回	【演習】効果的なコミュニケーション技術②	田口実里																																																																																										
第23回	バイタルサインの観察①	田口実里																																																																																										
第24回	バイタルサインの観察②	田口実里																																																																																										
第25回	【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①	田口実里																																																																																										
第26回	【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②	田口実里																																																																																										
第27回	【演習】技術の確認：バイタルサイン	田口実里																																																																																										
第28回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ①	田口実里																																																																																										
第29回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ②	田口実里																																																																																										
第30回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ③・まとめ	田口実里																																																																																										



アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修、事前課題をもとに授業を進行します。</li> <li>講義ではディスカッションがあります。</li> <li>演習はグループで進めます。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります</li> <li>授業のリアクションペーパーやミニテストはWebClassを使用します</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験（または確認テスト） 60%</li> <li>課題提出物 12% 事前課題（ミニテストなど）、事後課題（演習の振り返り）</li> <li>技術の確認 20% …合格が単位認定の必須条件</li> <li>授業への参加態度 8%</li> </ul>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に関するミニテストについては、授業で解説をします。</li> <li>リアクションペーパーの質問には、次回授業またはWebClassで回答します。</li> </ul>
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>茂野香おる他（2021）. 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.</li> <li>任和子他（2021）. 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.</li> <li>三上れつ・小松万喜子（2017）. 看護学テキストNiceヘルスアセスメント改訂第2版. 南江堂.</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂井建雄他（2020）. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院.</li> <li>医学情報科学研究所（2019）. 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版, メディックメディア.</li> <li>ナーシングスキル (<a href="https://nursingskills.jp">https://nursingskills.jp</a> エルゼビアジャパン) の動画視聴</li> </ul> <p>※その他、授業内で随時紹介します</p>
事前・ 事後学修	<p><b>【事前学修】</b></p> <p>(講義) 单元ごとに提示された課題 (WebClass) に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する</p> <p>(演習) テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する</p> <p><b>【事後学修】</b></p> <p>(講義) テキストや授業資料等で授業内容を振り返る</p> <p>(演習) 課題 (演習の振り返り: WebClass) に取り組む 演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	※必要時、随時授業内で紹介します
オフィス アワー	1号館6階1619研究室 メールアドレス: misato-t@seirei.ac.jp 随時: 事前にメールで問い合わせいただくとスムーズです。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2教室間での遠隔授業を行う場合があります。 担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。

科目名	基礎看護技術Ⅱ																																																																																											
科目責任者	田口 実里																																																																																											
単位数他	2単位 (60時間) 必修 2セメスター																																																																																											
DP番号と科目領域	DP2 専門																																																																																											
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																																																																											
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、療養生活を援助する基本的技術として、身体の清潔、食事・栄養、排泄を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。																																																																																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる</li> <li>2. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる</li> <li>3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる</li> <li>4. 対象に合わせた看護援助を考ることができる</li> <li>5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける</li> </ol>																																																																																											
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 田口実里、吉里心希、有村優範、佐久間佐織、炭谷正太郎、早川ゆかり、樫原理恵</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>科目ガイダンス</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>清潔・衣生活の基本的な知識</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>清潔・衣生活の援助の実際</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【演習】寝衣交換</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【演習】足浴</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【演習】洗髪①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【演習】洗髪②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>【演習】清拭・寝衣交換①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>【演習】清拭・寝衣交換②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価</td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）</td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>栄養（経管栄養・中心静脈栄養）</td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>【演習】技術の確認：寝衣交換</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>【演習】食事介助、口腔ケア①</td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>【演習】食事介助、口腔ケア②</td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>排泄の援助の基本的な知識</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>【演習】おむつ交換</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>【演習】陰部洗浄</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>排泄の援助の実際（導尿）</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>感染予防に必要な技術Ⅱ</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>【演習】一時導尿①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>【演習】一時導尿②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第29回</td> <td>【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ②</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第30回</td> <td>【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ</td> <td>田口実里</td> </tr> </table> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p>		第1回	科目ガイダンス	田口実里	第2回	清潔・衣生活の基本的な知識	田口実里	第3回	清潔・衣生活の援助の実際	田口実里	第4回	【演習】寝衣交換	田口実里	第5回	【演習】足浴	田口実里	第6回	【演習】洗髪①	田口実里	第7回	【演習】洗髪②	田口実里	第8回	【演習】清拭・寝衣交換①	田口実里	第9回	【演習】清拭・寝衣交換②	田口実里	第10回	食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価	吉里心希	第11回	食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）	吉里心希	第12回	栄養（経管栄養・中心静脈栄養）	吉里心希	第13回	【演習】技術の確認：寝衣交換	田口実里	第14回	【演習】食事介助、口腔ケア①	吉里心希	第15回	【演習】食事介助、口腔ケア②	吉里心希	第16回	排泄の援助の基本的な知識	田口実里	第17回	排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）	田口実里	第18回	【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①	田口実里	第19回	【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②	田口実里	第20回	【演習】おむつ交換	田口実里	第21回	【演習】陰部洗浄	田口実里	第22回	排泄の援助の実際（導尿）	田口実里	第23回	感染予防に必要な技術Ⅱ	有村優範	第24回	【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①	有村優範	第25回	【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②	有村優範	第26回	【演習】一時導尿①	田口実里	第27回	【演習】一時導尿②	田口実里	第28回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ①	田口実里	第29回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ②	田口実里	第30回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ	田口実里
第1回	科目ガイダンス	田口実里																																																																																										
第2回	清潔・衣生活の基本的な知識	田口実里																																																																																										
第3回	清潔・衣生活の援助の実際	田口実里																																																																																										
第4回	【演習】寝衣交換	田口実里																																																																																										
第5回	【演習】足浴	田口実里																																																																																										
第6回	【演習】洗髪①	田口実里																																																																																										
第7回	【演習】洗髪②	田口実里																																																																																										
第8回	【演習】清拭・寝衣交換①	田口実里																																																																																										
第9回	【演習】清拭・寝衣交換②	田口実里																																																																																										
第10回	食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価	吉里心希																																																																																										
第11回	食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）	吉里心希																																																																																										
第12回	栄養（経管栄養・中心静脈栄養）	吉里心希																																																																																										
第13回	【演習】技術の確認：寝衣交換	田口実里																																																																																										
第14回	【演習】食事介助、口腔ケア①	吉里心希																																																																																										
第15回	【演習】食事介助、口腔ケア②	吉里心希																																																																																										
第16回	排泄の援助の基本的な知識	田口実里																																																																																										
第17回	排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）	田口実里																																																																																										
第18回	【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①	田口実里																																																																																										
第19回	【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②	田口実里																																																																																										
第20回	【演習】おむつ交換	田口実里																																																																																										
第21回	【演習】陰部洗浄	田口実里																																																																																										
第22回	排泄の援助の実際（導尿）	田口実里																																																																																										
第23回	感染予防に必要な技術Ⅱ	有村優範																																																																																										
第24回	【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①	有村優範																																																																																										
第25回	【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②	有村優範																																																																																										
第26回	【演習】一時導尿①	田口実里																																																																																										
第27回	【演習】一時導尿②	田口実里																																																																																										
第28回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ①	田口実里																																																																																										
第29回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ②	田口実里																																																																																										
第30回	【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ	田口実里																																																																																										

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学修、事前課題をもとに授業を進行します</li> <li>・ 講義ではディスカッションがあります</li> <li>・ 演習はグループで進めます。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります</li> <li>・ 授業のリアクションペーパーやミニテストはWebClass を使用します</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験（または確認テスト） 50%</li> <li>・ 課題提出物 25% 事前課題（ミニテストなど）、事後課題（演習の振り返り）</li> <li>・ 技術の確認 20%（寝衣交換、血圧測定）…合格が単位認定の必須条件</li> <li>・ 授業への参加態度 5%</li> </ul>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に関するミニテストについては、授業で解説をします</li> <li>・ リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClass で回答します</li> </ul>
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茂野香おる他（2021）. 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.</li> <li>・ 任和子他（2021）. 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.</li> <li>・ 三上れつ・小松万喜子編（2017）. 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント（改訂第2版）臨床実践能力を高める, 南江堂.</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 坂井建雄 他（2020）. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院.</li> <li>・ 医学情報科学研究所（2019）. 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版, メディックメディア.</li> <li>・ ナーシングスキル (<a href="https://nursingskills.jp">https://nursingskills.jp</a> エルゼビアジャパン) 動画視聴</li> </ul> <p>※その他、授業内で随時紹介します</p>
事前・ 事後学修	<p><b>【事前学修】</b></p> <p>（講義） 单元ごとに提示された課題（WebClass）に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する</p> <p>（演習） テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する</p> <p><b>【事後学修】</b></p> <p>（講義） テキストや授業資料等で授業内容を振り返る</p> <p>（演習） 課題（演習の振り返り：WebClass）に取り組む 演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>※必要時、随時授業内で紹介します</p>
オフィス アワー	<p>1号館6階1619研究室 メールアドレス：misato-t@seirei.ac.jp</p> <p>随時：事前にメールで問い合わせいただくとスムーズです。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア 授業の実施 について	<p>2教室間での遠隔授業を行う場合があります。</p> <p>担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。</p>



アクティブ ラーニング	第7回の授業では、事前学修として調べてきたことを学生間で共有を行い、ディスカッションを行います。地域において健康をサポートする施設を把握し、健康を維持しながら生活するということを学修します。
授業内の ICT活用	リアクションペーパー、課題レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義時間内に、各自のPCを使用して探索的に課題を実施していきます。
評価方法	課題レポート70%、リアクションペーパー提出30%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーにおいて対応が必要な内容へのフィードバックは、次回の講義の中で説明します。
指定図書	河原加代子（著者代表、2022）：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I 医学書院
参考図書	授業中に随時提示します。
事前・ 事後学修	事前事後学修については、講義時間内に説明し提示します。リアクションペーパー記述時には、事後学修を行ってから取り組んでください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	講義後の休憩時間に研究室で待機します。その後は、実習指導のため実習施設へ移動することがあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 3412 研究室：emiko-y@seirei.ac.jp、樫原理恵 1616 研究室：rie-k@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目担当の山村は、「看護師・保健師」の実務経験を有します。実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とします。遠隔授業で受講する教室において、他教員が待機し質疑応答等対応します。授業時間内に教員が教室間を移動し、直接質疑に応じます。

科目名	基礎看護学実習 I
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象となる人々の医療施設における療養環境の実際を理解し、療養生活における看護の役割について考える。また、看護学生に必要な基本的態度を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の入院中の療養環境の実際を理解することができる</li> <li>2. 病院での看護実践の見学や体験をとおして、療養生活における看護の役割について考えることができる</li> <li>3. 看護学生に必要な基本的な態度を身につける</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 佐久間佐織、榎原理恵、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範 他</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、 浜松ろうさい病院、北斗わかば病院</li> <li>2. 実習期間 実習オリエンテーション 12月～1月 2回 臨地実習 2月</li> <li>3. 実習展開 実習オリエンテーション (学内) 臨地実習 (3日間) 実習成果報告会</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	到達目標に合わせ、ルーブリックを用いて評価する 実習への取り組み、態度 60%、カンファレンスへの参加度、実習記録 30%、課題レポート 10%
課題に対する フィード バック	教員との面談や体験報告会でのコメント、実習記録へのコメントなどにより、事前学修、実習記録、実習での体験についての成果や課題、解決方法についてフィードバックする。
指定図書	茂野香おる他 (2021). 系統看護学講座 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I, 医学書院. 任和子他 (2021). 系統看護学講座 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II, 医学書院. 三上れつ/小松万喜子 (2019). 看護学テキスト Nice ヘルスアセスメント改訂第 2 版, 南江堂.
参考図書	オリエンテーションや面談などで随時紹介する
事前・ 事後学修	<b>【事前学修】</b> 実習要項を熟読する 看護学原論 I、看護学原論 II、基礎看護技術 I、基礎看護技術 II の学修内容を復習する 学修した看護技術についてセルフトレーニングする 実習施設、代表的な疾患や治療について調べる <b>【事後学修】</b> 実習で質問されたことや疑問をテキストなどを使って調べる
オープンエ デュケーシ ョンの活用	事前事後学修として以下の URL のオンライン教材を利用する ナーシングスキル : <a href="https://nursingskills.jp/">https://nursingskills.jp/</a> , エルゼビアジャパン
オフィス アワー	看護学部 1 号館 6 階 1618 研究室 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である
メディア 授業の実施 について	感染状況などにより、病院での実習が実施できない場合には、遠隔での実習となる場合がある。

科目名	聖隷看護基盤実習
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>聖隷ゆかりの施設による実習で、「ともに生きる」ことや、「対人援助の営みを根底で支えているもの」について、そこに生きる方や支援する方と出会う体験を振り返ることにより、その体験の意味について建学の精神や聖隷の理念をふまえて言語化することで今後の学びの動機づけとする。本科目は看護専門職としてのあり方や、自身の生き方について考え学ぶ「聖隷の理念と歴史」と連動して展開される。看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、発展させてゆくための動機づけとする。本科目は看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるための、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目である。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖隷ゆかりの施設における創設期からの歴史的な変遷や活動を知ることができる。</li> <li>2. キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考え、意見を交わすことができる。</li> <li>3. 聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、自分の言葉で説明ができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 炭谷正太郎、入江拓、宮谷恵、天野薫、小出 扶美子、清水 隆裕、乾友紀、木村暢男、小池武嗣、室加千佳、加藤貴子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間： 4月～7月</li> <li>2. 実習場所： 聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園信生寮 聖隷おおぞら療育センター 聖隷三方原病院 ホスピス 聖隷三方原病院 精神科デイケア 和合愛光園 和合愛光園和合サテライト みるとす 浜松十字の園 細江デイサービスセンター 浜松十字の園 のんき 小羊学園三方原スクエア 浜名湖エデンの園 三方原ベテルホーム 聖隷学園 クリストファーこども園 いなさ愛光園 浜北愛光園</li> <li>3. 実習展開： 聖隷看護基盤実習は実習オリエンテーション(学内)、臨地実習(臨地)、実習のまとめ(学内)で構成する。臨地実習は4日間(1日目：学内で実習準備および実習施設へ挨拶、2～4日目：臨地実習)で展開する。</li> </ol>



アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	データベース・シミュレーション教材
評価方法	実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度50%、実習記録40%、課題レポート10%
課題に対する フィード バック	実習当日に担当教員と面談の時間を持ち、フィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	長谷川保：夜もひるのように輝く， 聖隷歴史資料館， 2001 長谷川保：神よ私の杯は溢れます， ミネルバ書房， 1983 鈴木唯男他：鷲のごとく翼をはりてのぼらん， 学校法人聖隷学園キリスト教センター， 2002
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、聖隷の理念と歴史で学修している内容を復習します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	炭谷正太郎： 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	本科目は遠隔授業の実施科目ではありません。

科目名	公衆衛生看護学概論																												
科目責任者	渡邊 輝美																												
単位数他	2単位 (30時間) 必修 2セメスター																												
DP番号と科目領域	DP2 専門																												
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																												
科目概要	地域で生活するあらゆる人々の健康について、生活を基盤に捉え、社会的な背景も踏まえ看護の立場から保持・増進し、疾病を予防していく公衆衛生看護の理念を理解する。そして、地域住民の1人ひとりの健康状態をよりよい状態にすること、および対象集団全体の健康増進と疾病予防を地域社会の組織化された努力によって実現するための対象、活動の場、展開方法を理解する。																												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護の理念、理論を理解する。</li> <li>2. 公衆衛生看護の歴史を概観し、住民にとっての意義や活動を理解する。</li> <li>3. 公衆衛生看護の対象、方法論を理解する。</li> <li>4. いろいろな場で活動する公衆衛生看護の実際を知り、展開方法を理解する。</li> </ol>																												
授業計画	<p style="text-align: center;">＜担当教員名＞渡邊輝美、三輪眞知子、若杉早苗、江口晶子 ＜授業内容・テーマ等＞</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：公衆衛生看護の理念と基本</td> <td style="text-align: right;">渡邊輝美</td> </tr> <tr> <td>第2回：公衆衛生看護の歴史（日本・外国）とこれからの公衆衛生看護活動</td> <td style="text-align: right;">三輪眞知子</td> </tr> <tr> <td>第3回：公衆衛生看護の対象の捉え方と場</td> <td style="text-align: right;">若杉早苗</td> </tr> <tr> <td>第4回：地域診断の考え方</td> <td style="text-align: right;">江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第5回：地域診断の展開方法</td> <td style="text-align: right;">江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第6・7回：公衆衛生看護活動方法</td> <td style="text-align: right;">渡邊輝美</td> </tr> <tr> <td>第8回：事業化、施策化、システム化</td> <td style="text-align: right;">三輪眞知子</td> </tr> <tr> <td>第9回：市町村における保健師の役割と活動内容</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー：池本祐子</td> </tr> <tr> <td>第10回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー：浜松市保健師</td> </tr> <tr> <td>第11回：産業における保健師の役割と活動内容</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー：曾我恵里</td> </tr> <tr> <td>第12回：学校における保健師の役割と活動内容</td> <td style="text-align: right;">養護教諭課程教員</td> </tr> <tr> <td>第13回：包括支援センターにおける看護の役割と活動内容</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー：松山美津代</td> </tr> <tr> <td>第14回：健康危機における保健師の役割と活動内容</td> <td style="text-align: right;">若杉早苗</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td style="text-align: right;">渡邊輝美</td> </tr> </table>	第1回：公衆衛生看護の理念と基本	渡邊輝美	第2回：公衆衛生看護の歴史（日本・外国）とこれからの公衆衛生看護活動	三輪眞知子	第3回：公衆衛生看護の対象の捉え方と場	若杉早苗	第4回：地域診断の考え方	江口晶子	第5回：地域診断の展開方法	江口晶子	第6・7回：公衆衛生看護活動方法	渡邊輝美	第8回：事業化、施策化、システム化	三輪眞知子	第9回：市町村における保健師の役割と活動内容	ゲストスピーカー：池本祐子	第10回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容	ゲストスピーカー：浜松市保健師	第11回：産業における保健師の役割と活動内容	ゲストスピーカー：曾我恵里	第12回：学校における保健師の役割と活動内容	養護教諭課程教員	第13回：包括支援センターにおける看護の役割と活動内容	ゲストスピーカー：松山美津代	第14回：健康危機における保健師の役割と活動内容	若杉早苗	第15回：まとめ	渡邊輝美
第1回：公衆衛生看護の理念と基本	渡邊輝美																												
第2回：公衆衛生看護の歴史（日本・外国）とこれからの公衆衛生看護活動	三輪眞知子																												
第3回：公衆衛生看護の対象の捉え方と場	若杉早苗																												
第4回：地域診断の考え方	江口晶子																												
第5回：地域診断の展開方法	江口晶子																												
第6・7回：公衆衛生看護活動方法	渡邊輝美																												
第8回：事業化、施策化、システム化	三輪眞知子																												
第9回：市町村における保健師の役割と活動内容	ゲストスピーカー：池本祐子																												
第10回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容	ゲストスピーカー：浜松市保健師																												
第11回：産業における保健師の役割と活動内容	ゲストスピーカー：曾我恵里																												
第12回：学校における保健師の役割と活動内容	養護教諭課程教員																												
第13回：包括支援センターにおける看護の役割と活動内容	ゲストスピーカー：松山美津代																												
第14回：健康危機における保健師の役割と活動内容	若杉早苗																												
第15回：まとめ	渡邊輝美																												

アクティブ ラーニング	授業内で提示する課題に対し、ディスカッションやグループワークを行う。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて理解度の確認を双方向で行う。
評価方法	課題提出物とディスカッションやグループワークの参加状況：30%、 定期試験：70%
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」医学書院
参考図書	授業中に提示する。
事前・ 事後学修	授業の最後に、次の授業の予習内容を提示し、その事前学修を基に、授業を展開する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	2 室間での遠隔授業を基本とする。対面授業にならない教室では、補助教員を配置し、適正な受講環境の維持及び質疑応答等の取次などを行う。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接、学生の質問に応じる。

科目名	公衆衛生看護学実習 I
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	地域で生活している人々の生活や生活圏を見たり、住民の活動に参加したり、その活動の役員の話を聞いたりして、「自助」や住民相互の「互助」を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域を観察する中で、公共施設、工場、商店、農地、道路、河川、公共交通機関など、その地域に存在するものが、人々の生活にどのように関係しているかを考えることができる。</li> <li>2. 住民組織の活動に参加したり、その活動の役員に話を聞いたりして、その地域の人々が、どのように助け合って生活しているかを考えることができる。</li> <li>3. 上記1及び2から、「自助」と「互助」について考えることができる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜担当教員名＞ 江口晶子、若杉早苗、渡邊輝美</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所 浜松市内の高齢者サロン等</li> <li>2. 実習期間 2月</li> <li>3. 実習展開 オリエンテーション、臨地実習、まとめで構成する。</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習記録：70% 実習に取り組む姿勢や態度：30%
課題に対する フィード バック	グループ及び全体での話し合い、実習記録を媒体にしたフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座 1「公衆衛生看護学概論」医学書院
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	本科目と関連する公衆衛生看護学概論の講義内容を活かす。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	教員は実習に出ていることも多いので、面接は事前にメールで予約をとってほしい。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教職概論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2単位 (30時間) 選択 1 Semester
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	本講義では、教育実践記録やそれへの解説を読解・検討することを通じて、現代日本における学校教育・教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力について考察を深めることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の職務内容を理解する。</li> <li>2. 児童生徒を取り巻く現代的諸課題やそれへの対応方法について、基本的な考え方を理解し、自身の考えを深めることができる。</li> <li>3. 教員個人としての力量形成のみならず、同僚教員や多職種の専門家との連携の重要性を理解し、そのあり方について考える。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教員になるとは① 教員としての養護教諭</p> <p>第3回：教員になるとは② 学校教育の役割と社会的意義</p> <p>第4回：教員になるとは③ 教員の服務・研修</p> <p>第5回：児童生徒の“問題行動”の解釈・対応①—児童生徒理解を深める—</p> <p>第6回：児童生徒の“問題行動”の解釈・対応②—共感・受容的対応の意義—</p> <p>第7回：集団づくりにおける教員の役割①—集団として児童生徒を捉える—</p> <p>第8回：集団づくりにおける教員の役割②—集団づくりと発達保障—</p> <p>第9回：地域との連携における教員の役割①—地域社会における児童生徒—</p> <p>第10回：地域との連携における教員の役割②—地域との連携・協働—</p> <p>第11回：地域との連携における教員の役割③—授業づくりと生活指導—</p> <p>第12回：養護教諭の職務・意義 元養護教諭（津田聡子先生）の講演</p> <p>第13回：現代的教育課題への対応① 現代的教育課題と教員の役割・責任</p> <p>第14回：現代的教育課題への対応② 多職種連携に向けた教員の役割</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	なし
参考図書	竹内常一『おとなが子どもと出会うとき 子どもが世界を立ち上げるとき』櫻井書店、2003年。
事前・ 事後学修	・事前学修：指定した資料を読み、理解を深める。(2回～15回) ・事後学修：追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) ※毎回の事後学修の目安時間は40分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	太田知実(1210研究室) tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は、初回授業の際に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	学校保健	
科目責任者	岡田 眞江	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター	
DP番号と科目領域	教DP(2)教職	
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。	
科目概要	学校保健安全法の目的は、児童生徒等及び教職員の健康の保持増進を図り、安全な学習環境を提供することにより、学校教育の円滑な実施とその成果を確保することにある。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための教育保健活動について学習し、学校保健・学校安全に対する知識、技術と態度を修得することを通して、養護教諭としての実践力の基礎を養う。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校保健安全法の目的・意義を説明することができる。</li> <li>2. 学校における学校保健（保健管理・保健教育）・学校安全（安全管理・安全教育）等における養護教諭の役割機能について理解を深めることができる。</li> <li>3. 学校保健における教職員が果たす役割機能を述べることができる。</li> <li>4. 組織活動に関わる地域及び社会資源について考えることができる。</li> <li>5. 児童生徒の保健管理に必要な基礎的知識・技術を身に付けて実践することができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、学校保健の目的と意義、領域と構造</p> <p>第2回 学校保健を担う教職員等の責任</p> <p>第3回 学校保健委員会、学校保健計画・学校安全計画</p> <p>第4回 児童生徒の発育発達、疾病・異常</p> <p>第5回 児童生徒の健康状態の把握と指導 (健康診断・保健調査を含む)</p> <p>第6回 教育活動全体で行う健康教育と養護教諭の役割 (保健指導・健康観察・健康相談を含む)</p> <p>第7回 健康の現代的課題への対応① (性、飲酒・喫煙・薬物乱用、食に関する課題等への対応)</p> <p>第8回 健康の現代的課題への対応② (精神疾患・ストレス・心の問題、自殺・いじめ等への対応)</p> <p>第9回 学校救急処置と養護診断 (医療的ケア・アレルギーへの対応を含む)</p> <p>第10回 安全で健康的な学校づくり(学校環境衛生)、学校安全</p> <p>第11回 感染症の予防、学校保健の評価</p> <p>第12回 学校保健における他職種との連携① 精神保健福祉士の役割と実際</p> <p>第13回 学校保健における他職種との連携② 行政保健師の役割と実際(学校保健と地域保健の連携)</p> <p>第14回 学校保健における養護教諭の職務の実際</p> <p>第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題</p>	<p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>社会福祉学部</p> <p>看護学部</p> <p>ゲストスピーカー 矢吹淑恵先生</p> <p>岡田眞江</p>



アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。</li> <li>・第5回では、健康診断の演習を行う。</li> <li>・第9回では、学校における救急処置の基本について実習・演習を行う。</li> <li>・第10回では、環境衛生検査の器具を使用する演習を行う。</li> <li>・第11回では、感染症の予防に係る演習を行う。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。</li> </ul>
評価方法	<p>リアクションペーパー・課題提出物 20%</p> <p>グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 20%</p> <p>(演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。)</p> <p>筆記試験 60% 計 100%</p>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題はコメントを添えて返却する。</li> <li>・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。</li> <li>・毎回実施する小テストについては、講義の中で解説を行う。</li> <li>・筆記試験の解答例の提示を行う。</li> </ul>
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健・安全実務研究会編著「新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）」（第一法規）</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津島ひろ江「学校における養護活動の展開」ふくろう出版</li> <li>※その他、必要時応じて随時紹介する。</li> </ul>
事前・ 事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則 40 分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと（1～11 回目）。</li> <li>・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。</li> <li>・授業後に、小テストを実施すること（1～14 回目）。</li> </ul> <p>授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。</li> </ul>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する基本的な法律・計画など <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm</a></li> <li>・学校保健、学校安全、食育 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm</a></li> <li>・小学校、中学校、高等学校 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm</a></li> <li>・特別支援教育 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm</a> など</li> </ul> <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト <a href="https://www.gakkohoken.jp/">https://www.gakkohoken.jp/</a></p>
オフィス アワー	<p>科目責任者：岡田 眞江 研究室 (1711)、メールアドレス (<a href="mailto:masae-o@seirei.ac.jp">masae-o@seirei.ac.jp</a>)</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から 18 時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。</p>
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教育制度論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>いかにすぐれた教育の思想や実践も、現代社会においては「制度化」されることによって、はじめて広く実現される。そうして作られた学校制度は、教職員を含む実にさまざまな人々の知恵と工夫で動かされることによって、はじめて高い効果を発揮する。</p> <p>本講義では複雑化する教育課題をふまえて、これからの教師そして国民全体に必要な、教育の制度に関する知識の習得をめざすとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教育制度に向き合う力量の基礎を培う。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職に必要な教育制度に関する基礎概念、諸学説、基本的論点、課題に関する理解を深める。</li> <li>2. 子どもや青年の学び・アイデンティティ形成と、それをめぐる教育制度との関係について、積極的・能動的に探究する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：現代教育の制度① 公教育の原理と理念</p> <p>第3回：現代教育の制度② 教育法制の概要</p> <p>第4回：現代教育の制度③ 教育行政と教育政策</p> <p>第5回：地方教育政策の展開① 学校と地域の連携をめぐる論点</p> <p>第6回：地方教育政策の展開② 教育委員会制度の理念</p> <p>第7回：地方教育政策の展開③ 教育委員会制度の仕組み</p> <p>第8回：学校経営の原理と展開① 学校経営の基本理念・組織と過程</p> <p>第9回：学校経営の原理と展開② 「学力」「生きる力」と教育経営</p> <p>第10回：学校経営の原理と展開③ 日米における教員評価</p> <p>第11回：開かれた学校づくり① 学校を基盤とした地域連携の展開と課題</p> <p>第12回：開かれた学校づくり② コミュニティ・スクールと地域学校協働本部</p> <p>第13回：教育制度の現代的課題① 安心・安全の学校づくり</p> <p>第14回：教育制度の現代的課題② 格差社会と教育</p> <p>第15回：講義のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	古田薫・山下晃一編著『よくわかる教職エクササイズ 法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、 2020年。
参考図書	授業中に適時提示します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：テキストの該当箇所を目を通しておく。(2回～15回)</li> <li>・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回)</li> </ul> <p>※毎回の事後学修の目安時間は40分です。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	太田知実(1210研究室) <a href="mailto:tomomi-ot@seirei.ac.jp">tomomi-ot@seirei.ac.jp</a> 詳細は初回の授業で提示する。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	医療法学	
科目責任者	熊澤 武志	
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	社会の中で人と人が物事を円滑に遂行するためには法という一定のルールを守る必要がある。医療従事者もその責務を果たす上で法を遵守することは重要であり、医療従事者が法に違反することは、社会における医療への信用・信頼を失墜させる要因になりかねない。本科目では、種々の事例を踏まえ、将来、医療従事者として働くために必要な法的知識を身につけることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法の基本的原理と裁判のしくみについて説明できる。</li> <li>2. 医療従事者の民事責任、刑事責任、行政処分について理解できる。</li> <li>3. 犯罪被害者や犯罪者に対する医療について理解できる。</li> <li>4. 医療安全を学ぶことの重要性について理解できる。</li> <li>5. 医療従事者の裁判事例から医療事故の問題点を述べることができる。</li> <li>6. 医療従事者を取り巻く法的知識について関心を高めることができる。</li> </ol>	
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第 1 回：法のしくみと裁判のしくみ 第 2 回：医療従事者と民事責任 第 3 回：医療従事者と刑事責任・行政処分 第 4 回：犯罪被害者及び犯罪者に対する法律と医療 第 5 回：医療安全 第 6 回：医療関連死 第 7 回：医事紛争 第 8 回：医療従事者と裁判・まとめ	<担当教員名>  熊澤 武志 長谷川 智華 長谷川 智華 長谷川 智華 佐久間 由美 長谷川 弘太郎 藤井 輝 熊澤 武志

アクティブラーニング	授業ではリアクションペーパーの作成のほか、学生同士のディスカッションも取り入れながら進めます。
授業内のICT活用	WebClass を活用したリアクションペーパーの作成・提出、レポートの提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	平常点（50％）とレポート（50％）を総合的に評価します。平常点にはリフレクション課題の提出と記述内容が含まれます。なお、レポートの評価法にはルーブリックは用いません。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では、リアクションペーパー作成事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	熊澤武志（看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は看護師、医師、弁護士、法医鑑定や医療訴訟の経験を有する講師陣が実務の観点を踏まえて教授します。
メディア授業の実施について	なし

科目名	キャリアデザイン
科目責任者	山村 江美子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 教養基礎
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	看護専門職の多様なキャリアコースを理解するとともに、看護専門職として活躍するために必要な社会人基礎力を身につける。また、キャリアの考え方を広げながら、社会人基礎力とキャリアデザインとの関連を踏まえ、自身のキャリアデザインを描く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職の多様なキャリアコースを理解できる。</li> <li>2. 看護専門職に求められる社会人基礎力を理解し、キャリアデザインとの関連を考えることができる。</li> <li>3. 看護専門職としての自分自身のキャリアデザインを描くことができる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員&gt;</span></p> <p>第1回：オリエンテーション、キャリアデザイン・社会人基礎力と何か 山村江美子、渡邊輝美、小出扶美子、村松美恵</p> <p>第2回：社会人基礎力を身につける (1) 看護専門職としてのマナー <span style="float: right;">小出扶美子</span></p> <p>第3回：社会人基礎力を身につける (2) チームで働く力 <span style="float: right;">山村江美子</span></p> <p>第4回：看護専門職の多様なキャリアコース <span style="float: right;">渡邊輝美</span></p> <p>第5回：先輩看護専門職者のキャリアデザイン 助産師としてのキャリア形成 <span style="float: right;">ゲストスピーカー (助産師)</span></p> <p>第6回：先輩看護専門職者のキャリアデザイン 高度実践専門看護師 (CNS) としてのキャリア形成 ゲストスピーカー 急性・重症患者看護専門看護師 桑原美香</p> <p>第7回：「キャリア・キャリアデザイン」を考える (グループワーク) 村松美恵、山村江美子、渡邊輝美、小出扶美子</p> <p>第8回：「キャリア・キャリアデザイン」を考える (グループワークと発表) 村松美恵、山村江美子、渡邊輝美、小出扶美子</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画に沿って課題を提示する。</li> <li>・授業中やリアクションペーパーの質問や意見については、授業時または WebClass で回答する。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、自己学習をする。
評価方法	<p>本科目の評価は以下の3点で行い、レポートはルーブリックを用いて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート①：社会人基礎力に関するもの 30%</li> <li>・課題レポート②：自分自身のキャリアデザインについて 30%</li> <li>・グループ発表と発表資料 20%</li> <li>・授業への参加態度 20%</li> </ul>
課題に対する フィード バック	・課題やリアクションペーパーでの質問や意見に対する回答は、授業時または WebClass で行う。
指定図書	・「就職ガイドブック」、「キャリアガイドブック」 本学キャリア支援センター作成資料
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学習時間の目安はそれぞれ 20 分（計 40 分）を目安とする。</p> <p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業で提示された課題に取り組み授業に参加する。また、各自授業テーマに関連する文献や資料等を探して目を通しておくことも良い。</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容を振り返り、わからなかったこと、気になったこと等を調べる。</li> </ul>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>自主学习として、以下の視聴を勧めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本看護協会 <a href="https://www.nurse.or.jp/">https://www.nurse.or.jp/</a> 看護実践情報 看護に関するよくあるご質問 <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/faq/index.html">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/faq/index.html</a></li> <li>・日本看護系大学協議会 <a href="http://www.janpu.or.jp/">http://www.janpu.or.jp/</a></li> </ul>
オフィス アワー	<p>事前にメールでアポイントを取った後に訪室してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山村江美子 (3412 研究室：emiko-y@seirei.ac.jp)</li> <li>・渡邊輝美 (1209 研究室：terumi-w@seirei.ac.jp)</li> <li>・小出扶美子 (2713 研究室：fumiko-k@seirei.ac.jp)</li> <li>・村松美恵 (2711 研究室：mie-t@seirei.ac.jp)</li> </ul>
実務経験に 関する記述	本科目は看護師・助産師・保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で実施する教室においては、補助教員として山村江美子、渡邊輝美、小出扶美子、村松美恵を配置し、質疑応答等に対応する。

科目名	英語Ⅲ（看護英語）
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	「グローバル看護」の概念を中心に、看護職者に求められる多言語・多文化への対応力を養う。本科目を通して対象者の多様性を理解し、英語での看護コミュニケーションに慣れる。前半は講義と視聴覚教材で「看護英語」の世界に親しみ、語彙力、およびロールプレイ等に必要な対話力の基礎を養う。後半は外国人保健医療の課題についてグループワークで学修し、英語でプレゼンテーションを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 看護の専門用語、ケアに関する語句を英語で 300 語以上覚える。</li> <li>② 基本的な看護ケアに必要なコミュニケーションを英語で実践できる。患者さんへの問診、アセスメントが英語で実施できる。バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。</li> <li>③ 地域在住の外国人保健医療について考える機会を持ち、地域で展開する「グローバル看護」についてグループワークを通して理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 渥美陽子、パターンソン・ドナルド、土江綾</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位</p> <p>第 2 回：Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする</p> <p>第 3 回：Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する</p> <p>第 4 回：Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする</p> <p>第 5 回：Taking Vital Signs バイタルサインを確認する</p> <p>第 6 回：発表会</p> <p>第 7 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 8 回：Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする</p> <p>第 9 回：Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする</p> <p>第 10 回：Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助・援助する</p> <p>第 11 回：Caring for Inpatients 入院患者のケアをする</p> <p>第 12 回：Coping with Emergencies 緊急時に対処する</p> <p>第 13 回：グループワーク</p> <p>第 14 回：グループ発表会</p> <p>第 15 回：期末テスト、まとめ</p>



アクティブ ラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は地域在住の外国人保健医療に関する課題を取り上げ、問題解決型プロジェクトをグループで行い、発表する。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。</li> <li>・ 事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。</li> <li>・ Google 機能を用いてグループ発表の準備、発表を共同編集・同時参加型にする。</li> </ul>
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表・課題30%、期末テスト20%
課題に対する フィード バック	小テスト・課題・中間／最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Caring for People』M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder（作者）（Cengage センゲージ）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べて確認し（発音記号を含む）、不明な点・課題を明らかにする。音声ファイルを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習を行う。表現の定着、内容の理解を深める。学修時間の目安：事前学修30分～1時間、事後学修30分～1時間程度。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	保健統計学
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	根拠に基づく看護の実践において、さまざまなデータを正しく理解し適切に活用するための統計学の知識は必要不可欠である。この科目では、看護専門職者に求められる統計学について、基礎的な理論と分析手法を系統的に学修することを目的とする。単なる暗記ではなく、論理的に考えて結論を導き出す過程に重点を置く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。</li> <li>2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。</li> <li>3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。</li> <li>4. 相関係数の意味および算出方法を説明し、検定および推定ができる。</li> <li>5. クロス表を作成し、検定ができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： データの性質、母集団と標本</p> <p>第2回： 分布を描く</p> <p>第3回： 分布の代表値</p> <p>第4回： 分布の散布度</p> <p>第5回： 確率分布・正規分布</p> <p>第6回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第7回： 割合に関する分布</p> <p>第8回： 統計的仮説検定</p> <p>第9回： 2グループの母平均値の差の検定</p> <p>第10回： 1変数についての解析まとめ</p> <p>第11回： 相関図と相関係数</p> <p>第12回： 相関係数の検定と推定、クロス集計</p> <p>第13回： クロス表の検定、関連係数</p> <p>第14回： 2x2のクロス表について</p> <p>第15回： 2変数についての解析まとめ</p>

アクティブ ラーニング	学習管理システム(WebClass)を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行います。
授業内の ICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向授業を実施します。
評価方法	小テスト 30%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	演習問題や小テストの解説、リアクションペーパーに対するコメントなど、口頭や資料配布、学習管理システム(WebClass)への提示などによって行います。
指定図書	高木廣文『ナースのための統計学 第2版』医学書院
参考図書	必要に応じて随時紹介します。
事前・ 事後学修	事前学修：次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（15分）。 事後学修：教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（40分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時学習管理システム(WebClass)に掲載します。 事前・事後学修に活用してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	隆朋也：看護学部, 1605 研究室 (1号館6階) 基本的に木曜日 15時～17時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール (tomoya-t@seirei.ac.jp) で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	疫学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 5セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	集団における健康問題の現状を明らかにするために、問題としている健康問題の発生の程度であるリスクとそのリスクを変化させる要因を探し、両者の因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論、実際の場面における適用方法を習得する。具体的には疫学の歴史的背景、調査・研究方法、リスクの算出方法、因果関係立証の条件とその阻害要因、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学修する。
到達目標	人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチの考え方を習得することを目標とする。 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス・疫学の概念と歴史 第2回 疫学の専門用語 第3回 疫学的因果論① 疫学的病因論 第4回 疫学的因果論② 因果関係の立証 第5回 疫学指標① 健康指標 第6回 疫学指標② 関連の指標 第7回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究 第8回 疫学研究法② コホート研究 第9回 疫学研究法③ 症例対照研究 第10回 疫学指標③ 関連の指標 第11回 疫学研究法④ 介入研究、臨床試験 第12回 疫学調査法 第13回 疫学の応用 第14回 スクリーニング検査① 原理と方法 第15回 スクリーニング検査② 検査精度の評価</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	日本疫学会 はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版 南江堂
参考図書	Rothman J,K 著 矢野栄二他 訳 ロスマンの疫学 科学的思考への誘い 篠原出版新社 2013 柳川 洋 疫学マニュアル 改訂7版 南山堂 丸井英二 疫学/保健統計 第3版 (最新保健学講座6) メヂカルフレンド社
事前・ 事後学修	公衆衛生学についての十分な学力を備えていることが受講の要件です。これについては各自復習(自己学習)してください。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。事前・事後学修では結果や方法を単に暗記するだけでなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	公衆衛生学は人間集団を対象とした健康を保持、増進、予防するための実践的科学であり、同時に社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための学問でもある。そのような公衆衛生学の現状を理解し、健康問題解決のための手段を学修する。具体的には、予防の概念とその種類、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、産業衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	集団における健康問題の実態と原因を明らかにし、保健・医療・福祉の現状を理解する。 1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 公衆衛生の概念  第2回 疾病予防、健康増進、公衆衛生活動  第3回 人口統計① (人口静態統計、平均余命)  第4回 人口統計② (人口動態統計)  第5回 健康指標  第6回 生活習慣病の予防① (総論、健康づくり)  第7回 生活習慣病の予防② (栄養、運動、休養、その他)  第8回 感染症とその対策① 感染症予防法、検疫、その他  第9回 感染症とその対策② 予防接種、その他  第10回 食品衛生 食中毒、食品汚染  第11回 産業保健  第12回 生活環境① 居住環境、室内汚染  第13回 生活環境② 上下水道、廃棄物  第14回 生活環境③ 騒音、振動、大気汚染  第15回 環境保健 地球環境問題 (地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、その他)</p>

アクティブラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内のICT活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対するフィードバック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学 2022 南江堂 国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会
参考図書	医療情報科学研究所 編 公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア 2018 丸井英二 編著 わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学 弘文堂 2020
事前・事後学修	前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。事前・事後学修では定義や法令、計算方法等を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	保健医療行政論
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康で文化的な最低限度の生活を営むことは憲法に保障された国民の権利である。そのために必要であり、用意されている保健医療福祉行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みとその財源である国と地方自治体の財政と医療経済を学修する。また、保健福祉計画の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。
到達目標	わが国における保健医療福祉行財政および保健医療福祉サービスの基礎的知識を学ぶ。また、地方公共団体における保健医療福祉行政施策に関する基礎的知識を学ぶ。 1. 我が国における保健福祉政策の現状を把握する。 2. 保健医療福祉行政のしくみを学ぶ。 3. 社会保障・社会福祉制度のしくみを学ぶ。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 イントロダクション、保健医療福祉行政の概念  第2回 保健医療福祉行財政の仕組み①(行政組織、地方自治体)  第3回 保健医療福祉行財政の仕組み②(財政基盤、医療費)  第4回 保健医療福祉行財政の仕組み③(国際保健・国際協力)  第5回 社会保険制度① 医療保険制度、国民健康保険  第6回 社会保険制度② 被用者保険  第7回 社会保険制度③ 年金保険制度、国民年金  第8回 社会保険制度④ 厚生年金、その他  第9回 社会保険制度⑤ 介護保険制度、介護認定  第10回 社会保険制度⑥ 介護サービス  第11回 社会保険制度⑦ 雇用保険、労働者災害補償保険  第12回 社会福祉制度① 生活保護  第13回 社会福祉制度② 障害者福祉  第14回 社会福祉制度③ 児童家庭福祉  第15回 社会福祉制度④ 高齢者福祉</p>



アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 医学書院
参考図書	保健医療福祉行政論 メジカルフレンド社 国民の福祉と介護の動向 2022/2023 厚生統計協会 保険と年金の動向 2022/2023 厚生統計協会 国民衛生の動向 2022/2023 厚生統計協会
事前・ 事後学修	公衆衛生学の基礎知識と前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	養護概説		
科目責任者	岡田 眞江		
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター		
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎		
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。		
科目概要	学校における養護（看護）活動には、児童生徒等の保健管理・安全管理、保健教育・安全教育、学校保健に関する教職員との組織活動などがある。学校は、発達発育期にある児童生徒等を対象に、生涯にわたり健康な生活をするために必要な健康に関する基本的な知識・技術・態度の形成を図る教育の場である。学校組織及び児童生徒の特徴、保健室の役割と養護教諭の教育活動について学び、養護実践の基礎を養う。		
到達目標	<p>養護教諭の職務内容に関する基礎的な知識及び指導・支援の方法を修得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校保健の対象である児童生徒等の特性と発育発達課題を述べることができる。</li> <li>2. 児童生徒等の心身の健康と安全に関する実態と課題について理解を深めることができる。</li> <li>3. 学校における養護教諭の役割と校内組織との関連を考えることができる。</li> <li>4. 専門職の養護教諭として必要な知識・技術・態度を身に付けることができる。</li> <li>5. 学校内外の保健関係組織との連携及び協働活動の必要性と養護教諭の役割を説明できる。</li> </ol>		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%; text-align: left;"> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性</p> <p>第2回 養護教諭の免許と養成制度</p> <p>第3回 児童生徒の健康実態の把握と課題</p> <p>第4回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価</p> <p>第5回 学校保健計画・学校安全計画、組織活動 (学校保健計画との整合性を図り保健室経営計画の作成)</p> <p>第6回 保健管理－健康診断と疾病管理 (健康診断の事後措置と疾病管理)</p> <p>第7回 保健管理－感染症の予防</p> <p>第8回 保健管理－救急処置と救急処置体制の整備 (救急処置の実技を含む)</p> <p>第9回 保健管理－学校安全・危機管理 (危機管理に係るマニュアルの作成)</p> <p>第10回 保健管理－学校環境衛生活動</p> <p>第11回 健康相談・健康相談活動</p> <p>第12回 保健教育－保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成</p> <p>第13回 特別支援教育における養護活動</p> <p>第14回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議、評価</p> <p>第15回 組織活動－チーム学校で推進する学校保健活動と関係職員 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題</p> </td> <td style="width: 30%; text-align: right; vertical-align: top;"> <p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>岡田眞江</p> <p>ゲストスピーカー 津島ひろ江先生</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> </td> </tr> </table>	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性</p> <p>第2回 養護教諭の免許と養成制度</p> <p>第3回 児童生徒の健康実態の把握と課題</p> <p>第4回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価</p> <p>第5回 学校保健計画・学校安全計画、組織活動 (学校保健計画との整合性を図り保健室経営計画の作成)</p> <p>第6回 保健管理－健康診断と疾病管理 (健康診断の事後措置と疾病管理)</p> <p>第7回 保健管理－感染症の予防</p> <p>第8回 保健管理－救急処置と救急処置体制の整備 (救急処置の実技を含む)</p> <p>第9回 保健管理－学校安全・危機管理 (危機管理に係るマニュアルの作成)</p> <p>第10回 保健管理－学校環境衛生活動</p> <p>第11回 健康相談・健康相談活動</p> <p>第12回 保健教育－保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成</p> <p>第13回 特別支援教育における養護活動</p> <p>第14回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議、評価</p> <p>第15回 組織活動－チーム学校で推進する学校保健活動と関係職員 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題</p>	<p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>岡田眞江</p> <p>ゲストスピーカー 津島ひろ江先生</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p>
<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性</p> <p>第2回 養護教諭の免許と養成制度</p> <p>第3回 児童生徒の健康実態の把握と課題</p> <p>第4回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価</p> <p>第5回 学校保健計画・学校安全計画、組織活動 (学校保健計画との整合性を図り保健室経営計画の作成)</p> <p>第6回 保健管理－健康診断と疾病管理 (健康診断の事後措置と疾病管理)</p> <p>第7回 保健管理－感染症の予防</p> <p>第8回 保健管理－救急処置と救急処置体制の整備 (救急処置の実技を含む)</p> <p>第9回 保健管理－学校安全・危機管理 (危機管理に係るマニュアルの作成)</p> <p>第10回 保健管理－学校環境衛生活動</p> <p>第11回 健康相談・健康相談活動</p> <p>第12回 保健教育－保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成</p> <p>第13回 特別支援教育における養護活動</p> <p>第14回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議、評価</p> <p>第15回 組織活動－チーム学校で推進する学校保健活動と関係職員 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題</p>	<p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>岡田眞江</p> <p>ゲストスピーカー 津島ひろ江先生</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p>		
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。</li> <li>・第5回では、保健室経営計画作成の演習を行う。</li> <li>・第6回では、健康診断の演習を行い、児童生徒の健康状態・発達発達の評価を行う。</li> <li>・第7回では、感染症の予防に係る演習を行う。</li> <li>・第8回では、保健室等の場面における救急処置の事例についての実習・演習を行う。</li> <li>・第9回では、環境衛生検査の演習を行い、学習環境の評価を行う。</li> <li>・第14回では、作成した指導案に基づく模擬授業を行う。</li> </ul>		

授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業においてはプレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。</li> <li>グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行う。</li> </ul>
評価方法	<p>リアクションペーパー・課題提出物 20% / グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度（演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。） 20%</p> <p>筆記試験 60% 計100%</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題はコメントを添えて返却する。</li> <li>・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。</li> <li>・毎回実施する小テストについては、講義の中で解説を行う。</li> <li>・個人課題（保健室経営計画の作成他）、グループ課題（保健指導案の作成、保健だよりの作成、学校環境衛生検査の評価他）については、授業の中で解説を行い、各個人・グループの内容について共有する。</li> <li>・筆記試験の解答例の提示を行う。</li> </ul>
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津島ひろ江「養護教諭養成講座① 学校における養護活動の展開」ふくろう出版</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。</li> <li>・第5回では、保健室経営計画作成の演習を行う。</li> <li>・第6回では、健康診断の演習を行い、児童生徒の健康状態・発達発達の評価を行う。</li> <li>・第7回では、感染症の予防に係る演習を行う。</li> <li>・第8回では、保健室等の場面における救急処置の事例についての実習・演習を行う。</li> <li>・第9回では、環境衛生検査の演習を行い、学習環境の評価を行う。</li> <li>・第14回では、作成した指導案に基づく模擬授業を行う。</li> </ul>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業においてはプレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。</li> <li>グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行う。</li> </ul>
オープンエデュケーションの活用	<p>リアクションペーパー・課題提出物 20%</p> <p>グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度</p> <p>（演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。） 20%</p> <p>筆記試験 60% 計100%</p>
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題はコメントを添えて返却する。</li> <li>・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。</li> <li>・毎回実施する小テストについては、講義の中で解説を行う。</li> <li>・個人課題（保健室経営計画の作成他）、グループ課題（保健指導案の作成、保健だよりの作成、学校環境衛生検査の評価他）については、授業の中で解説を行い、各個人・グループの内容について共有する。</li> <li>・筆記試験の解答例の提示を行う。</li> </ul>
実務経験に関する記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津島ひろ江「養護教諭養成講座① 学校における養護活動の展開」ふくろう出版</li> </ul>
メディア授業の実施について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三木とみ子編「新訂 養護概説」ぎょうせい</li> <li>・学校保健安全実務研究会編 「新訂版 学校保健実務必携」第一法規</li> </ul> <p>※その他、必要時応じて随時紹介する。</p>

科目名	臨床心理学
科目責任者	松瀬 留美子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	臨床心理学は心の問題を抱えるクライアントの理解と心理的援助の方法について研究・実践する学問である。本講では、臨床心理学の概念と心理的援助の方法について学び、精神医学的な知見も取り入れ、発達障害や人格病理、精神障害、依存症などについて基礎的な知識と心理的支援の方法を理解する。また、学校教育現場で取り上げられることの多い課題から、いじめや不登校、虐待について現状を理解し、映像資料や絵本を用いて心の世界と支援方法を検討する。本科目で学ぶ臨床心理学の理論、アセスメントや関係者との連携に関する知識は、養護教諭が行う健康相談に活用できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理臨床的なアセスメントについて理解する。</li> <li>2. 学校におけるいじめ、不登校の現状の理解と心理支援、児童虐待の心理と対応、発達障害、性別違和、ゲーム依存などの心理問題と児童青年期を中心としたメンタルヘルスについて理解する。</li> <li>3. 養護教諭が行う健康相談活動に必要な臨床心理学の理論、アセスメント・連携の方法について理解する。【養護教諭課程履修者】</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：生きる力と臨床心理学—臨床心理学の目的と方法</p> <p>第2回：心理療法の概観① 精神分析、クライアント中心療法、芸術療法</p> <p>第3回：心理療法の概観② 内観療法、森田療法、行動療法</p> <p>第4回：心理検査の概観と自己理解</p> <p>第5回：不登校の理解と学校における支援</p> <p>第6回：いじめ問題①中学校生徒の事例呈示</p> <p>第7回：いじめ問題②いじめの構造と学校における支援</p> <p>第8回：発達障害①自閉スペクトラム症の診断基準と児童青年期の状態像</p> <p>第9回：発達障害②注意欠如多動症の状態像、発達障害生徒・学生への対応</p> <p>第10回：虐待と学校臨床、子どもの障害と虐待問題</p> <p>第11回：思春期に起りやすい課題—摂食障害、リストカットと学校での対応</p> <p>第12回：同一性の課題—性的少数者の理解と学校での対応</p> <p>第13回：神経症的問題と精神障害—対人恐怖、うつ病、統合失調症</p> <p>第14回：依存症、ゲーム障害</p> <p>第15回：青年期の事例と心理臨床、授業のまとめ</p>

アクティブラーニング	適応に困難をきたしているクライアントの理解と支援のために必要な面接の知識は、事例検討とディスカッションにより、臨床場面で生かせる確かな実践力を身につける。
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験 60%、授業内課題（リアクションペーパー） 40%、 計 100%
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーのフィードバックは授業で全体に総評することで対応する。期末試験は解答のポイントと採点基準を明示する。
指定図書	『心とかかわる臨床心理』 第3版（2015）DSM5 準拠 ナカニシヤ出版 川瀬正裕他編 テキストはI, II, V章を中心に取り上げ、適宜、資料を配布する。この他、各自で読みやすい「臨床心理学」関連の入門書を選択して読むこと
参考図書	『絵本に学ぶ臨床心理学序説』第2版（2013）ナカニシヤ出版 松瀬喜治編
事前・事後学修	① 予習として次回授業分の教科書の要約（20分）2～15回目 ② 復習として配布資料のまとめもしくは授業内容のミニレポートの作成（20分）2～10回目
オープンエデュケーションの活用	衛星放送 BS 放送テレビ 放送大学 「心理学」「臨床心理学」「精神医学」関連の講義 東大テレビ <a href="https://todai.tv/">https://todai.tv./</a> 「心」「精神医学」関連の講座
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」「学校心理士」の有資格者で実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	カウンセリング
科目責任者	柴田 俊一
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	日常生活における相談が個人の考えや経験をもとに行われることが多いのに対して、カウンセリングは臨床心理学の考え方を基盤に「クライアント(相談に訪れた人)をどのように理解し、いかに関わるのか」を吟味しながら行われる。本講義の目的は、カウンセリングの基礎知識の学習を通して、看護における心理的援助のあり方を考えることである。また、本科目で学ぶカウンセリングの基本理論・技法は、養護教諭が行う健康相談活動にも有用である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの基本姿勢と基本技法を理解する。</li> <li>2. カウンセリングにおける「聴く」ことの意義を理解する。</li> <li>3. カウンセリングのプロセスを理解する。</li> <li>4. カウンセリングにおける心理アセスメントの意義と方法を理解する。</li> <li>5. カウンセリングの基盤となる臨床心理学の理論の要点を理解する。</li> <li>6. 健康相談活動を行う上で基礎となるカウンセリングの理論と技法を理解する。</li> </ol> <p>[養護教諭課程履修者]</p>
授業計画	<p>第1回： カウンセリングとは何か</p> <p>第2回： カウンセリングの基本姿勢</p> <p>第3回： カウンセリングの基本技法 聞き上手とは？</p> <p>第4回： クライアント中心療法</p> <p>第5回： 非言語的メッセージとカウンセリング</p> <p>第6回： カウンセリングの流れ</p> <p>第7回： 心理アセスメント(1)</p> <p>第8回： 心理アセスメント(2)</p> <p>第9回： 精神分析療法の視点から</p> <p>第10回： 自己理解を深める演習</p> <p>第11回： 家族療法の視点から(1)</p> <p>第12回： 家族療法の視点から(2)</p> <p>第13回： 遊戯療法・芸術療法の視点から</p> <p>第14回： 行動療法・認知行動療法の視点から</p> <p>第15回： 自己表現について学ぶ演習</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート 100%で評価する。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の後に、テキストの該当箇所を目を通すこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	生化学
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生化学は生物を構成する物質や生物の生命現象を化学的に研究する学問である。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、生命活動との関連性を化学的・分子レベル的に理解することを目的とする。生化学で学ぶ用語や名称は、医療における共通言語であり、他の専門基礎科目や看護専門科目の理解につながる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 酵素、ビタミン・補酵素について説明できる。</li> <li>2. 糖質の構造、機能、代謝について説明できる。</li> <li>3. 脂質の構造、機能、代謝について説明できる。</li> <li>4. タンパク質の構造、機能、代謝について説明できる。</li> <li>5. ポルフィリン代謝と異物代謝について説明できる。</li> <li>6. 遺伝子発現の仕組みについて説明できる。</li> <li>7. 細胞内のシグナル伝達について説明できる。</li> <li>8. がんの性質と薬物療法について述べるができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：生化学を学ぶための基礎知識</p> <p>第 2 回：代謝の基礎と酵素・補酵素</p> <p>第 3 回：糖質の構造と機能 (1)</p> <p>第 4 回：糖質の代謝 (1)</p> <p>第 5 回：糖質の代謝 (2)</p> <p>第 6 回：脂質の構造と機能</p> <p>第 7 回：脂質の代謝 (1)</p> <p>第 8 回：脂質の代謝 (2)</p> <p>第 9 回：タンパク質の構造と機能</p> <p>第 10 回：タンパク質の代謝</p> <p>第 11 回：ポルフィリン代謝と生体の異物代謝</p> <p>第 12 回：遺伝情報とその発現 (1)</p> <p>第 13 回：遺伝情報とその発現 (2)</p> <p>第 14 回：細胞のシグナル伝達とがん (1)</p> <p>第 15 回：細胞のシグナル伝達とがん (2)</p>



アクティブラーニング	整理問題を用いた自主学修やリフレクション課題に取り組むほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れる。
授業内のICT活用	WebClass を活用したリアクションペーパーの作成、整理問題の提示、質問の受付や回答等を行う。また、授業ではスライドプロジェクターを利用する。
評価方法	定期試験（80%）、リフレクション課題への記述内容（20%）を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーは毎時間提出するが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりする。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [2] 生化学、畠山鎮次 著、第14版、医学書院
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	リアクションペーパー作成や整理問題を解く等して、授業内容の整理・理解に努める。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料は、事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用する。なお、この授業ではリアクションペーパーの作成も含めて、事前学修に40分程度、事後学修に40分程度を必要とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	病理・病態	
科目責任者	大石 ふみ子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	<p>病理学とは病気の原因や病変の成り立ち、その経過など疾病の本質について学んでいく分野である。「すりむいた傷が自然に治ってしまった」といった日常よくある現象は、病理学では「組織修復と再生」で説明することができ、臨床の現場でしばしば遭遇する「褥瘡」については、病理学で学ぶ皮膚の「循環障害」が基本的な原因となっている。脳卒中や心筋梗塞も脳、心臓の「循環障害」である。また、現在死亡原因の第1位である「がん」に関しては、病理学ではその発生原因、その後の経過について多くの研究がなされている。このように病理学では、病理学総論の「細胞障害と細胞増殖」「組織、細胞の修復と再生」「循環障害」「炎症」「腫瘍」「代謝異常」「遺伝と先天異常」を通じて、多くの疾患の発生機序や経過などを理解することができる。また、実際に病院で行なわれている病理診断、病理解剖についても紹介したい。講義資料を配布し、質問しながら講義を進める。授業中の講義はパワーポイントで作成したスライドを用いて行う。</p>	
到達目標	様々な疾患についての病理・病態を理解する。	
授業計画	<p>第1回：病理学とは何か？ 細胞障害と細胞増殖&lt;第1, 2章参照&gt;</p> <p>第2回：組織細胞の修復と再生（再生，化生，創傷治癒，異物の処理について） &lt;第3章参照&gt;</p> <p>第3回：循環障害1（循環障害って何？ 心臓の循環障害）&lt;第4, 12章参照&gt;</p> <p>第4回：循環障害2（高血圧症と動脈硬化症，脳の循環障害） &lt;第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照&gt;</p> <p>第5回：炎症1（炎症とは？ 急性炎症と慢性炎症）&lt;第5章参照&gt;</p> <p>第6回：炎症2（様々な臓器における炎症） &lt;第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照&gt;</p> <p>第7回：腫瘍1（腫瘍の形態，癌の発育と転移，良性腫瘍と悪性腫瘍，腫瘍の分化度） &lt;第8章参照&gt;</p> <p>第8回：腫瘍2（細胞増殖、腫瘍発生の要因と癌遺伝子について）&lt;第2, 8章参照&gt;</p> <p>第9回：老化と再生（老化と遺伝子、遺伝子修復、組織・細胞の再生について） &lt;第2, 3章参照&gt;</p> <p>第10回：腫瘍3（癌の疫学、摘出された様々な腫瘍）&lt;第8章参照&gt;</p> <p>第11回：骨（骨の吸収と形成，骨折の治癒，筋肉の萎縮と炎症，骨・軟部腫瘍） &lt;第19章参照&gt;</p> <p>第12回：遺伝と先天異常（遺伝病、染色体異常症、遺伝子診断法について） &lt;第9章参照&gt;</p> <p>第13回：代謝異常1（タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際） &lt;第10章参照&gt;</p> <p>第14回：代謝障害2（タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム） &lt;第10章参照&gt;</p> <p>第15回：病理組織細胞診断（病理組織診断，細胞診断，病理解剖の実際） &lt;第23章参照&gt;</p>	<p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>岩下雄二</p> <p>岩下雄二</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>岩下雄二</p> <p>安見和彦</p> <p>岩下雄二</p> <p>安見和彦</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験（100%）にて評価する。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	笹野公伸、安井弥、岡田保典編「シンプル病理学」南江堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。 2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。 また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	健康障害論 I
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康障害によっておこる疾患には、全身的にあるいは臓器や器官別にさまざまな種類がある。「健康障害論 I」では、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「健康障害論 I」では、①循環器系、②呼吸器系、③腎・泌尿器系、④消化器系の代表的な疾患、および⑤手術療法における麻酔法についても学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患の治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	1. 呼吸器系の疾患 (橋本 大 4回) 呼吸器系の代表的な疾患と治療・予防および看護について講義する。 1) 基礎知識 (構造と生理・症状と病態生理・検査と治療・処置) 肺の構造と生理機能について復習しておいて下さい。 咳や痰など重要な呼吸器症状について教科書を予習しておいてください。 2) 疾患の理解 I 感染症 (肺炎、抗酸菌感染を中心に) 3) 疾患の理解 II 気道疾患 (喘息、COPD を中心に)、間質性肺疾患 4) 疾患の理解 III 肺がん—終末期患者の看護を含めて  2. 循環器系の疾患 (岡俊明 3回) 1) 循環器系の解剖、生理、血液循環のしくみ。 ①血液の役割 (白血球、赤血球、血小板) ②心臓の解剖 (心室、心房、肺動脈、大動脈心臓弁) ③心臓のポンプ作用 ④全身の血液循環、動脈と静脈の役割 2) 血圧の異常 (高血圧)、心不全と病態の検査・治療 ①高血圧の病態 ②心不全の病態 ③心不全の症状 ④心不全に対する検査・治療 3) 心臓弁膜症、不整脈 ①僧帽弁膜症 ②大動脈弁膜症 ③心電図の読み方 ④不整脈 4) 虚血性心疾患、先天性心疾患 ①狭心症と急性心筋梗塞 ②心臓カテーテル検査・カテーテル治療 ③先天性心疾患  3. 腎・泌尿器系の疾患 (三崎太郎 3回) 科目概要: 臨床の場において、腎泌尿器系疾患を理解し、患者への適切な看護を提供するために、基礎知識を習得することを目的とする。 目標 1. 生体活動における腎泌尿器系の重要性を説明できる。 2. 腎泌尿器の働きが損なわれた場合、生じる障害の内容と程度を説明できる。 3. 主な腎泌尿器疾患に対する検査、診断、治療法、予後、看護の要点を説明できる。 授業内容: ・看護を学ぶにあたって (テキスト第 1 章) 腎泌尿器系の構造と機能 (第 2 章) / 症状と病態生理 (第 3 章) ・腎泌尿器疾患の検査と治療 (第 4 章) ・腎泌尿器疾患の理解 (第 5 章) 腎泌尿器疾患の看護 (第 6 章)

	<p>4. 消化器系の疾患（細田佳佐 3回） 消化器系の疾患と治療の最新の動向をふまえ、疾患の原因、予防、治療、疫学を学ぶ。 1) 消化器系総論 【消化器系の解剖と働き】 2) 上部・下部消化管の疾患と治療 3) 肝胆膵（肝臓を中心に）の疾患と治療</p> <p>5. 手術と麻酔（鳥羽好恵 2回） 【生命維持における酸素運搬の重要性とその測定法】 a) 酸素欠乏は瞬時に危機的→呼吸、循環そして局所へ b) 酸素運搬状況とバイタルサイン 呼吸数、血圧、脈拍、皮膚の色、体温そして意識状況 c) バイタルサインの測り方 (vital: vita=命の意味のラテン語) と意味 【痛覚と麻酔】 a) 痛覚の意味と科学的基礎 b) 痛覚の除去方法 【麻酔方法と臨床応用】 a) 侵襲的医療（手術、検査など）には麻酔が必要 b) 麻酔法の分類とその臨床応用 (1) 局所麻酔 (2) 区域麻酔（伝達麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔） (3) 全身麻酔 c) 麻酔の注意点と合併症 d) 麻酔中の観察ポイント</p>
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	
評価方法	定期試験 100%
課題に対するフィードバック	なし
指定図書	<p>(橋本) 浅野浩一郎他「系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器」医学書院 (岡) 吉田俊子他「系統看護学講座 成人看護学3 循環器」医学書院 (細田) 松田明子他「系統看護学講座 成人看護学5 消化器」医学書院 (三崎) 大東貴志他「系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器」医学書院 (鳥羽) 矢永勝彦他「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」医学書院</p>
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>各单元において、1年次に履修した生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱは、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。</li> <li>授業後は、指定図書の各章のまとめ、課題について学習しておくこと</li> </ul>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	<p>2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。</p> <p>2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。</p>

科目名	健康障害論Ⅱ
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「健康障害論Ⅱ」は「健康障害論Ⅰ」に引き続き、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「健康障害論Ⅱ」では、①内分泌・代謝系、②骨・筋・運動器系、③脳・神経系、④アレルギー・免疫・膠原病、⑤乳腺、⑥女性生殖器、⑦血液・造血器、の代表的な疾患を取り上げて学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患に対する治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	1. 内分泌・代謝系 (柏原裕美子 2 回) 総論：内分泌臓器／内分泌・代謝の機能と障害／診断と治療 各論：代表的内分泌疾患とその治療 / 糖尿病の最新の治療  2. 骨関節・筋肉・運動器系の疾患 計 4 回 目標：運動器の病態生理を理解し、疾患に特有な症状、診断、治療について説明できる 1) 運動器総論 (佐々木寛二 1 回) ①運動器総論・構造と機能 ②運動器の病態生理 2) 外傷・四肢の疾患と治療 (吉水隆貴 2 回) ①外傷の診断と治療 ②下肢関節 診断と治療 ③上肢関節 診断と治療 3) 脊椎疾患と治療 (水野哲太郎 1 回) ①脊椎 診断と治療 (各論)  3. 脳・神経系の疾患 (大橋寿彦 3 回) 目標：神経疾患の理解を深めるとともに、障害を持つ方々と共に生きる姿勢を身につける 1) 神経内科総論、脳血管障害 2) 神経変性疾患 (アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など) 3) その他の脳・脊髄疾患 (感染、脱髄、代謝性など) 4) 末梢神経疾患、神経筋接合部の疾患、筋疾患  4. アレルギー・免疫／膠原病／感染症 (宮本 俊明 2 回) ①免疫反応、アレルギーの仕組み ②自己免疫疾患とその機序 ③主な膠原病疾患とその治療  5. 乳腺疾患 (吉田 雅行 1 回)

	<p>①乳腺の構造・機能と疾患  ②乳がんの検査・診断・治療  ③今日の乳がんの最新の動向</p> <p>6. 女性生殖器疾患 (安達 博 1回)  ①女性生殖器の疾患  ②女性生殖器疾患の検査・診断・治療  ③今日の女性生殖器疾患の最新の動向</p> <p>7. 血液・造血器疾患 (西尾 里美 2回)  ・血液・造血器疾患の機能と障害  ・血液・造血器疾患の診断と治療  ・代表的な血液・造血器疾患の治療と看護</p>
アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	(柏原) 黒江ゆり子他「系統看護学講座 成人看護学 6 内分泌・代謝」医学書院 (佐々木、吉水、水野) 織田弘美他「系統看護学講座 成人看護学 10 運動器」医学書院 (大橋) 井手隆文他「系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経」医学書院 (吉田・安達) 末岡浩他「系統看護学講座 成人看護学 9 女性生殖器」医学書院 (西尾) 飯野京子他「系統看護学講座 成人看護学 4 血液・造血器」医学書院 (宮本) 岩田健太郎他「系統看護学講座 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	・各单元において、1年次に履修した生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱは、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 ・授業後は、指定図書の各章のまとめ、課題について学習しておくこと
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」「専門看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。 2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	薬理・薬剤
科目責任者	川村 和美
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>薬理・薬剤では、医薬品の作用機序を中心に、体内動態、副作用、相互作用などを学習します。本科目の学習を通じて、国家試験に合格するための知識を身につけるだけでなく、それぞれの医薬品の特徴や使用例を具体的に説明し、配薬、服薬介助などの援助時に、医薬品に興味を持てるように、授業を進めたいと思います。医薬品の名前は多い上にカタカナだらけでややこしく、取っ付きにくいと思いますが、皆さんが自信を持って臨床で活かせるよう、できる限りわかりやすく薬に親しみが持てるように解説します。</p> <p>全員 A 評価の単位を取得してくれることを期待しています。</p>
到達目標	<p>3. 主要な薬剤の作用機序を理解する。</p> <p>4. 特徴的な薬の代表的な副作用を理解する。</p>
授業計画	<p>臨床で薬に触れたときにどんな薬かわかる、それぞれの薬に興味を持てるように、下記のスケジュールで幅広い領域を網羅した授業を行います。</p> <p>第1回：第1章 薬を知ろう①</p> <p>第2回：第1章 薬を知ろう②</p> <p>第3回：第2章 循環器内科で主に使われる薬</p> <p>第4回：第3章 代謝・内分泌内科で主に使われる薬</p> <p>第5回：第4章 消化器内科で主に使われる薬</p> <p>第6回：第5章 呼吸器内科・アレルギー科で主に使われる薬</p> <p>第7回：第6章 腎臓内科・泌尿器科・生殖器科で主に使われる薬</p> <p>第8回：第7章 感覚器科で主に使われる薬</p> <p>第9回：第8章 整形外科で主に使われる薬</p> <p>第10回：第9章 精神科・心療内科で主に使われる薬</p> <p>第11回：第10章 神経内科で主に使われる薬</p> <p>第12回：第11章 感染症科で主に使われる薬（抗生物質、抗真菌薬、抗ウイルス薬）</p> <p>第13回：第11章 感染症科で主に使われる薬（寄生虫感染症、消毒薬、予防接種）</p> <p>第12章 腫瘍内科・緩和医療科で主に使われる薬（抗がん薬）</p> <p>第14回：第12章 腫瘍内科・緩和医療科で主に使われる薬（鎮痛薬）</p> <p>第15回：第13章 救命救急科・麻酔科で主に使われる薬</p> <p>試験問題対策問題解説</p>



アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	授業内の質問はリアクションペーパーやWeb Class で随時、受け付けます。
評価方法	評価は 100 点満点とし、点数配分を定期試験 90%、学習態度 10%（出席点）とします。 合計点が 60 点に満たない場合は、再試を実施します なお、本試験に欠席をした学生も再試験の対象となります。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし 発刊を予定しているテキスト（薬事日報）の原案（レジュメ）に従って授業を行います。
参考図書	日本医薬品集、治療薬マニュアル（医学書院）などの医薬品集
事前・ 事後学修	Web Class にアップロードしてある試験対策問題を実施すると、授業の復習と国家試験対策になります。 講義時に配布する資料は、随時、情報を更新し、Web Class 上に PDF をアップロードするので、必要に応じてご活用ください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業後に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は、病院ならびに保険薬局における実務経験と、薬科大学と企業における授業経験が豊富な薬剤師が教授します。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とし、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑 応答等に対応します。一昨年度、本科目は遠隔授業の曜日にあたっていたため、15 コマすべて を zoom を用いて実施しました。コロナウイルスの蔓延状況によっては、遠隔授業の実施科目に なる可能性はあり、その場合はオンライン授業を検討します。 担当教員は教育設計の専門家『インストラクショナルデザイナー』であるとともに、e ラーニン グによる授業設計者の資格（eLP シニアマネージャー/eLP シニアラーニングデザイナー/eLP シ ニアコンサルタント）を有するため、オンラインとなった場合にも e ラーニング教材に近い講 義コンテンツを提供します。

科目名	臨床栄養
科目責任者	渡瀬 優子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>臨床栄養管理では、病態・栄養状態を把握し、治療効果を高めるための栄養補給が必要です。そのためには、栄養素の働き・エネルギー代謝・疾患の成り立ち・栄養補給方法や食事療法の特徴を理解することが重要となります。</p> <p>臨床における栄養マネジメントは多種多様であり、個々人に適した栄養を考え、患者様の最も望む栄養マネジメントを模索し、オーダーメイドの栄養を提供することが求められています。チーム医療が確立され、看護師の担う役割は大変大きく、本科目では分子栄養学と栄養マネジメントを実践するための知識を習得し、質の高いサポートが出来るスキルを身につけることを目的とします。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養学・病態栄養を理解する。</li> <li>2. 疾病予防・治療・アフターケアについて理解する。</li> <li>3. 栄養マネジメントを学び、チーム医療について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第 1 回：基礎栄養学、食品学</p> <p>第 2 回：基礎栄養・消化管</p> <p>第 3 回：栄養アセスメント・栄養不良の病態生理</p> <p>第 4 回：栄養療法の基礎・栄養評価</p> <p>第 5 回：経腸栄養</p> <p>第 6 回：静脈栄養</p> <p>第 7 回：病態栄養①</p> <p>第 8 回：病態栄養②</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 20%、レポート 80%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	日本静脈経腸栄養学会編集 『日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養テキストブック』南光堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業後は当日学習した内容をテキスト・当日配布した資料にて事後学習を行っていく。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は、授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。 2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。 また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	基礎看護技術Ⅲ																																	
科目責任者	佐久間 佐織																																	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター																																	
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																	
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、基本的ニーズを充足するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を学び修得する。また、看護実践を適切に行うために必要となるフィジカルアセスメントの基礎知識・技能を学び修得する。さらに、看護者と対象者の両者を体験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を学び修得する。本科目では対象に合わせた「食事」「排泄」を援助する技術に焦点をあて学修する。																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる</li> <li>2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる</li> <li>3. フィジカルアセスメントを活用することにより、対象に合わせた看護援助を考え、多面的に考察できる</li> <li>4. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける</li> </ol>																																	
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 佐久間佐織、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、樫原理恵</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：科目ガイダンス</td> <td>単元責任者 佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>    摂食・嚥下のフィジカルアセスメント、摂食・嚥下ケア</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：腹部のフィジカルアセスメント① 【演習】</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：腹部のフィジカルアセスメント② 【演習】</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア、経管栄養法）</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：食事介助、口腔ケア 【演習】</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：排泄の援助の基本的な知識</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：便器・尿器を用いた床上排泄① 【演習】</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：便器・尿器を用いた床上排泄② 【演習】</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：おむつ交換 【演習】</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア① 【演習】</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア② 【演習】</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア③、まとめ 【演習】</td> <td>佐久間佐織</td> </tr> </table>	第 1 回：科目ガイダンス	単元責任者 佐久間佐織	摂食・嚥下のフィジカルアセスメント、摂食・嚥下ケア	有村優範	第 2 回：消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント	有村優範	第 3 回：腹部のフィジカルアセスメント① 【演習】	有村優範	第 4 回：腹部のフィジカルアセスメント② 【演習】	有村優範	第 5 回：食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価	佐久間佐織	第 6 回：食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア、経管栄養法）	佐久間佐織	第 7 回：食事介助、口腔ケア 【演習】	佐久間佐織	第 8 回：排泄の援助の基本的な知識	佐久間佐織	第 9 回：排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）	佐久間佐織	第 10 回：便器・尿器を用いた床上排泄① 【演習】	早川ゆかり	第 11 回：便器・尿器を用いた床上排泄② 【演習】	早川ゆかり	第 12 回：おむつ交換 【演習】	早川ゆかり	第 13 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア① 【演習】	佐久間佐織	第 14 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア② 【演習】	佐久間佐織	第 15 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア③、まとめ 【演習】	佐久間佐織	
第 1 回：科目ガイダンス	単元責任者 佐久間佐織																																	
摂食・嚥下のフィジカルアセスメント、摂食・嚥下ケア	有村優範																																	
第 2 回：消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント	有村優範																																	
第 3 回：腹部のフィジカルアセスメント① 【演習】	有村優範																																	
第 4 回：腹部のフィジカルアセスメント② 【演習】	有村優範																																	
第 5 回：食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価	佐久間佐織																																	
第 6 回：食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア、経管栄養法）	佐久間佐織																																	
第 7 回：食事介助、口腔ケア 【演習】	佐久間佐織																																	
第 8 回：排泄の援助の基本的な知識	佐久間佐織																																	
第 9 回：排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）	佐久間佐織																																	
第 10 回：便器・尿器を用いた床上排泄① 【演習】	早川ゆかり																																	
第 11 回：便器・尿器を用いた床上排泄② 【演習】	早川ゆかり																																	
第 12 回：おむつ交換 【演習】	早川ゆかり																																	
第 13 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア① 【演習】	佐久間佐織																																	
第 14 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア② 【演習】	佐久間佐織																																	
第 15 回：フィジカルアセスメントを活用した看護ケア③、まとめ 【演習】	佐久間佐織																																	

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学修、事前課題をもとに授業を進行する</li> <li>・ 講義にはディスカッションが含まれる</li> <li>・ 演習はグループで進める。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをする</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがある</li> <li>・ 授業のリアクションペーパーや事前・事後課題はWebClass を使用する</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験（または確認テスト）50%</li> <li>・ 事前・事後課題 40%</li> <li>・ 授業への参加態度（身だしなみ、グループワークへの参加度など）10%</li> </ul>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題については、授業またはWebClass で解説する</li> <li>・ リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClass で回答する</li> </ul>
指定図書	<p>茂野香おる他（2021）. 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.</p> <p>任和子他（2021）. 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.</p> <p>三上れつ・小松万喜子編集（2019）. 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント（改訂第2版） 臨床実践能力を高める, 南江堂.</p>
参考図書	<p>坂井建雄（2020）. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院.</p> <p>医学情報科学研究所（2019）. 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版, メディックメディア.</p> <p>医学情報科学研究所（2019）. 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版, メディックメディア.</p> <p>医学情報科学研究所（2019）. 看護技術がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版, メディックメディア.</p> <p>山内豊明（2011）. フィジカルアセスメントガイドブック—目と手と耳でここまでわかる, 医学書院</p> <p>※その他、授業内で随時紹介します</p>
事前・ 事後学修	<p><b>【講義】</b></p> <p>事前学修：学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する（各20分） 単元ごとに提示された課題（WebClass）に取り組む（各20分）</p> <p>事後学修：テキストや授業資料等で授業内容を振り返る（各20分）</p> <p><b>【演習】</b></p> <p>事前学修：テキスト・授業資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する（各20分） 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する（各20分）</p> <p>事後学修：課題（演習の振り返り：WebClass）に取り組む（各20分） 演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>授業内や事前・事後学修で、下記の URL のオンライン教材を利用する</p> <p>ナーシングスキル <a href="https://nursingskills.jp">https://nursingskills.jp</a>（エルゼビアジャパン）</p>
オフィス アワー	<p>看護学部 1号館6階1618研究室</p> <p>随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です</p>
メディア 授業の実施 について	<p>演習は2～3の実習室間での同時双方向メディア授業を行う。単元責任者のファシリテーションのもと担当教員【佐久間佐織】【樫原理恵】【炭谷正太郎】【田口実里】【吉里心希】【早川ゆかり】【有村優範】と準教員が、各実習室に分かれて授業を進行する。</p>

科目名	基礎看護技術Ⅳ
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	クリティカルシンキング (批判的思考) の態度を基盤とし、看護実践の基本となる目標思考、問題解決法の基本的な考え方と、看護の視点からの人間の見方とともに看護実践の展開過程 (情報収集ならびにアセスメント、看護成果、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価) の方法について学ぶ。さらに、グループでの事例学習を通して看護過程を展開するために必要な論理的な思考力や判断力を修得することを目指す。本科目では、ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスと意義を理解する</li> <li>2. 目標思考、問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的判断、背景となる理論について理解する</li> <li>3. 看護過程のアセスメント、期待される成果、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価といった各段階についてその基本的な考え方と実際を学ぶ</li> <li>4. 模擬事例で展開した看護過程を学習教材に看護過程展開の一連のプロセスを追体験し、基本的な看護目標思考、論理的判断力を高める</li> </ol>
授業計画	<p>担当教員：檜原理恵、佐久間佐織、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範</p> <p>第1回：科目ガイダンス、看護過程とは  第2回：看護過程を展開する際に基盤となる考え方、理論  第3回：看護過程の各段階 アセスメント  第4回：看護過程の各段階 成果と問題の明確化  第5回：看護過程の各段階 計画立案  第6回：看護過程の各段階 実施と評価  第7回：在宅療養生活支援に基づいた看護過程の展開 川村佐和子  第8・9回：事例で考える看護過程 情報の分類と分析 (グループワーク)  第10・11回：事例で考える看護過程 期待される成果と看護問題の抽出 (グループワーク)  第12・13回：事例で考える看護過程 看護計画の立案と評価の視点 (グループワーク)  第14・15回：事例で考える看護過程 発表 (グループワーク)、まとめ</p> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	<p>*講義は、事前課題をもとに授業を進行します。</p> <p>*演習は、事前課題をもとにグループワークで行います。</p>
授業内の ICT 活用	<p>WebClass を用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。</p> <p>事例の展開は教育用電子カルテを活用します。</p> <p>また、グループワークの成果発表はppt を作成して発表します。</p>
評価方法	<p>ミニテスト 40%、グループワークの参加度 10%、課題提出物 50% (ルーブリックを用いて評価します)</p>
課題に対する フィード バック	<p>*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします</p> <p>*リアクションカードの質問には、次回授業で回答します</p>
指定図書	<p>茂野香お他 (2021). 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院.</p> <p>任和子他 (2021). 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術II, 医学書院.</p> <p>三上れつ/小松万喜子 (2019) 看護学テキスト Nice ヘルスアセスメント改訂第2版、南江堂</p>
参考図書	<p>詳細は授業で提示します。</p> <p>*テキスト、ナーシングスキル (<a href="https://nursingskills.jp">https://nursingskills.jp</a> エルゼビアジャパン) の動画視聴</p>
事前・ 事後学修	<p><b>【事前学修】</b></p> <p>*单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2~6回には授業中にミニテストを実施します。</p> <p><b>【事後学修】</b></p> <p>*授業内容、テキストの振り返りをします。グループワークに必要な内容を個人学修で振り返ります</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>檜原理恵 : 1616 研究室 <a href="mailto:rie-k@seirei.ac.jp">rie-k@seirei.ac.jp</a></p> <p>時間はオリエンテーション時にお知らせします。</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	基礎看護技術V
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	2単位 (60時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	診療に伴う援助を安全・安楽かつ効果的に実施する上で必要な看護技術の原理・原則を学習し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を学び修得する。本科目では、検査・検体の採取、与薬に関する専門的知識と技術について学習する。また、呼吸・循環に関するフィジカルアセスメントと援助を実施する上で必要な専門的知識と技術について学修する。さらに、学修した知識と技術に基づいて根拠を追及し、看護の対象にあわせた援助のあり方を考え、議論できる態度を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる。</li> <li>2. 診療および救急時に必要な援助に関する基本技術を修得できる。</li> <li>3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる。</li> <li>4. フィジカルイグザミネーションを活用することにより、対象に合わせた看護援助を考え、多面的に考察できる。</li> <li>5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>担当教員:炭谷正太郎、檜原理恵、佐久間佐織、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範</p> <p>第1回:授業ガイダンス、医療安全に必要な基礎知識(誤薬、チューブ類の抜去、患者誤認、転倒転落、薬剤・放射線暴露)(講義:炭谷)</p> <p>第2回:感染防止の技術(炭谷)</p> <p>第3・4回:検査・検体採取の援助—検査・検体採取の援助に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第5・6回:感染防止の技術の実際—無菌操作(演習:*)</p> <p>第7・8回:検査・検体採取の援助の実際—静脈血採血(演習:*)</p> <p>第9回:与薬の技術—点滴静脈内注射に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第10回:与薬の技術—筋肉注射に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第11回:与薬の技術—経口与薬、吸入、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第12・13回:与薬の技術の実際—点滴静脈内注射(演習:*)</p> <p>第14・15回:与薬の技術の実際—筋肉注射(演習:*)</p> <p>第16・17回:排尿困難への援助—導尿法に必要な基礎知識(講義:柴田)</p> <p>第18・19回:排尿困難への援助の実際—導尿法(演習:*)</p> <p>第20回:静脈血採血の練習(演習:*)</p> <p>第21回:静脈血採血の技術確認(演習:*)</p> <p>第22・23回:呼吸・循環のフィジカルアセスメント(講義:早川)</p> <p>第24・25回:呼吸・循環のフィジカルアセスメントの実際(演習:*)</p> <p>第26・27回:安楽な呼吸への援助—吸引・酸素吸入に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第28・29回:安楽な呼吸への援助の実際—吸引・酸素吸入(演習:*)</p> <p>第30回:創傷および褥瘡ケア(講義:炭谷)</p> <p>*:炭谷正太郎、檜原理恵、佐久間佐織、田口実里、柴田めぐみ、早川ゆかり、有村優範</p>



アクティブ ラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、シミュレーション教育を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	講義では、WebClass を使用してミニテストを行います。
評価方法	定期試験 50%、課題提出物 20%、ミニテスト10%、技術確認 20%、計 100% *定期試験はWebClass による知識習得テストへ変更する場合があります
課題に対する フィード バック	講義内容等の質問の回答を WebClass もしくは次の講義・演習内にて行います。 演習の最後に担当教員から講評します。
指定図書	三上れつ・小松万喜子編集：看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント（改訂第2版）臨床実践能力を高める、南江堂、2019。 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2021。 任和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院、2021。
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	受講前には1時限あたり 20 分程度、関連知識の予習を必ず行って下さい。また、学修した知識は次回の受講に活用できるよう 1 時限あたり 20 分程度、事後学修して下さい。 講義の前にテキストの該当箇所を読み学修して下さい。ミニテストは第2、4、10、11、17 回で実施します。 演習前に配布資料を基に事前課題に取り組んでください。演習は第5、6、7、8、12、13、14、15、18、19、20、24、25、28、29 回で実施します。 看護技術の修得には繰り返し実施することが必要です。学修計画を立て、セルフトレーニングをしてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル： <a href="https://nursingskills.jp/">https://nursingskills.jp/</a> , エルゼビアジャパン
オフィス アワー	炭谷正太郎：1610 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 月曜日 11 時～13 時ですが、予約は不要です。この時間以外でも、在室していればいつでも訪問してください。会議などで不在になる場合がありますが、メールなどでご連絡いただければ調整します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間の遠隔授業が基本です。 担当教員【炭谷正太郎】【樫原理恵】【佐久間佐織】【田口実里】【柴田めぐみ】【早川ゆかり】 【有村優範】と準教員が各教室に分かれて授業を進行します。

科目名	成人看護学概論	
科目責任者	大石 ふみ子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	成人期の特徴をふまえ、家庭や職場・地域社会でさまざまな役割をもつ人々の生活および健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について学修する。	
到達目標	1. 成人期にある人々の成長・発達過程および各期の特徴、発達課題を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連づけて説明できる。 3. 成人期の人々の心身の反応と健康や健康障害に対する看護の特徴について概念を用いて説明できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第 1 回：導入／成人とは／成長・発達段階から見た成人の特徴 大石ふみ子 第 2 回：成人を取り巻く社会環境と成人の生活 大山 末美 第 3 回：成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策(1) 保健統計からみた成人の健康の動向・特徴的な健康問題 大山 末美 第 4 回：成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策(2) 成人を対象とした保健・医療・福祉 大石ふみ子  <健康障害をもつ成人に関わる際の基本的な視点> 第 5 回：健康生活を支える人間関係の構築 大山 末美 第 6 回：患者・家族の意思決定を支える 大山 末美 第 7 回：健康の危機状態への適応 ストレスとコーピング 大石ふみ子 第 8 回：健康の危機状態への適応 危機理論 大石ふみ子 第 9 回：健康行動への行動変容 自己効力、アンドラゴジー 大山 末美 第 10 回：セルフヘルプグループを理解する 大石ふみ子 第 11 回：代替療法を理解する 大石ふみ子  <健康状態に応じた看護> 第 12 回：急性期、周手術期にある患者への看護（ボディイメージ） 大石ふみ子 第 13 回：慢性期：健康生活の継続への支援（セルフケア） 大山 末美 第 14 回：リハビリテーションを必要とする成人への看護 大山 末美 第 15 回：終末期を迎える患者と家族への支援（緩和ケア） 大石ふみ子	

アクティブラーニング	授業に先立ち、読んでくる教科書の範囲の指定、そのほかの課題を課します。指定された部分の教科書（または、指定された資料）を読んで、理解できた点、理解が難しい点、疑問点のメモをもって授業に臨んでください。 事業では、事例やビジュアル教材等を活用していきます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験にて評価する。 遅刻・早退・欠席や、授業過程における提出物不備の場合、減点されます。
課題に対するフィードバック	事前課題や授業中の提出物について、講義の中で解説します。意見や疑問は、適宜、授業中やリアクションペーパーで受け、授業中の解説や Webclass 上でフィードバックしていきます。 定期試験に関しては、試験結果公表後に個別に質問を受け付けます。
指定図書	黒江ゆり子編 成人看護学①『成人看護学概論／成人保健』メジカルフレンド社、(最新版) 2020年1月時点：第6版
参考図書	講義の過程で随時紹介します
事前・事後学修	既習の生涯発達心理学や解剖学、生理学、代謝栄養等の授業内容を復習し、よく理解した上で授業に臨んで下さい。 予習として指定された教科書のページを読んでくること（約20分）、授業後には、学修した内容を成人期にある自分自身や家族の状況と照らし合わせ、講義で学んだことを具体的なイメージとして理解しながら授業内容のノートを整理（約25分）してその後の学修や実習で活かせるような学修を習慣としてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	月曜Ⅱ時限目を基本的なオフィスアワーとしますが、いつでも相談にのりますのでメールで連絡してください。 大石ふみ子：1219研究室：fumiko-o@seirei.ac.jp 大山 末美：1213研究室：suemi-o@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	2教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として、伊東千世子準教員、長山有香理準教員、寺田康祐助手を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	成人看護援助論 I
科目責任者	大山 末美
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	周手術期を含む急性期看護、がん看護、慢性看護を、成人看護学の主要な実践教育の領域と捉え、看護の対象となる人々の病態や治療の理解を深め、療養上の課題に対する看護支援、及び看護技術について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術を受ける人の身体的、心理的变化について理解し、術前、術中、術後の看護の特徴を説明できる。</li> <li>2. がん、及びがん患者の特徴について理解し、治療や経過に添った看護の特徴を説明できる。</li> <li>3. 慢性疾患の特徴、及び看護の基盤となる概念について理解し、看護の特徴を説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 担当教員</p> <p>科目オリエンテーション</p> <p>第 1 回：科目オリエンテーション 大山末美・藤浪千種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護援助論 I オリエンテーション</li> <li>・成人看護援助論 I で学ぶこと</li> <li>・急性期病院で治療を受ける対象の看護について考察する (グループ討議)</li> </ul> <p>手術と看護</p> <p>第 2 回：(1) 手術侵襲と身体的・心理的反応 藤浪千種</p> <p>第 3 回：(2) 術前看護 乾 友紀</p> <p>第 4 回：(3) 術中看護 乾 友紀</p> <p>第 5 回：(4)-1) 術後看護 回復促進と合併症の予防 氏原恵子</p> <p>第 6 回：(5)-2) 術後看護 リハビリテーションと生活復帰 氏原恵子</p> <p>がん看護</p> <p>第 7 回：(1) がん集学治療を受ける患者の看護 大山末美</p> <p>第 8 回：(1) がん集学治療を受ける患者の看護 大山末美</p> <p>第 9 回：(2) 今日のがん看護のトピック 大山末美</p> <p>慢性的な病を有する人への看護と終末期看護</p> <p>第 10 回：(1) 病みの軌跡 河野 貴大</p> <p>第 11 回：(2) 基盤となる概念 セルフマネジメントとその支援 兼子夏奈子</p> <p>第 12 回：(3) 慢性疾患療養支援 糖尿病自己管理 山本真矢</p> <p>第 13 回：(4) 緩和ケア (がん、慢性疾患、在宅療養) 河野貴大</p> <p>第 14 回：(5) 看護の視点で考えるリハビリテーション 天野 薫</p> <p>第 15 回：(6) ターミナルケア 天野 薫</p>

アクティブ ラーニング	第1回目はグループでディスカッションとプレゼンテーションを行います。
授業内の ICT 活用	出席確認、リアクションペーパー提出、および單元ごとの小テストはWeb Class を活用する。
評価方法	各回で單元テストを行いその成績を評価します。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・單元テストの解答については、試験後に模範解答をWeb Class を活用して提示する。</li> <li>・リアクションペーパー等にあげられた質問についてはWeb Class を活用して回答する。</li> </ul>
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 矢永勝彦他『別巻 臨床外科看護総論』医学書院（「健康障害論 I」で購入済み）</li> <li>2. 小松浩子他『別巻 がん看護学』医学書院</li> <li>3. 鈴木久美他『成人看護学 慢性期看護』南江堂</li> <li>4. 日本糖尿病学会編『糖尿病治療のてびき』南江堂</li> <li>5. ビジュランクラウド</li> </ol>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉やよい他『周術期の判断を磨く』医学書院</li> <li>・秋山正子他『統合分野 在宅看護論』医学書院</li> <li>・その他の図書については、授業の中で適時提示する。</li> </ul>
事前・ 事後学修	<p>&lt;事前学修&gt; 解剖学・生理学、健康障害論（とくに手術と麻酔、循環器、内分泌・代謝）等で学んだ解剖生理、症状と病態生理、診断・治療等の基礎知識について再確認しておく。Web Class で事前課題が出る場合は内容を予習して授業に臨む。（約20分）</p> <p>&lt;事後学修&gt; 配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習する。専門基礎領域科目や基礎看護学で学習した知識が基盤になるので、十分に復習しておく。（約20分）</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。</p> <p>大山 末美 1213 研究室：suemi-o@seirei.ac.jp 藤浪 千種 1208 研究室：chigusa-f@seirei.ac.jp 天野 薫 1215 研究室：kaoru-a@seirei.ac.jp 乾 友紀 1218 研究室：yuki-i@seirei.ac.jp 氏原 恵子 1210 研究室：keiko-u@seirei.ac.jp 兼子夏奈子 1216 研究室：kanako-s@seirei.ac.jp 河野 貴大 1608 研究室：takahiro-k@seirei.ac.jp</p>
実務経験に 関する記述	本科目は看護師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	新型コロナウイルス対策として対人距離を確保するため2教室での授業を行う。

科目名	成人看護援助論Ⅱ																																
科目責任者	藤浪 千種																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																
科目概要	手術療法が対象にもたらす身体・心理・社会的影響を理解し、周術期にある対象の予防的な看護や回復を促進する看護を学修する。また、救急医療や集中治療などを受けクリティカルな状態にある対象を理解し、クリティカルケア看護の特徴を学修する。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周術期にある患者の生命維持、合併症予防に必要な看護が説明できる。</li> <li>2. 周術期にある患者の回復を促進し合併症を予防する看護が説明できる。</li> <li>3. 周術期にある患者のセルフマネジメントを支援する看護が説明できる。</li> <li>4. クリティカルケアとクリティカルケア看護の特徴が説明できる。</li> </ol>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center;">担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション 運動器系の手術を受ける患者の看護（股関節・膝関節）</td> <td>藤浪千種・氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：運動器系の手術を受ける患者の看護（脊椎）</td> <td>乾 友紀</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（大腸がん）</td> <td>藤浪千種（寺田康祐）</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：泌尿器系の手術を受ける患者の看護（前立腺がん・膀胱がん）</td> <td>藤浪千種（寺田康祐）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（胃がん）</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（膵臓がん）</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：呼吸器系の手術を受ける患者の看護（肺がん）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（子宮がん・乳がん）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（循環器系疾患）</td> <td>乾 友紀</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（呼吸器系疾患）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（糖尿病）</td> <td>氏原恵子</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：クリティカルケア看護</td> <td>乾 友紀</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：救急看護</td> <td>乾 友紀</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：手術を受ける患者の看護：事例展開①</td> <td>藤浪・氏原・乾・（寺田）</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：手術を受ける患者の看護：事例展開②</td> <td>藤浪・氏原・乾・（寺田）</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	担当教員	第 1 回：オリエンテーション 運動器系の手術を受ける患者の看護（股関節・膝関節）	藤浪千種・氏原恵子	第 2 回：運動器系の手術を受ける患者の看護（脊椎）	乾 友紀	第 3 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（大腸がん）	藤浪千種（寺田康祐）	第 4 回：泌尿器系の手術を受ける患者の看護（前立腺がん・膀胱がん）	藤浪千種（寺田康祐）	第 5 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（胃がん）	藤浪千種	第 6 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（膵臓がん）	藤浪千種	第 7 回：呼吸器系の手術を受ける患者の看護（肺がん）	氏原恵子	第 8 回：女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（子宮がん・乳がん）	氏原恵子	第 9 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（循環器系疾患）	乾 友紀	第 10 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（呼吸器系疾患）	氏原恵子	第 11 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（糖尿病）	氏原恵子	第 12 回：クリティカルケア看護	乾 友紀	第 13 回：救急看護	乾 友紀	第 14 回：手術を受ける患者の看護：事例展開①	藤浪・氏原・乾・（寺田）	第 15 回：手術を受ける患者の看護：事例展開②	藤浪・氏原・乾・（寺田）
＜授業内容・テーマ等＞	担当教員																																
第 1 回：オリエンテーション 運動器系の手術を受ける患者の看護（股関節・膝関節）	藤浪千種・氏原恵子																																
第 2 回：運動器系の手術を受ける患者の看護（脊椎）	乾 友紀																																
第 3 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（大腸がん）	藤浪千種（寺田康祐）																																
第 4 回：泌尿器系の手術を受ける患者の看護（前立腺がん・膀胱がん）	藤浪千種（寺田康祐）																																
第 5 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（胃がん）	藤浪千種																																
第 6 回：消化器系の手術を受ける患者・家族の看護（膵臓がん）	藤浪千種																																
第 7 回：呼吸器系の手術を受ける患者の看護（肺がん）	氏原恵子																																
第 8 回：女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（子宮がん・乳がん）	氏原恵子																																
第 9 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（循環器系疾患）	乾 友紀																																
第 10 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（呼吸器系疾患）	氏原恵子																																
第 11 回：基礎疾患のある患者の周術期看護（糖尿病）	氏原恵子																																
第 12 回：クリティカルケア看護	乾 友紀																																
第 13 回：救急看護	乾 友紀																																
第 14 回：手術を受ける患者の看護：事例展開①	藤浪・氏原・乾・（寺田）																																
第 15 回：手術を受ける患者の看護：事例展開②	藤浪・氏原・乾・（寺田）																																

アクティブ ラーニング	・本授業では、ICT 機器を用いて、授業内の質問への対応や学生・教員間の情報共有・意見交換を行います。
授業内の ICT 活用	・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	・各回で事後テストを行いその成績を評価します。
課題に対する フィード バック	・授業に関する質問・意見には、授業内またはWebclass で回答します。 ・事後テストの解答は、第 15 回授業終了後に Webclass に掲載します。
指定図書	1. 末岡 浩 他『成人看護学9 女性生殖器』医学書院 ＜※購入済みテキスト＞ ※2. 矢永 勝彦 他『別巻 臨床外科看護総論』医学書院 ※3. 大東 貴志 他『成人看護学8 腎・泌尿器』医学書院 ※4. 松田 明子 他『成人看護学5 消化器』医学書院 ※5. 浅野 浩一郎 他『成人看護学2 呼吸器』医学書院 ※6. 織田 弘美 他『成人看護学10 運動器』医学書院 ※7. 黒江 ゆり子他『成人看護学6 内分泌・代謝』医学書院 ※8. 鎌倉 やよい他『周術期の臨床判断を磨く』医学書院
参考図書	・授業内で適時提示します。
事前・ 事後学修	【事前学修】 ・第 2 回～第 15 回講義の『事前学修課題』を Webclass に掲載します（各授業回 30 分程度）。事前課題に取り組み講義に参加してください。 ・成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、健康障害論Ⅰ・Ⅱとの関連が強い科目です。これら授業の内容を再確認しておきましょう。 【事後学修】 ・事後テストを実施します。事後テストで不明なことは各自で調べ再学修をしておきましょう。 ・配布資料の内容を再確認し理解が不十分な点を再学修してください(各授業回 30 分程度)。 ・各自の課題や興味関心に沿った学修も主体的に行いましょう。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・各授業の中で説明される看護の基本的知識の復習には、ナーシングスキル等を活用して下さい ( <a href="https://www.nursingskills.jp/">https://www.nursingskills.jp/</a> , エルゼビアジャパン)。
オフィス アワー	・担当者（藤浪・氏原・乾・寺田）に質問や相談等がある際は、事前に G-mail でアポイントをとってください。 ○藤浪千種 chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室) ○氏原恵子 keiko-u@seirei.ac.jp (1210 研究室) ○乾友紀 yuki-i@seirei.ac.jp (1218 研究室) ○寺田康祐 kousuke-t@seirei.ac.jp (1602 研究室)
実務経験に 関する記述	本科目は看護師の実務経験を有する講師が実務の観点から教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	・2 教室を使用し対面方式と遠隔方式を組み合わせ実施します（7 回がメディア授業となります）。 ・遠隔授業で受講する教室においては、本科目担当者か、助手・準教員のいずれかを補助教員として配置し、質疑応答に対応します。また、授業時間中(あるいは終了後)に教員が教室間を移動し、質疑応答に応じます。

科目名	成人看護援助論Ⅲ																								
科目責任者	兼子 夏奈子																								
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																								
DP 番号と科目領域	DP2 専門																								
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																								
科目概要	慢性疾患を有する人と家族がセルフマネジメントを行いながらその人らしい生活を送るための援助の基盤となる理論・概念を活用した基本的な看護について学修する。																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患の症状や治療により起こる日常生活上の変化について理解できる。</li> <li>慢性疾患を有する人と家族へのセルフマネジメントを促進する援助と教育的支援の基本的な考え方と方法について理解できる。</li> <li>慢性疾患を有する人に関わる専門職とチーム医療の重要性について理解できる。</li> </ul>																								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：慢性疾患を有する人と家族の身体，心理，社会的特徴，看護の役割 セルフマネジメント能力を高める看護の基本</td> <td style="text-align: right;">兼子夏奈子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 脳卒中でリハビリテーションを必要とする人への自己効力感を高める支援</td> <td style="text-align: right;">天野 薫</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 内分泌機能障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際</td> <td style="text-align: right;">大山末美・山崎淑恵</td> </tr> <tr> <td>第 4 回・第 5 回：＜増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 循環器障害，腎障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際</td> <td style="text-align: right;">兼子夏奈子</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：＜増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 呼吸器疾患（COPD）を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際</td> <td style="text-align: right;">河野貴大</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：＜進行性の慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 難病を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際</td> <td style="text-align: right;">河野貴大</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：寛解を目指す慢性疾患を有する人と家族への看護 急性骨髄性白血病を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際</td> <td style="text-align: right;">天野 薫</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：＜ターミナル期に至る慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 苦痛緩和が必要な患者と家族への支援の実際</td> <td style="text-align: right;">天野 薫</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：慢性疾患を有する人への心理的ケアの基本</td> <td style="text-align: right;">大山末美</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：第 12～15 回の演習説明・学修方法などガイダンス</td> <td style="text-align: right;">兼子夏奈子</td> </tr> <tr> <td>第 12 回～第 15 回：協働学修（アクティブラーニング） 課題レポート，ディスカッション *レポートテーマを全体で共有すると共に，実習前後の自身のポートフォリオとして活用する。</td> <td style="text-align: right;">慢性看護学教員</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：慢性疾患を有する人と家族の身体，心理，社会的特徴，看護の役割 セルフマネジメント能力を高める看護の基本	兼子夏奈子	第 2 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 脳卒中でリハビリテーションを必要とする人への自己効力感を高める支援	天野 薫	第 3 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 内分泌機能障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際	大山末美・山崎淑恵	第 4 回・第 5 回：＜増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 循環器障害，腎障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際	兼子夏奈子	第 6 回：＜増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 呼吸器疾患（COPD）を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際	河野貴大	第 7 回：＜進行性の慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 難病を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際	河野貴大	第 8 回：寛解を目指す慢性疾患を有する人と家族への看護 急性骨髄性白血病を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際	天野 薫	第 9 回：＜ターミナル期に至る慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 苦痛緩和が必要な患者と家族への支援の実際	天野 薫	第 10 回：慢性疾患を有する人への心理的ケアの基本	大山末美	第 11 回：第 12～15 回の演習説明・学修方法などガイダンス	兼子夏奈子	第 12 回～第 15 回：協働学修（アクティブラーニング） 課題レポート，ディスカッション *レポートテーマを全体で共有すると共に，実習前後の自身のポートフォリオとして活用する。	慢性看護学教員
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																								
第 1 回：慢性疾患を有する人と家族の身体，心理，社会的特徴，看護の役割 セルフマネジメント能力を高める看護の基本	兼子夏奈子																								
第 2 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 脳卒中でリハビリテーションを必要とする人への自己効力感を高める支援	天野 薫																								
第 3 回：＜経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 内分泌機能障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際	大山末美・山崎淑恵																								
第 4 回・第 5 回：＜増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 循環器障害，腎障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際	兼子夏奈子																								
第 6 回：＜増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 呼吸器疾患（COPD）を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際	河野貴大																								
第 7 回：＜進行性の慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 難病を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際	河野貴大																								
第 8 回：寛解を目指す慢性疾患を有する人と家族への看護 急性骨髄性白血病を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際	天野 薫																								
第 9 回：＜ターミナル期に至る慢性疾患を有する人と家族への看護＞ 苦痛緩和が必要な患者と家族への支援の実際	天野 薫																								
第 10 回：慢性疾患を有する人への心理的ケアの基本	大山末美																								
第 11 回：第 12～15 回の演習説明・学修方法などガイダンス	兼子夏奈子																								
第 12 回～第 15 回：協働学修（アクティブラーニング） 課題レポート，ディスカッション *レポートテーマを全体で共有すると共に，実習前後の自身のポートフォリオとして活用する。	慢性看護学教員																								



アクティブラーニング	本授業は、小グループでのディスカッション、協働学修および学修成果のプレゼンテーションを取り入れて行います。
授業内のICT活用	・学生同士でWEB上でグループディスカッションおよびプレゼンテーションを行います。またWeb Class を利用し、提出物、出席管理をします。
評価方法	評価方法と割合は、定期試験 70 %、協働学修 15%、課題レポート 10%、リアクションペーパー5%の合計 100%となります。 協働学修、レポートはルーブリックを用いて評価を行います。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの回答はWeb Class を活用しフィードバックします。
指定図書	鈴木久美他：成人看護学 慢性期看護 南江堂（2年次成人看護援助論 I で購入済）
参考図書	健康障害論 I・IIでの使用テキスト（購入済み） 『成人看護学2 呼吸器』『成人看護学3 循環器』『成人看護学4 血液・造血器』『成人看護学4 内分泌・代謝』『成人看護学5 消化器』『成人看護学7 脳・神経』『成人看護学8 腎・泌尿器』医学書院 ビジュランクラウド
事前・事後学修	・本講義で理解が必要な病態生理などの学修内容を授業前・後にWEBCLASSに提示しますので、回答または提出して下さい。1講義につき事前事後学修40分以上必要です（1-11回）。 ・12-15回目のグループ学修には各自が決められた役割を果たし効果的に学修するために60-100分の学修時間が必要です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により不在の可能性もあるため、事前に単元担当教員にE-mailでご連絡ください。 ・兼子夏奈子：看護学部 1216 研究室：kanako-s@seirei.ac.jp ・大山末美：看護学部 1213 研究室：suemi-o@seirei.ac.jp ・天野 薫：看護学部 1215 研究室：kaoru-a@seirei.ac.jp ・河野貴大：看護学部 1608 研究室：takahiro-k@seirei.ac.jp ・山崎淑恵：看護学部 1216 研究室：yoshie-ya@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	・2教室を利用し同時講義を行います。その際、いずれの教室にも教員を配置します。 ・12-15回目のグループ学修は30名前後の学生に1名の教員を配置して実施します。

科目名	成人看護援助論演習
科目責任者	乾 友紀
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	専門基礎領域、看護専門領域における既習学修内容を活かし、看護過程演習を通して、健康障害をもつ成人に関する様々な情報を整理し、情報の解釈・分析・統合により看護上の問題を明確にし、看護問題の優先度を考えた看護計画の立案を学修する。また、看護技術演習を通して、健康障害をもつ成人の治療や療養を支えるために必要な看護援助を安全に実施する方法を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程、看護診断に関わる基本的知識を理解できる。</li> <li>2. 紙上事例から系統的に情報を収集できる。</li> <li>3. 情報を解釈・分析・統合し、看護上の問題を明確化できる。</li> <li>4. 看護上の問題を解決するための個別的で具体的な看護計画を立案できる。</li> <li>5. 健康障害をもつ成人の治療や療養を支えるための看護技術を医療安全の観点から理解し、説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>《紙上事例を用いた看護過程演習》</p> <p>第1回：オリエンテーション、看護過程とは、アセスメントとは（1） 乾友紀</p> <p>第2回：アセスメントとは（2） 乾友紀</p> <p>第3-4回：協働学修（系統的アセスメントと関連図） 成人看護学領域教員</p> <p>第5-6回：協働学修（重点アセスメントと看護問題の確定） 成人看護学領域教員</p> <p>第7回：看護計画の立案と評価 乾友紀</p> <p>第8-9回：協働学修（看護計画の立案） 成人看護学領域教員</p> <p>第10-11回：協働学修（第12回の発表準備） 成人看護学領域教員</p> <p>第12回：協働学修（事例患者における看護過程の教え合い） 成人看護学領域教員</p> <p>《看護技術演習》</p> <p>第13回：ME 機器における基礎と管理 兼子夏奈子</p> <p>第14-15回：看護技術演習（ME 機器/与薬の管理） 河野貴大・兼子夏奈子・氏原恵子・山崎淑恵・乾友紀・（寺田康祐）</p> <p>※協働学修、看護技術演習はグループ別に進行するため、具体的なスケジュールは配布資料を確認して下さい。</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1～12回の紙上事例を用いた看護過程演習は、Inquiry-Based Learning (IBL)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。</li> <li>本授業における協働学修は各自に与えられた課題を十分に学修したうえで参加する必要があります。自分の役割に責任を持って参加してください。</li> </ul>
授業内のICT活用	協働学修では ICT 機器を利用して授業の発表や意見交換を行う双方向型授業を実施することがあります。具体的な方法は授業でお知らせします。
評価方法	<p>協働学修への参加 15%、ミニテスト 10%、看護過程演習レポート 65%、看護技術演習レポート 10%、計 100%</p> <p>※看護過程演習はルーブリックにより評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。</p> <p>※原則的に全出席とします。遅刻・欠席の場合は講義開始前に乾まで連絡してください。</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護過程レポートは、担当教員が内容を確認し、提出物へのコメント等によりフィードバックします。</li> <li>授業へ寄せられた質問は講義で解説を行うほか、適宜 Webclass やメールを用いて回答します。</li> </ul>
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>三上れつ：第2版実践に役立つ看護過程と看護診断，ヌヴェルカワリ</li> <li>田中栄他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器，医学書院（購入済）</li> <li>矢永勝彦他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院（購入済）</li> <li>鎌倉やよい，深田順子：周術期の臨床判断を磨く，医学書院</li> <li>南川雅子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器，医学書院（購入済）</li> </ol>
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②，医学書院（購入済）</li> <li>奈良信雄他：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院</li> <li>阿部俊子，山本則子：改訂版 疾患別看護ケア関連図，中央法規出版</li> <li>ビジュランクラウド（医学映像教育センター）</li> <li>ナーシングスキル（エルゼビアジャパン）</li> </ol>
事前・事後学修	<p>臨地看護学実習に向けて非常に重要な科目です。これまでに学修してきた知識、技術が基盤となります。第1～12回の紙上事例を用いた看護過程演習では、事前学修課題を提示します。事例を理解するための知識の学修（4～5時間程度）や2年生で学修した看護過程の復習（2～3時間程度）を、講義の進捗に合わせて計画的に取り組んでください。その他必要な事前課題は適宜アナウンスします。</p> <p>※事前学修、課された課題が不十分な場合は、協働学修・演習に参加できないことがあります。</p> <p>※事後学修として、講義や協働学修で理解が不十分な点の再学修や課題の修正をしてください。</p> <p>※返却された課題レポートのコメントを確認し、自己の課題を明確にしたうえで秋semesterからの実習に臨みましょう。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	<p>実習で不在にしている場合が多いため、急用でなければメールで事前に連絡をください。グループワーク担当教員への連絡方法については、講義内でお知らせします。</p> <p>科目責任者：乾友紀（1217 研究室）、メールアドレス：yuki-i@seirei.ac.jp</p>
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として、講義（1・2・7・13回）では1教室で対面授業を行い、もう1教室は同時双方向型メディア授業を行います。メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を1名配置し、教育の質を維持します。

科目名	老年看護学概論																															
科目責任者	山田 紀代美																															
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター																															
DP番号と科目領域	DP2 専門																															
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																															
科目概要	老年期にある人の特徴を加齢変化から理解し、取り巻く社会の動向や社会問題について知り、老年看護の役割について理解できることを目的とする																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある人の身体・心理・社会的特徴を生涯発達の見点、加齢変化から説明できる</li> <li>2. 老年期にある人を取り巻く社会背景について述べられる</li> <li>3. 老年看護の理念、役割、専門性について述べられる</li> <li>4. 介護保険制度におけるサービスについて理解し、多職種との連携について考えることができる</li> <li>5. 生活機能を重視した ICF モデルの考え方を学習し、高齢者・家族を対象とした看護過程を展開する為の基本的知識を学ぶ</li> <li>6. 高齢者の人権と倫理的問題、尊厳について説明できる</li> </ol>																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回： 老いるということ</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第2回： 人口の高齢化現象と課題</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第4回： ライフステージとしての老年期の特徴</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第7回： 加齢変化と心 (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第9回： 高齢者の人権と倫理的問題 (成年後見制度)</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第10回： 高齢者虐待・拘束</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第11回： 家族介護の多様化と家族支援</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第12回： 介護保険制度とサービス</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第13回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICFモデルの考えかた)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第14回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換</td> <td>山田・齋藤</td> </tr> <tr> <td>第15回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表</td> <td>山田・齋藤</td> </tr> </table>		第1回： 老いるということ	齋藤直志	第2回： 人口の高齢化現象と課題	齋藤直志	第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向	齋藤直志	第4回： ライフステージとしての老年期の特徴	齋藤直志	第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美	第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美	第7回： 加齢変化と心 (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)	山田紀代美	第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)	山田紀代美	第9回： 高齢者の人権と倫理的問題 (成年後見制度)	齋藤直志	第10回： 高齢者虐待・拘束	齋藤直志	第11回： 家族介護の多様化と家族支援	山田紀代美	第12回： 介護保険制度とサービス	齋藤直志	第13回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICFモデルの考えかた)	山田紀代美	第14回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換	山田・齋藤	第15回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表	山田・齋藤
第1回： 老いるということ	齋藤直志																															
第2回： 人口の高齢化現象と課題	齋藤直志																															
第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向	齋藤直志																															
第4回： ライフステージとしての老年期の特徴	齋藤直志																															
第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美																															
第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美																															
第7回： 加齢変化と心 (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)	山田紀代美																															
第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)	山田紀代美																															
第9回： 高齢者の人権と倫理的問題 (成年後見制度)	齋藤直志																															
第10回： 高齢者虐待・拘束	齋藤直志																															
第11回： 家族介護の多様化と家族支援	山田紀代美																															
第12回： 介護保険制度とサービス	齋藤直志																															
第13回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICFモデルの考えかた)	山田紀代美																															
第14回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換	山田・齋藤																															
第15回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表	山田・齋藤																															

アクティブ ラーニング	<p>1. 講義では、具体的事象を想起しやすいよう授業テーマに関連した時事問題や実習場での一場面を提示し、授業時に学生自身の感想・考えを述べる機会（または課題）を設定します。</p> <p>2. 高齢者を理解するために、学生の身近にいる高齢者にインタビューを行いレポートにまとめます。またその内容をグループ毎に発表し意見交換を行います。</p>
授業内の ICT 活用	グループワークは Google drive を使用する。
評価方法	<p>定期試験 90%</p> <p>課題提出物 10%</p>
課題に対する フィード バック	<p>1. 毎回の授業で、質問・感想・要望・改善点等についてリフレクションペーパーを記述してもらい、質問・要望・改善点について次回以降の授業での回答や対応に努めます。</p> <p>2. インタビューのレポートに対しては、個々にはコメントを記入して返却します。また発表会での意見交換時にもコメントを述べフィードバックします。</p>
指定図書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 2018</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院 2018</p>
参考図書	<p>「生活機能からみた老年看護過程」第3版 医学書院</p> <p>「エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン100」日本看護協会出版会</p> <p>その他適宜紹介します。</p>
事前・ 事後学修	<p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>事前学習の具体的内容は授業ごとにプリントを配布します。</p> <p>テキストの関連部分を読み、概要を予習してきてください。（約20分）</p> <p>&lt;事後学修&gt;</p> <p>配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。（約20分）</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>山田紀代美：看護学部 研究室： 研究室 e-mail:</p> <p>時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があります、主に実習終了後の16時30分以降になります。</p> <p>※あらかじめメール予約をしてもらえれば確実です。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として齋藤直志・木村暢男・加藤貴子を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	老年看護援助論 I	
科目責任者	齋藤 直志	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	<p>老年期の健康障害が日常生活に及ぼす影響を知り、家族を含めた老年看護の実践方法について学ぶ。また、健康障害を持つ高齢者の検査・治療や療養を支える具体的な看護援助について学ぶと共に、人生の終焉に向かう高齢者への看護、終末期を看とることの意味とその在り方について学ぶ。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある人の健康・健康障害の段階に適した援助方法を自立支援の視点から理解する。</li> <li>2. 検査・治療を受けている高齢者の援助に必要な基礎的知識・技術が理解できる。</li> <li>3. ライフステージの最終段階に迎える死の過程を学び、QOLについて考えることができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>第 1 回：日常生活行動自立への援助：高齢者の健康に及ぼす環境の影響と援助 山田紀代美 (加齢に伴う変化や健康障害の現れ方の特徴含む)</p> <p>第 2 回：日常生活行動自立への援助：高齢者とコミュニケーション 山田紀代美</p> <p>第 3 回：日常生活行動自立への援助：水分・食生活 齋藤直志 (脱水・誤嚥を伴う場合の援助を含む)</p> <p>第 4 回：日常生活行動自立への援助：排泄 (失禁・排泄障害を含む) 加藤貴子</p> <p>第 5 回：日常生活行動自立への援助：清潔と個人衛生 (ドライスキン含む) 山田紀代美</p> <p>第 6 回：日常生活行動自立への援助：清潔と個人衛生 (褥瘡を含む) 加藤貴子</p> <p>第 7 回：日常生活行動自立への援助：移動と自立への援助 (転倒含む) 木村暢男</p> <p>第 8 回：日常生活行動自立への援助：活動と休息 齋藤直志 (生活のリズム・睡眠障害含む)</p> <p>第 9 回：日常生活行動自立への援助：グループワーク 齋藤直志 日常生活行動自立に向けての高齢者の課題 (転倒・誤嚥・褥瘡など)</p> <p>第 10 回：検査・治療を受けている高齢者の援助：検査・薬物療法 加藤貴子</p> <p>第 11 回：検査・治療を受けている高齢者の援助：手術療法 齋藤直志</p> <p>第 12 回：検査・治療を受けている高齢者の援助：リハビリテーション看護 齋藤直志</p> <p>第 13 回：医療施設における高齢者看護 齋藤直志</p> <p>第 14 回：介護保険施設における高齢者看護 木村暢男</p> <p>第 15 回：高齢者の終末期看護 山田紀代美</p>	

アクティブ ラーニング	日常生活行動自立に向けての高齢者の課題（転倒・誤嚥・褥瘡など）について、 グループワークを行います。
授業内の ICT 活用	グループワークは Google drive を使用する。
評価方法	定期試験 90% 課題提出物 10%（ルーブリックを用いない）
課題に対する フィード バック	グループワークの課題に対するフィードバックは、発表時に助言・指導を行います。 課題レポートに対するフィードバックは、レポートの指導の中で行います。
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院
参考図書	「エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン 100」日本看護協会出版会 参考書等は、随時紹介します
事前・ 事後学修	<事前学習> 具体的内容は授業ごとにプリントを配布します。 特に基礎看護学で学んだ 日常生活の援助や老年看護学概論で学んだ高齢者の身体的・心理的・ 社会的特徴などです。 Web Class で事前課題が出る場合は内容を予習して授業に臨んで下さい。（約 20 分） <事後学修> 配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。（約 20 分）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	齋藤直志：看護学部 研究室：1614 研究室 e-mail：tadashi-s@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があります、 主に実習終了後の 16 時 30 分以降になります。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として 木村暢男、加藤貴子、を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移 動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	老年看護援助論Ⅱ																																													
科目責任者	齋藤 直志																																													
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																																													
DP 番号と科目領域	DP4 専門																																													
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。																																													
科目概要	老年期に特徴的な疾患と、看護方法について学修する。看護過程の展開を通し、疾患や障害を有している高齢者の病態と生活機能の視点から高齢者に必要な看護について学修する。																																													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期に特徴的な疾患に関する基本的知識が理解できる。</li> <li>2. 老年期に特徴的な疾患を抱える高齢者とその家族を対象とした看護方法が理解できる。</li> <li>3. 事例をもとに看護過程を展開し、老年期に必要な看護の特徴を表現できる。</li> </ol>																																													
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：高齢者に特徴的な疾患</td> <td>糖尿病</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：高齢者に特徴的な疾患</td> <td>前立腺肥大、皮膚疾患</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：高齢者に特徴的な疾患</td> <td>心疾患、肺炎、呼吸不全</td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：高齢者に特徴的な疾患</td> <td>認知症、脳血管疾患</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：高齢者に特徴的な疾患</td> <td>骨折（骨粗鬆症を含む）</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：脳血管疾患：脳梗塞・脳出血の看護</td> <td></td> <td>加藤貴子</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：呼吸器疾患：老人性肺炎・呼吸不全の看護</td> <td></td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：循環器疾患：心不全・骨折の看護</td> <td></td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護</td> <td></td> <td>加藤貴子</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：認知症の看護</td> <td></td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：認知症の看護</td> <td></td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）</td> <td></td> <td>齋藤直志</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：事例演習（情報の整理）</td> <td></td> <td>齋藤・山田・木村・加藤</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：事例演習（課題の明確化）</td> <td></td> <td>齋藤・山田・木村・加藤</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：事例演習（課題の計画立案）</td> <td></td> <td>齋藤・山田・木村・加藤</td> </tr> </table>	第 1 回：高齢者に特徴的な疾患	糖尿病	木村暢男	第 2 回：高齢者に特徴的な疾患	前立腺肥大、皮膚疾患	齋藤直志	第 3 回：高齢者に特徴的な疾患	心疾患、肺炎、呼吸不全	齋藤直志	第 4 回：高齢者に特徴的な疾患	認知症、脳血管疾患	木村暢男	第 5 回：高齢者に特徴的な疾患	骨折（骨粗鬆症を含む）	山田紀代美	第 6 回：脳血管疾患：脳梗塞・脳出血の看護		加藤貴子	第 7 回：呼吸器疾患：老人性肺炎・呼吸不全の看護		齋藤直志	第 8 回：循環器疾患：心不全・骨折の看護		山田紀代美	第 9 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護		加藤貴子	第 10 回：認知症の看護		木村暢男	第 11 回：認知症の看護		木村暢男	第 12 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）		齋藤直志	第 13 回：事例演習（情報の整理）		齋藤・山田・木村・加藤	第 14 回：事例演習（課題の明確化）		齋藤・山田・木村・加藤	第 15 回：事例演習（課題の計画立案）		齋藤・山田・木村・加藤
第 1 回：高齢者に特徴的な疾患	糖尿病	木村暢男																																												
第 2 回：高齢者に特徴的な疾患	前立腺肥大、皮膚疾患	齋藤直志																																												
第 3 回：高齢者に特徴的な疾患	心疾患、肺炎、呼吸不全	齋藤直志																																												
第 4 回：高齢者に特徴的な疾患	認知症、脳血管疾患	木村暢男																																												
第 5 回：高齢者に特徴的な疾患	骨折（骨粗鬆症を含む）	山田紀代美																																												
第 6 回：脳血管疾患：脳梗塞・脳出血の看護		加藤貴子																																												
第 7 回：呼吸器疾患：老人性肺炎・呼吸不全の看護		齋藤直志																																												
第 8 回：循環器疾患：心不全・骨折の看護		山田紀代美																																												
第 9 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護		加藤貴子																																												
第 10 回：認知症の看護		木村暢男																																												
第 11 回：認知症の看護		木村暢男																																												
第 12 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）		齋藤直志																																												
第 13 回：事例演習（情報の整理）		齋藤・山田・木村・加藤																																												
第 14 回：事例演習（課題の明確化）		齋藤・山田・木村・加藤																																												
第 15 回：事例演習（課題の計画立案）		齋藤・山田・木村・加藤																																												



アクティブラーニング	第13～15回の授業では、事例をもとに、老年看護学実習Ⅱで使用する実習記録を用いて老年看護過程を展開します。事例を通して、高齢者の生活機能をアセスメントし、目標志向型の看護を学生が主体的に考えられるよう教員が関わりながら看護を展開します。
授業内のICT活用	
評価方法	提出物（老年看護過程）10% 定期試験結果90% ルーブリックでの評価はしない。
課題に対するフィードバック	老年看護過程の授業における演習では、老年看護学領域の教員が巡回しながら学生の主体的な看護計画の立案を確認し、質疑の対応および計画の検討に参加します。
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
参考図書	「生活機能からみた老年看護過程」医学書院 「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程」医歯薬出版 「エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン」日本看護協会出版会 その他適宜紹介します。
事前・事後学修	事前学修は、授業担当教員が原則授業開始1週間前に提示します。指示された事前学修の予習をしてきてください。(20分程度) 提出物は、授業中に提出してください。授業の内容は、要点をまとめ復習してください。(20分程度)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	オフィスアワーは初回授業で提示します
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	

科目名	母性看護学概論
科目責任者	藤本 栄子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	女性の障害を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から、母性看護の対象の特性を理解するための基盤となる概念、および母性看護における倫理を学修する。また、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(性と生殖に関する健康と権利)の観点から、女性と家族の健康問題に積極的関心を持ち、母性看護の役割と今後の課題について理解を深める。さらに、家族計画、性感染症とその予防および看護を中心に、リプロダクティブヘルスケアについて学修する。
到達目標	1. 「母性・父性」「親になること」について理解を深める。 2. 女性の健康における意志決定について理解できる。 3. セクシュアリティについて理解できる。 4. 母性看護の理念と役割、倫理的看護実践について理解できる。 5. 妊娠・分娩・子育てに伴う女性の心理・社会的変化とその援助について理解できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt;</p> <p>第1回：母性看護とは 1) オリエンテーション 藤本栄子 2) 母性とは？父性とは？ 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 産むこと・産まないこと・産めないこと（女性の意思決定について考える） 4) 女性の健康</p> <p>第2回：親になるとは？ ―妊婦さんの体験談から学ぶ― 室加千佳・藤本栄子</p> <p>第3回：人間の性と生殖 命の誕生と性の分化について考える 藤本栄子 1) 性分化のメカニズム 2) 人間の性の特徴、人間の性行動、性アイデンティティ 3) 性周期とホルモン</p> <p>◆第4回：セクシュアリティーLGBTなどの性的少数者の人々について― 日高庸晴 第5回：セクシュアリティー発達各期の性の特徴・健康障害及び看護― 村松美恵 1) 思春期・青年期の性の特徴と看護 2) 成熟期の性の特徴と看護（不妊の女性の看護を含む）</p> <p>★第6回：セクシュアリティ 家族計画と避妊、避妊法の実際（演習） 村松美恵 第7回：性感染症について 黒野智子 第8回：親になること、セクシュアリティのまとめ（中間確認テスト） 村松美恵・藤本栄子 第9回：「妊娠期」ってどんな時期？ 神崎江利子 第10回：「胎児期～新生児期」ってどんな時期？―児からの視点― 室加千佳 第11回：「産む」ってどんなこと？ 神崎江利子 第12回：「産褥期・育児期」ってどんな時期？ 神崎江利子 第13回：妊産婦・新生児に関する法律および施策 神崎江利子</p> <p>◆第14回：「更年期」ってなに？ 黒野智子 ◆第15回：看護者とセクシュアリティ 黒野智子</p>

アクティブラーニング	① 教室内でのグループ・ディスカッションを行い、全体での意見交換を行います。 ② セクシュアリティの演習ではグループ・ワークを行う。
授業内のICT活用	個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、プロジェクターを用いてスクリーンに表示します。また、教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキスト、Nursing Skills、ビジュラン等を使用します。
評価方法	・確認テスト（中間を含む）および定期試験 80%。確認テストは講義時間内に WebClass または紙面にて実施します。 ・事前・事後学修（WebClass 含む）、トピックスレポートへの参加度 20% ・不可の場合は 1 回の再試験をおこないます。 ・演習、レポートで評価するがルーブリックは使いません。
課題に対するフィードバック	・事前学修に関しては、講義で説明します。 ・学生から質問があれば、時間の講義、または WebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。 ・必要事、日程等調整の上、個別の疑問にも対応します。
指定図書	森恵美他編『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』医学書院 森恵美他編『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』医学書院
参考図書	村本淳子、森 明子編『母性看護学概論 第 2 版』医歯薬出版 新道幸恵、後藤桂子訳『ルヴァ・ルービン母性論 母性の主観的体験』医学書院
事前・事後学修	・事前学修は、WebClass または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。 ・事後学修は、授業の最後または WebClass でその日の授業内容に関する課題などを出題します。（事前学修は 60 分程度、事後学修は 30～40 分程度の時間を要する） ・WebClass の利用や提出の際には、日時制限がありますので、各自で必ず確認するようにしてください（WebClass への掲載や入力は、決められた時間以外にはできません） ※詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護学概論のお知らせは webClass を活用しますので、各自で必ず確認するようにしてください。（タイムラインの掲載事項、WebClass からのメールは必ず確認すること。）
オープンエデュケーションの活用	自主学习として、指定図書巻末の動画視聴を勧めます。 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 動画一覧 ナーシング・スキル（日本版） <a href="https://www.nursingskills.jp/">https://www.nursingskills.jp/</a> ビジュラン <a href="https://seirei.visualearn.jp/p/">https://seirei.visualearn.jp/p/</a> （使用日時を厳守のこと）
オフィスアワー	・看護学部 1714 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 ・臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前に下記のメールアドレスを利用して確認してください。 藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp) 黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp), 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp) 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp) 室加千佳 (chika-mu@seirei.c.jp)
実務経験に関する記述	本科目は「助産師」の資格および実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	オリエンテーションやまとめ、非常勤講師の講義、確認テストの実施日（授業で◆の印がついているコマ）は、zoom 等を使用し遠隔操作で 2 部屋同時に開催予定です。★の印が付いているコマは、4 クラスに分かれて演習を行います。

科目名	母性看護援助論 I
科目責任者	神崎 江利子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	女性のライフステージにおける妊娠期・分娩期・育児（産褥）期・胎児及び新生児期の母子の生理的な変化とその特徴を生物学的側面と心理社会的側面および日常生活的側面との関連性の中で学修する。また母子とパートナーおよび家族に対しての看護援助（正常からの逸脱の予防を含む）を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「親になること」について心理・社会的側面から理解できる。</li> <li>2. 妊娠期・分娩期・産褥（育児）期の女性の意思決定を支える支援について理解できる。</li> <li>3. 妊婦、産婦、褥婦および胎児、新生児についてイメージできる。</li> <li>4. 妊娠、分娩、産褥という現象を生理学的に理解できる。</li> <li>5. 妊娠、分娩、産褥という現象が父親と家族に与える心理・社会的変化について理解できる。</li> <li>6. 妊娠期・分娩期・産褥（育児）期の母子の健康の状態に応じた看護の必要性を認識し、正常からの逸脱を予防する日常生活に着眼した方法について理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 母性看護援助論 I の対象ってどんな人？神崎江利子・黒野智子</p> <p>第 2 回：妊産婦さん家族とともに考える赤ちゃんのいる生活 ① <span style="float: right;">黒野智子</span> ～ 褥婦さん（新生児含む）の看護過程 ～</p> <p>第 3 回：「妊婦さん」ってどんな人？ <span style="float: right;">村松美恵</span></p> <p>第 4 回：胎児・新生児の特徴 <span style="float: right;">室加千佳</span></p> <p>第 5 回：妊婦さんと家族とともに考える妊娠期の看護援助 <span style="float: right;">村松美恵</span></p> <p>第 6 回：✿赤ちゃんのお風呂（沐浴）（演習） <span style="float: right;">村松美恵</span></p> <p>第 7 回：赤ちゃんの観察（演習） <span style="float: right;">室加千佳</span></p> <p>第 8 回：✿産褥期の観察と母乳育児支援をイメージする（演習） <span style="float: right;">黒野智子</span></p> <p>第 9 回：中間確認テスト／女性の意思決定を支える援助 <span style="float: right;">神崎江利子</span></p> <p>第 10 回：✿授乳支援（初回授乳）ロールプレイ（演習） <span style="float: right;">神崎江利子</span></p> <p>第 11 回：産婦さんと家族とともに考える分娩期の看護援助（第 1 期～第 4 期） <span style="float: right;">神崎江利子</span></p> <p>第 12 回：産婦さんと家族とともに考える分娩第 1 期の看護援助（演習） <span style="float: right;">神崎江利子</span></p> <p>第 13 回：これまでの振り返り／「褥婦さん」ってどんな人？ <span style="float: right;">神崎江利子</span></p> <p>第 14 回：妊産婦さん家族とともに考える赤ちゃんのいる生活 ② <span style="float: right;">黒野智子</span> ～事例 褥婦さん（新生児含む）の看護過程～</p> <p>第 15 回：褥婦さん家族とともに考える赤ちゃんのいる生活 <span style="float: right;">神崎江利子</span> 看護援助論 I のまとめ</p> <p>※講義および課題学修は 2 クラス、演習✿（6・8・10 回）は 3 クラスに分けて実施予定。  ※具体的な計画は、第 1 回目の授業で配布する授業進度を参照して下さい。  ※演習は状況により日程変更する場合があります。講義前に必ず WebClass で確認して下さい。  ※母性看護学概論で配布した“母性看護学 学修ノート”、“事前学習ワークブック”や資料を使用することがありますので、忘れずに持参してください。</p>

アクティブ ラーニング	課題学修、ロールプレイ、演習では、事前学修を基にグループ・ワークやグループ・ディスカッションを実施した後に、全体での発表等をおこないます。
授業内の ICT 活用	個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、スクリーンまたは電子黒板に表示します。また、教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキスト、Nursing Skills、ビジュアル等を使用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テスト（中間含む）および 定期試験で 70% 。確認テストは講義時間内に web または紙面で実施します。</li> <li>・課題レポート、事前・事後学修（webclass 含む）で 30% 。</li> <li>・不可の場合は 1 回の再試験をおこないます。</li> <li>・課題レポートは、ルーブリックを用いて評価をおこなうものもあります。</li> </ul>
課題に対する フィード バック	事前学修に関しては、講義で説明します。 学生から質問があれば、次の講義、または WebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には個別面談で対応します。
指定図書	『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 ※母性看護学概論と同じテキストを使用いたします。
参考図書	『病気がみえる vol. 10 産科 第 4 版』医療情報科学研究所、メディックメディア 『新生児学入門 第 5 版』仁志田博司、医学書院 ※その他の参考図書については、随時、講義にてお知らせいたします。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修は、WebClass または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。</li> <li>・事後学修は、授業の最後または WebClass でその日の授業内容に関する課題等を出題します。（事前学修は 60 分程度、事後学修は 30～40 分程度の時間を要する）</li> <li>・WebClass の利用に日時制限のあるものがありますので、各自で必ず確認するようにしてください。（WebClass への掲載は、決められた期間以外にはいたしません。）</li> </ul> <p>事前・事後学修として、下記の動画視聴をお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 図書巻末の動画一覧</li> <li>・ナーシング・スキル（日本版） <a href="https://www.nursingskills.jp/">https://www.nursingskills.jp/</a></li> <li>・看護 roo 動画でわかる看護シリーズ <a href="https://www.kango-roo.com/mv/">https://www.kango-roo.com/mv/</a></li> <li>・VISUALEARN クラウド <a href="https://seirei.visualearn.jp/p/">https://seirei.visualearn.jp/p/</a>（使用時間厳守のこと）</li> </ul> <p>※詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護援助論 I のお知らせは WebClass を活用しますので、各自で必ず確認するようにしてください。（タイムラインおよび WebClass からのメールは必ず確認のこと）</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	看護学部 1710 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽に e-mail 等で連絡ください。 神崎江利子（eriko-k@seirei.ac.jp）、黒野 智子（tomoko-k@seirei.ac.jp） 村松 美恵（mie-t@seirei.ac.jp）、室加 千佳（chika-mu@seirei.ac.jp）
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	オリエンテーションやまとめ、中間確認テストの実施日は、zoom 等を使用し遠隔操作で 2 部屋同時に開催予定です。演習では、内容や状況により、同時双方向型演習をおこないます。

科目名	母性看護援助論Ⅱ
科目責任者	黒野 智子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
科目概要	妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の母子の異常に陥るメカニズムとその母子および家族に対する看護について学修する。また、母子の正常からの逸脱を予防する具体的な看護の方法や母親および家族の意志決定を支える援助について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の異常と看護援助(正常からの逸脱を予防する援助を含む)について理解できる。</li> <li>2. 母子の健康が、母親とそのパートナーの『親になること』に与える影響を考察できる。</li> <li>3. 妊産婦に関わる看護師、助産師、保健師の役割および多職種との連携を含めた看護援助が理解できる。</li> <li>4. 母性看護援助を系統的に行うために、看護過程を用いた看護の展開方法を理解できる。</li> <li>5. 母性看護に特有な看護技術を習得し、対象にとって優しいケアとは何か、どのように実践に応用するかを考察できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>◆第1回：母性看護援助論Ⅰの振り返りテストおよび母性看護援助論Ⅱオリエンテーション ハイリスク妊娠とは <span style="float: right;">黒野智子・神崎江利子</span></p> <p>第2回：退院後の生活をイメージする～赤ちゃんのいる生活～(演習①) ゲストスピーカー</p> <p>第3回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護(1) ハイリスク妊娠～妊娠高血圧症候群と関連する合併症の看護～ <span style="float: right;">黒野智子</span></p> <p>◆第4回：ハイリスク新生児～早産児の特徴～ <span style="float: right;">大木茂</span></p> <p>第5回：分娩期におこる危険な出来事とその看護 <span style="float: right;">神崎江利子</span></p> <p>第6回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護(2) ハイリスク妊娠～早産・多胎と関連する合併症の看護～ <span style="float: right;">黒野智子</span></p> <p>第7回：帝王切開の看護 <span style="float: right;">黒野智子</span></p> <p>第8回：ハイリスク新生児とその家族の看護(1) ～母乳育児支援、Developmental Care、Family centered Care～ <span style="float: right;">室加千佳</span></p> <p>第9回：妊産褥婦の異常と看護のまとめ <span style="float: right;">村松美恵・黒野智子</span></p> <p>第10回：ハイリスク新生児とその家族の看護(2)～早産児の看護の特徴～ <span style="float: right;">室加千佳</span></p> <p>◆第11回：周産期の異常 <span style="float: right;">成瀬寛夫</span></p> <p>◆第12回：産褥期の異常 <span style="float: right;">成瀬寛夫</span></p> <p>★第13回：母性看護の技 リラクゼーションの支援(演習②) <span style="float: right;">村松美恵</span></p> <p>★第14回：早産児への優しいケア(演習③) <span style="float: right;">室加千佳</span></p> <p>★第15回：褥婦のケア(演習④) <span style="float: right;">黒野智子</span></p> <p>※具体的な時間割は、第1回目の授業で配布する時間割表を参照して下さい。</p> <p>※◆の印のついている回(1, 4, 11, 12回)は教室間の遠隔授業で講義をします。</p> <p>★の印のついている回(13, 14, 15回)は、3クラスに分かれて、演習をおこないます。</p> <p>その他の回(2, 3, 5, 6, 7, 8回)は、2クラスに分かれて講義・演習をおこないます。</p> <p>※講義・演習は状況により日程変更する場合があります。講義前に必ずWebClassで確認して下さい。</p> <p>※母性看護援助論Ⅰで配布した“母性看護学 学修ノート”、“事前学習ワークブック”や資料を使用することがありますので、忘れずに持参してください。</p>

アクティブラーニング	事前学修を基にグループ・ワークやグループ・ディスカッション、ロールプレイ等を実施した後に、全体での発表等をおこないます。課題学修、演習（2, 13, 14, 15 回）や講義では、妊産婦や早産児のケアを実践を通してグループワークをおこないます。
授業内の ICT 活用	第 14 回：早産児への優しいケアの演習では、早産児シミュレータや 360 度カメラ、電子黒板を使ってグループで考えた「優しいケア」をリアルタイムで映写し、クラスで共有します。また、教員が作成した DVD、NursingSkills、ビジュラン等を使用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護援助論 I の振り返りテストおよび定期試験 70% 振り返りテストは講義時間内に紙面にて実施します。</li> <li>課題レポートおよび事前・事後学修（webclass 含む）30%</li> <li>不可の場合は 1 回の再試験をおこないます。</li> <li>課題レポートは、ループブックを用いて評価をおこなうものもあります。</li> </ul>
課題に対するフィードバック	事前学修に関しては、講義で説明します。 学生から質問があれば、次回の講義、または WebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には個別面談で対応します。
指定図書	『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院
参考図書	『病気がみえる vol. 10 産科 第 4 版』医療情報科学研究所、メディックメディア 『新生児学入門 第 5 版』仁志田博司、医学書院 自主学习として、下記の動画視聴を勧めます。 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 巻末動画一覧 ナーシング・スキル（日本版） <a href="https://www.nursingskills.jp/">https://www.nursingskills.jp/</a> ビジュラン <a href="https://seirei.visualearn.jp/p/">https://seirei.visualearn.jp/p/</a> （使用日時を厳守のこと） その他、NHK ハートネットテーマ別情報 HP <a href="https://www.nhk.or.jp/heart-net/topics/">https://www.nhk.or.jp/heart-net/topics/</a> など ※その他の参考図書については、随時、講義にてお知らせいたします。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修は、WebClass または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。</li> <li>事後学修は、授業の最後または WebClass でその日の授業内容に関する課題等を出題します。（事前学修は 60 分程度、事後学修は 30～40 分程度の時間を要する）</li> <li>必ず決められた時刻までに、リアクションペーパーを WebClass に入力してください。</li> <li>WebClass の利用や提出の際には、日時制限がありますので、各自で必ず確認するようにしてください。（WebClass への掲載や入力は、決められた期間以外にはできません。）</li> </ul> <p>※詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護援助論 II のお知らせは WebClass を活用しますので、各自で必ず確認するようにしてください。（タイムラインの掲載事項、WebClass からのメールは必ず確認すること。）</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	看護学部 1709 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽に e-mail 等で連絡ください。 黒野 智子（ tomoko-k@seirei.ac.jp ） 神崎江利子（ eriko-k@seirei.ac.jp ）、 村松 美恵（ mie-t@seirei.ac.jp ）、 室加 千佳（ chika-mu@seirei.ac.jp ）
実務経験に関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	オリエンテーション、非常勤講師の講義、確認テストの実施日（授業計画で◆の印がついているコマ）は 2 教室遠隔授業を開催予定で、各部屋に教員を配置して質問に答る等行ないます。

科目名	小児看護学概論
科目責任者	市江 和子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護や養護の対象である小児の特性を、子どもを取り巻く環境と成長・発達の側面から学ぶ。また、健全な発達を支援する小児保健に関する施策の意義と内容を、保健医療、福祉、教育の面から検討し、発達段階別の生活と養護について理解する。さらに、小児の各発達段階に応じた健康の維持増進を支援する小児看護の機能と役割について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長・発達について学び、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。</li> <li>2. 小児保健の動向をとらえ、小児における保健・医療・福祉について理解する。</li> <li>3. 小児期における基本的な生活習慣、健康診査、予防接種について学び、小児とその家族の健康をまもるための支援を理解する。</li> <li>4. 小児期特有の事故について学び、安全教育の必要性を知り、事故対策および救急法の具体的な援助を理解する。</li> <li>5. 子どもの権利と小児看護における倫理的問題を理解する。</li> <li>6. 小児医療と小児看護における看護職の果たす役割を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 小児の概念と小児看護の理念および役割 市江和子 成長・発達に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第2回 小児の成長・発達の概観①(成長・発達の原則、影響要因) 市江和子</p> <p>第3回 小児の成長・発達の概観②(形態的成長・発達) 市江和子</p> <p>第4回 小児の成長・発達の概観③(機能的発達) 市江和子</p> <p>第5回 小児の成長・発達の概観④(心理社会的発達・発達の評価) 市江和子</p> <p>第6回 基本的な生活習慣の発達とその援助①(新生児、乳児) 宮谷 恵</p> <p>第7回 基本的な生活習慣の発達とその援助②(幼児、全般) 宮谷 恵</p> <p>第8回 基本的な生活習慣の発達とその援助③(離乳食について) 宮谷 恵</p> <p>第9回 事故の予防と安全教育(救急法を含む) 宮谷 恵</p> <p>第10回 小児保健の動向① 宮谷 恵 (小児を取り巻く社会環境、小児保健に関する統計)</p> <p>第11回 小児保健の動向②(小児をめぐる法律と施策) 宮谷 恵</p> <p>第12回 予防接種 小出扶美子</p> <p>第13回 乳幼児期の健康診査と保健指導 小出扶美子</p> <p>第14回 子どもの人権と倫理的問題 市江和子 権利・倫理的問題に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第15回 小児看護・医療の変遷と展望 市江和子</p>



アクティブ ラーニング	授業ごとにリアクションペーパーでの質問、意見には授業時や全体・個別メール、WebClassで返答する。 「基本的生活習慣の発達とその援助③（離乳食について）」においては、離乳食に関する演習を実施する。
授業内の ICT活用	インターネットから必要な情報を検索して、ワークシートの学習をする。
評価方法	筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。 ルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	学習内容に関するワークシートを課題とし、学習の進め方を随時説明する。授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2017 厚生労働統計協会編：『国民衛生の動向』2017/2018、厚生労働統計協会、2017
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、1回の講義に40分程度、事前学修を進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修として復習してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	市江和子：金曜日午前（1712研究室） Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	小児看護援助論 I	
科目責任者	小出 扶美子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	小児期の特徴的な疾病に関する病理、病態および治療とさまざまな症状に対する看護の方法を学修する。また、健康障害・入院が子どもと家族に及ぼす影響について学び、健康を障害された子どもとその家族を理解し、子どもの成長・発達段階、健康レベル及び子どもと家族の権利をふまえた看護援助の方法を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害・入院が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、その影響を最小限とするための看護を理解する。</li> <li>2. 小児期におこりやすい疾患の病理・病態および治療を理解する。</li> <li>3. 子どもと家族の権利をふまえた看護援助として、プレパレーションの必要性とその方法を理解し、検査や処置のプレパレーションの内容を考えることができる。</li> <li>4. 小児期におこりやすい健康障害のさまざまな症状とそのアセスメントと看護の方法が理解できる。</li> <li>5. 健康を障害された子どもの成長・発達段階、健康レベルに応じた看護を理解する。</li> </ol>	
授業計画	<p>第1回： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護</p> <p>第2回： 外来における子どもと家族の看護</p> <p>第3回： 子どもの疾患① (出生前・新生児疾患)</p> <p>第4回： 子どもの疾患② (子どもの代謝性疾患・内分泌疾患)</p> <p>第5回： 子どもの疾患③ (子どもの感染症)</p> <p>第6回： 子どもの疾患④ (子どもの呼吸器疾患・アレルギー疾患)</p> <p>第7回： 子どもの疾患⑤ (子どもの循環器疾患・悪性新生物)</p> <p>第8回： 子どもの疾患⑥ (子どもの消化器疾患・腎疾患)</p> <p>第9回： 子どもの疾患⑦ (子どもの神経疾患)</p> <p>第10回： 子どもとプレパレーション① (入院している子どもにとっての遊びの意義、プレパレーションとは)</p> <p>第11回： 子どもとプレパレーション② (子どもの権利とプレパレーション、プレパレーションの方法と内容)</p> <p>第12回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護① (発熱、脱水)</p> <p>第13回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護② (呼吸困難、痙攣、発疹、他)</p> <p>第14回： 急性期にある子どもと家族の看護</p> <p>第15回： 慢性期にある子どもと家族の看護</p>	<p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>大木 茂</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>大呂陽一郎</p> <p>岡田 真人</p> <p>岡田 真人</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>山本 智子</p> <p>山本 智子</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p>

アクティブ ラーニング	講義内容に関連した「考えてみよう」を提示し、小グループでのディスカッションを取り入れる。授業ごとにリアクションペーパーをとり、質問や意見に対して、授業時や全体・個別メール、WebClass で回答する。
授業内の ICT 活用	授業ごとのリアクションペーパーの提出はWeb Class を活用する。
評価方法	筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。 課題はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	ワークシートの回答は、授業時またはWebClass に提示する。 プレパレーションの課題は、提出後評価し、内容に対するコメントをつけたのち、返却する。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』 オーム社 2017 奈良間美保編：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②』、医学書院
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	講義予定表に記載してある授業テーマと関連する教科書の章を読むこと。また、看護に関する講義は自己学習のノートを配布するので、講義後に講義内容の要点をノートで復習する。 医師による講義は、WebClass にあげた課題を教科書を活用して事後学修する。 1 コマあたりの時間の目安は予習 20 分、復習 20 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 山本 智子：月曜日午後（1218 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」と「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う。 1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施する。履修者を 2 グループに分けて、履修者は対面授業を 8 回、メディア授業 7 回受講することとなる。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を 1 名配置し、教育の質を維持する。

科目名	小児看護援助論Ⅱ
科目責任者	宮谷 恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
科目概要	小児の発達段階と健康レベルをふまえ、健康障害および発達障害をもつ小児および家族への看護援助を理解し、基本的な技術と態度を学ぶ。小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰで学習した知識、技術を、事例展開や演習を活用して実践し、小児と家族へのより適切な援助や養護の重要性の理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期におこりやすい健康障害をもつ小児とその家族への看護の方法が理解できる。</li> <li>2. 健康障害および発達障害が小児とその家族に及ぼす影響が理解できる。</li> <li>3. 小児看護を実践するために、基本的な看護過程及び特有な看護技術が理解できる。</li> <li>4. 他領域も含め学んできた知識を用いて、健康障害および発達障害をもつ小児とその家族の特性を考慮した看護援助について考察することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回：腎臓に障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第2回：循環器に障害をもつ子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第3回：悪性新生物の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第4回：心身障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第5回：障害をもち在宅生活する子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第6回：周手術期の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第7回：検査・処置を受ける子どもの看護① 小出扶美子 (検査・処置を受ける子どもと家族の体験と援助)</p> <p>第8回：検査・処置を受ける子どもの看護② 小出扶美子 (採血、与薬、輸液方法等の検査・処置について)</p> <p>第9回：小児の看護過程①(看護過程の基本と看護診断) 市江和子</p> <p>第10回：小児の看護過程② 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：健康障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第11回：小児の看護過程③ 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第12回：子どものフィジカル・アセスメント① 山本智子 (総論、一般状態、頭部・頸部、胸部・背部、リンパ系、皮膚等)</p> <p>第13回：子どものフィジカル・アセスメント② 山本智子 (腹部、四肢、臀部等、心臓・血管系、筋・骨格系、神経系)</p> <p>第14回：小児看護技術演習①(オリエンテーション) 宮谷 恵</p> <p>第15回：小児看護技術演習②(実技演習) 宮谷 恵、市江和子、小出扶美子、山本智子</p>

アクティブラーニング	第15回目に小児モデル人形・バイタルサインシミュレーターを用いた実技演習を行う。また授業ごとにリアクションペーパーでの質問・意見には授業時や個別メール、WebClassで返答する。
授業内のICT活用	授業ごとのリアクションペーパーはWeb Classを活用する。
評価方法	筆記試験 95%、実技演習のルーブリック評価5%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	自己学修ノート（ワークシート）への回答は、授業時に提示する。
指定図書	市江和子編：『看護系標準教科書 小児看護学』、オーム社、2017 奈良間美保編：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②』、医学書院（e-テキストの方を選択してもよい）
参考図書	必要時に提示する。
事前・事後学修	事前学習としては、その日の授業内容（テーマ）をあらかじめ確認し、小児看護学関連だけでなく他の授業科目の内容でも、すでに学習している関連事項について復習しておいて下さい。事後学習はその日のうちに、配布資料等を見直してわからなかったことを調べ、自己学修ノート（ワークシート）が提示される場合はそれを行い、学びを定着させて下さい。1コマあたりの時間の目安は事前学習 20分、事後学習 20分です。
オープンエデュケーションの活用	講義の理解に役立つ動画やインターネット上のサイトは講義時に紹介、またはWebClassに掲載します。
オフィスアワー	宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） kazuko-i@seirei.ac.jp 山本智子：月曜日午後（1218 研究室） tomoko-y@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため2教室での授業を行う。 1教室で対面授業を行い、もう1教室は同時双方向型メディア授業を実施する。履修者を2グループに分けて、履修者は対面授業を7回、メディア授業7回受講することとなる。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を1名配置し、教育の質を維持する。

科目名	精神看護学概論	
科目責任者	入江 拓	
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	精神疾患を抱えて生きる対象者や家族に看護師として向かうためには、看護過程、疾患や治療に関する知識は必要不可欠ですが、こころの病いととも生きる事が、当事者にどのように心理社会的にまた、主観的に「体験」されるのか、ということに関する理解がその土台となります。看護師も同じ人間としての弱さや限界を抱える存在であることを認めつつ、対象者を冷静に捉える視座を養うことが大切です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が各自の人間観および、養われつつある看護観を吟味し記述できる。</li> <li>2. 精神看護の目標と役割について説明できる。</li> <li>3. 精神の機能と障害について、当事者（個人・家族）の主観的体験という視点からイメージできる。</li> <li>4. 精神疾患の病態・病理および治療の概観について理解できる。</li> </ol>	
授業計画	<p>第1回：精神看護とは （こころとからだ、正常と異常、人間観）</p> <p>第2回：精神看護の目的と役割 （対象者の主観的体験とは？）</p> <p>第3回：精神看護では何をどのように見るか （どこから何を眺めているのか？）</p> <p>第4回：精神看護に求められるもの （対象者を解ろうとすることを阻むもの。偏見・囚われ・構え）</p> <p>第5回：精神看護における対象者の理解の試み （対象者と取り巻く状況の視覚化）</p> <p>第6回：ライフサイクル各期における心理発達の障害 （危機的状況に焦点をあてて）</p> <p>第7回：精神疾患の成り立ち （精神の機能と障害）</p> <p>第8回：脳故障類型と精神症状</p> <p>第9回：神経症性障害</p> <p>第10回：気分障害</p> <p>第11回：統合失調症</p> <p>第12回：器質性精神障害（症状性精神障害を含む）</p> <p>第13回：精神科治療（薬物療法、精神療法、社会資源の利用）</p> <p>第14回：生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 （摂食障害、アルコール関連精神障害、薬物依存）</p> <p>第15回：精神看護の行為を支えるもの （ケアリング・共感・精神看護とは、まとめ）</p>	<p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;今泉寿明&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p> <p>&lt;入江拓&gt;</p>

アクティブ ラーニング	当事者の主観的体験をふまえた看護をおこなうための視座を養うために、自己理解および、対象理解のための小課題をおこないます。結果は全体に対して解説し、それを受けてさらに課題レポートを作成しWEB Classにて提出します。これまでの自分自身のありようや、物事に対する考え方や構え、捉え方の癖などについてあらためて振り返り、「自分の言葉」で「自分の考え」を表現することから始めることが必要です。適宜課せられる指定図書による予習・復習および、学んだことや疑問を整理して記述するリアクションペーパーへの言語化は各単元の理解を深める上で大切です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験 95%、課題提出物 5%、で総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	演習及び課題レポートの結果については、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については個人が特定されない形で適宜資料にて全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。
指定図書	「看護のための精神医学」中井久夫・山口直彦. 医学書院 第2版 (2004) 「精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-」 (改定第4版) 上島国利・立山万里・三村将. 南江堂 (2017)
参考図書	「精神病というところ」松木邦裕. 新曜社 (2001)
事前・ 事後学修	事前・事後学習：授業内容に関連する資料は毎回配布します。適宜指定図書および、配布資料内から 40 分程度で可能な事前・事後学修を課します。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	入江は看護学部の所属 (3403 研究室 taku-i@seirei.ac.jp) です。授業内容に関する質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取るか、講義後に声をかけてください。時間調整をして応じます。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	精神看護援助論 I	
科目責任者	小平 朋江	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	精神看護学の枠組みや看護援助のための知識を踏まえ、看護過程など臨床で精神疾患を持った対象者に対してどのように治療的に関わっていくか、その援助のあり方を具体的に学びます。精神疾患を抱えながら生きる対象者は、どのような体験をしているのかに関心を持てることが重要です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学で必要とされている知識と技術を理解できる。</li> <li>2. 精神疾患を抱えながら生きる対象者が体験していることと呈する症状・状態を関連させて看護援助について記述できる。</li> <li>3. 精神看護学で使用する各種の理論とそのアプローチの方法を理解できる。</li> <li>4. 精神保健福祉および精神医療体制の現状を理解できる。</li> <li>5. 「入院している場」と「生活している場」とを結び付けてイメージできる。</li> </ol>	
授業計画	<p>第 1 回：精神看護学の概観①精神医療の概念枠組み</p> <p>第 2 回：精神看護学の概観②精神看護学の看護過程</p> <p>第 3 回：精神科臨床の流れ</p> <p>第 4 回：統合失調症をもつ人の体験世界</p> <p>第 5 回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（急性期）</p> <p>第 6 回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（慢性期）</p> <p>第 7 回：神経症性障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 8 回：パーソナリティ障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 9 回：気分（感情）障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 10 回：摂食障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 11 回：アルコール使用障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 12 回：薬物療法と看護</p> <p>第 13 回：精神科リハビリテーションと地域におけるサポートシステム</p> <p>第 14 回：精神看護における援助的人間関係とは</p> <p>第 15 回：まとめ</p>	<p>入江 拓</p> <p>入江 拓</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>清水隆裕</p> <p>清水隆裕</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p>



アクティブラーニング	授業後のリアクションペーパーでは、疾患や障害の特徴を踏まえて自分はどうな関わりや看護援助をしたいか具体的に考え、記述することを通して、学生なりの看護援助を説明する経験を積み重ねていきます。授業の中で活用する「ナラティブ教材」(病いや障害の語りの教材)を参照し、授業進行中の期間にナラティブに関連の資料を本学の図書館などで探してみます。このような資料に触れることで、学生自身の気づきや学びを手がかりに、病いの体験を知ることが大切です。そして、授業の終盤で2～3人の小さなグループで話し合う時間を持ち、当事者視点の病いの体験について考えます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 95%、課題提出物 5%、各單元ごとに知識の確認を行い、総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに記述される気づきや学び、疑問を講義でフィードバックして共有しながら、授業を進めていきます。
指定図書	川野雅資編「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は40分程度です。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者 小平朋江 (3401 研究室:tomoe-k@seirei.ac.jp) 精神看護学実習で実習病院に向いている時間帯が多いため、面接予約などは早めにメールで連絡を入れて下さい。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神看護援助論Ⅱ	
科目責任者	清水 隆裕	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。	
科目概要	ライフサイクル各期における精神保健の課題について精神保健上の意味を再検討し、さらに地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識と方法を学修する。さらに、精神看護の看護過程を展開する際に必要な知識と方法について整理し、理解を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医療の歴史および関連法規が説明でき、臨床の場での活用方法を学ぶ。</li> <li>2. ライフサイクル各期における精神保健の課題が説明でき、対象の課題を理解できる。</li> <li>3. 地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識を理解し、説明できる。</li> <li>4. 精神疾患により入院治療中の対象者を理解し、看護過程の展開方法を説明できる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：精神看護学概論・援助論Ⅰの振り返りと援助論Ⅱの位置づけ &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第2回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校） &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第3回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・中年・高齢者） &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第4回：ライフサイクルを通しての課題（依存、自殺、認知症） &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第5回：精神医療の歴史と看護、関連法規・政策の変遷 &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第6回：精神看護における倫理と関連法規の復習（行動制限） &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第7回：精神看護の要点 &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第8回：精神看護における看護診断と看護計画 &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第9回：精神看護におけるアセスメント技法 &lt;入江 拓&gt;</p> <p>第10回：精神看護における全人的理解のための試み &lt;入江 拓&gt;</p> <p>第11回：精神看護実習における情報の整理と活用 &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第12回：薬物療法①（薬理作用等の復習） &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第13回：薬物療法②（精神看護と薬物療法） &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第14回：精神看護における地域精神保健活動と地域移行支援 &lt;清水隆裕&gt;</p> <p>第15回：まとめ &lt;清水隆裕&gt;</p>	

アクティブラーニング	地域精神保健活動における課題、グループワークで課題をまとめ発表します。学生と質疑応答しながら講義を進めるため、事前学習・事後学習の課題を出します。
授業内のICT活用	地域精神保健活動における課題ではICTを使います。事前に必要なICTを伝えます。
評価方法	定期試験95%・小テスト5%を基本としますが、授業時の演習への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価します。 ルーブリックは用いません。
課題に対するフィードバック	演習及び課題レポートについては、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。
指定図書	川野雅資：精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版、Nouvelle HIROKAWA, 川野雅資編「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA 「精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-」（改定第4版）上島国利・立山萬里・三村将. 南江堂（2017）
参考図書	中井久夫・山口直彦 「看護のための精神医学」医学書院 第2版（2004） 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版
事前・事後学修	指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は40分程度です。
オープンエデュケーションの活用	活用しません。
オフィスアワー	清水隆裕は看護学部の所属（1214 研究室 <a href="mailto:takahiro-sh@seirei.ac.jp">takahiro-sh@seirei.ac.jp</a> ）です。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取り、おいでください。
実務経験に関する記述	本科目は精神科看護師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	在宅看護学概論	
科目責任者	山村 江美子	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	在宅看護を必要とする社会的背景を踏まえ在宅看護の目的、対象や活動の特徴、さらに在宅看護を支える法制度について学びます。また、在宅看護の対象としての家族について基本的な理論と支援方法を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護を必要とする背景を理解し在宅看護の目的、特徴を説明できる</li> <li>2. 在宅看護の対象者の特徴について説明ができる</li> <li>3. 在宅看護を支える法制度や訪問看護制度の概要を説明できる</li> <li>4. 在宅療養支援の基本となるケアマネジメントや連携について理解し説明できる</li> <li>5. 基本的な家族看護論を理解し、家族をアセスメントする方法がわかる</li> </ol>	
授業計画	第1回：在宅看護が必要となる背景	山村江美子
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口構造の動向</li> <li>・ 健康に関する動向</li> <li>・ 在宅ケア推進の必要性</li> </ul>	
	第2回：在宅看護の目的	山村江美子
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅看護の定義と目的</li> <li>・ 在宅看護の位置づけ</li> <li>・ 在宅看護の機能、日本における在宅看護活動と提供機関</li> </ul>	
	第3回：在宅看護の対象理解	山村江美子
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅看護の対象</li> <li>・ 年齢・疾患・障害からみた対象者の特徴、</li> <li>・ 対象を理解するためのモデル ICF</li> </ul>	
	第4回：在宅看護を支える法制度	山村江美子
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療制度とは ・医療保険制度の概要 ・医療保険制度改正と近年の動向</li> <li>・ 介護保険制度 ・介護保険制度の目的 ・介護保険制の変遷と概要</li> </ul>	
第5回：訪問看護の制度と機能	山村江美子	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問看護に関する制度（医療保険、介護保険、精神科訪問看護、公費負担制度）</li> <li>・ 訪問看護ステーション（仕組み、運営、個人情報保護）</li> <li>・</li> </ul>		
第6回：訪問看護ステーションにおける在宅看護の実際	ゲストスピーカー 訪問看護 ST 所長	
第7回：在宅看護における支援の特徴① ケアマネジメント	岩瀬美保	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅ケアにおける社会資源</li> <li>・ ケアマネジメントの定義と目的</li> <li>・ ケアマネジメントの展開</li> <li>・ 介護保険制度におけるケアマネジメント</li> <li>・ 介護支援専門員の業務</li> </ul>		
第8回：在宅看護における支援の基本 チームケアと多職種連携	岩瀬美保	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームケアの必要性</li> <li>・ 連携方法</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続看護</li> <li>・ 入退院支援とは、</li> <li>・ 入退院支援の方法</li> </ul> <p>第9回：地域における多職種連携の実際 ゲストスピーカー/竹田拓未 (理学療法士/いなさ南部ケアセンター)</p> <p>第10回：在宅看護支援の特徴② 酒井昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意思決定支援と倫理的課題</li> </ul> <p>第11回：家族看護論① 看護の対象である家族 山村江美子</p> <p>家族看護の定義、家族のもつセルフケア機能</p> <p>第12回：家族看護論② 家族発達理論・家族システム理論 山村江美子</p> <p>理論を活用して家族のアセスメントを行う</p> <p>第13回：家族看護論③ 家族ストレス対処理論 山村江美子</p> <p>理論を活用して家族のアセスメントを行う</p> <p>第14回：家族看護論④ 家族を理解する-事例を通して考える 山村江美子</p> <p>第15回：地域包括ケアシステムと看護の役割 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括ケアシステムの機能と構成</li> <li>・ 地域包括支援センターの機能</li> <li>・ 地域包括ケア時代の看護の役割を考える</li> </ul>
アクティブ ラーニング	本授業は、事例学修を含めた構成であり、学生間のディスカッション等を取り入れていきます。
授業内の ICT 活用	授業前後の小テスト、リアクションペーパー、課題レポートの提出は、WebClass を利用して行います。
評価方法	定期試験 70%、リアクションペーパー20%、小テスト 10%、 計 100%
課題に対する フィード バック	事前事後学習およびリアクションペーパーにおいて、必要な内容について次回の講義の中で説明します。
指定図書	河原加代子著者代表 (2020). 系統看護学講座、統合分野、在宅看護論第5版、医学書院
参考図書	授業中に随時提示します
事前・ 事後学修	授業後に WebClass 内の事後学修 (小テスト) に回答すること (各 40 分 2~15 回)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	講義終了後の休憩時間に研究室に待機します。臨地実習指導の実習施設へ移動することが多くなるのでメールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 (3412 研究室) emiko-y@seirei.ac.jp 岩瀬 美保 (3413 研究室) miho-i@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「地域・在宅看護、臨床看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とします。遠隔授業で受講する教室においては、教員が待機し、質疑応答も対応します。

科目名	在宅看護援助論	
科目責任者	小池 武嗣	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 5セメスター	
DP番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。	
科目概要	在宅という生活の場において実践される在宅看護の特性を理解するために、在宅看護の知識および具体的な訪問看護技術を学び、事例演習を通して在宅看護過程の展開を理解する。在宅看護の対象である、療養者と家族のセルフケア機能が発揮される看護援助のあり方を学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護過程の展開方法を学び、生活の場ならではの視点を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 生活の場における看護実践の特性と、訪問看護技術を理解し、説明することができる。</li> <li>3. 療養者・家族の健康段階に合わせた看護職の支援のあり方と役割について理解し説明できる。</li> <li>4. 終末期にある療養者と看取る家族の体験を理解し、看護援助方法について説明できる。</li> <li>5. 事例演習を通して、根拠に基づいた在宅看護過程の展開を理解し、その学びを説明できる。</li> </ol>	
授業計画	<p>第1回：在宅看護過程の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養を支援する看護展開のポイント、展開の特徴（長期的・包括的）</li> <li>・展開方法 情報収集の項目・アセスメントの側面・目標計画立案</li> <li>・事例を用いて、看護過程を展開</li> </ul> <p>第2回：慢性疾患を抱える在宅療養者・家族におけるセルフケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICFの概念をもとに慢性疾患を抱えながら地域で生活するにあたっての看護を考える。</li> </ul> <p>第3回：地域で生活する高齢者と家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者、認知症高齢者が地域での生活を継続するにあたっての看護を考える。</li> <li>・自立支援、意思決定支援（倫理的課題含む）</li> </ul> <p>第4回：在宅における医療的ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡、在宅中心静脈栄養法、在宅人工呼吸療法、在宅酸素療法</li> <li>・在宅療養に活用される在宅医療福祉機器</li> <li>・療養者と家族が管理するという視点</li> </ul> <p>第5回：在宅における難病療養者と家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難病に焦点を当てて、地域での生活継続への支援を考える。</li> </ul> <p>第6回：在宅における小児看護の実際</p> <p>第7回：在宅における終末期看護の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅での看取りの看護 ・看取りを行う家族への支援</li> <li>・意思決定支援、ACPについて</li> </ul> <p>第8回：在宅における終末期看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療、ターミナルケア、疼痛コントロール、</li> <li>・訪問看護師の役割</li> </ul> <p>第9回：感染管理とリスクマネジメント（災害含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護における感染管理</li> <li>・平常時からの準備、災害時の対応</li> <li>・対象者・家族との信頼関係の構築に向けて</li> </ul> <p>第10回：在宅療養への移行に向けた継続看護としての退院調整支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続看護とは ・病院から在宅移行に向けた支援</li> <li>・病棟看護師、退院調整看護師、訪問看護師の役割 ・多職種連携</li> </ul>	<p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>宮谷 恵</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>木村幸子</p> <p>酒井昌子</p> <p>大木純子</p>

	<p>第 11～14 回：事例演習 <span style="float: right;">小池・酒井・山村・岩瀬</span></p> <p>第 11・12 回：事例分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例のアセスメント 情報を 4 つの側面の視点で分析</li> </ul> <p>第 13・14 回：事例展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族構成図作成</li> <li>・関連図の作成により全体像の把握</li> <li>・療養者、家族の意思を尊重した看護計画の立案</li> </ul> <p>第 15 回：事例演習講評 在宅看護援助論まとめ <span style="float: right;">小池武嗣</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例に対する在宅看護過程展開の視点</li> <li>・生活の場での看護実践について</li> </ul>
アクティブラーニング	<p>第 11 回～第 14 回は、事例による看護過程の展開を行います。個人ワークを主体として実施しますが、ノートパソコンの持ち込みを許可し、事例において探索が必要なことは、その場で調べるといった取り組みを行います。ジェノグラム作成、事例のアセスメント、関連図作成、看護計画の作成を行います。内容について他学生とのディスカッションも実施します。</p>
授業内の ICT 活用	<p>リアクションペーパー、課題レポート、演習報告レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義終了後の小テストも、Web Class を使用します。事例演習では、ノートパソコン、スマートフォンを授業時間内に使用することを認めます。</p>
評価方法	<p>◆演習最終課題レポート 50% ◆演習時の報告レポート 20% ◆リアクションペーパー 20%</p> <p>◆小テスト 10%</p> <p>事例演習のレポートの評価は、ルーブリックを用いて評価を行います。</p> <p>ルーブリックの内容は、演習開始時提示します。</p>
課題に対するフィードバック	<p>事前事後学修およびリアクションペーパーにおいて、対応が必要な内容へのフィードバックについては、次回の講義の中で説明します。事例演習については、教員が学修を支援しますので、その場で質問をしてください。</p>
指定図書	<p>河原加代子著者代表 (2017). 系統看護学講座、統合分野、在宅看護論第 5 版、医学書院</p>
参考図書	<p>授業中に随時提示します。</p>
事前・事後学修	<p>講義後に webClass 内の事後学修 (小テスト) に取り組んでください。</p> <p>第 12 回～第 14 回は、WebClass 内の事前学修に取り組みましょう。</p> <p>(事前・事後学修 40 分程度になります)。</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>なし</p>
オフィスアワー	<p>講義・事例演習終了後の休憩時間に研究室で待機します。その後は実習指導のため実習施設へ移動することが多くあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。</p> <p>小池武嗣 (1214 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア授業の実施について	<p>2 教室間での遠隔授業を基本とします。遠隔授業で受講する教室においては、小池武嗣助教が待機し、質疑応答等も対応します。授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑に応じます。</p>

科目名	地域包括ケア看護論
科目責任者	酒井 昌子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようにするための地域包括ケアについて、その概念や実際の生活・支援について学び、地域に暮らす生活者の視点から看護の役割・機能について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアについて、概念や基本的な考えを理解できる。</li> <li>2. 健康上のニーズを抱えながら地域で暮らす人々における多様な生活を理解できる。</li> <li>3. 住み慣れた地域で今後も自分らしく暮らし続けるための自助・互助・共助・公助について理解できる。</li> <li>4. 今後も地域で暮らし続けることを希望する事例について、生活者の視点から地域包括ケアについての理解を深め、その中での看護の役割・機能について考えることができる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">         &lt;授業内容・テーマ等&gt;         <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span> </p> <p style="text-align: center;">酒井昌子、宮谷 恵、小平朋江、黒野智子、木村暢男、兼子夏奈子、岩瀬美保</p> <p>第1回：地域包括ケアの概念 <span style="float: right;">&lt;酒井&gt;</span></p> <p>第2回：地域包括ケアの基本的な考え <span style="float: right;">&lt;兼子・岩瀬&gt;</span></p> <p>第3回：地域で暮らす人々の多様な生活①（妊産婦・障がい児） <span style="float: right;">&lt;黒野・宮谷&gt;</span></p> <p>第4回：地域で暮らす人々の多様な生活②（精神障がい者） <span style="float: right;">&lt;小平&gt;</span></p> <p>第5回：地域で暮らす人々の多様な生活③（認知症者） <span style="float: right;">&lt;木村&gt;</span></p> <p>第6回：地域包括ケアの実際 ① <span style="float: right;">ゲストスピーカー 杉本和美</span>          ・身体障害を抱えながらの生活・社会活動について</p> <p>第7回：地域包括ケアの実際 ② <span style="float: right;">ゲストスピーカー 滝川八千代</span>          ・高次脳機能障害を抱えながらの生活・家族支援について</p> <p>第8回：地域包括ケアの実際 ③ <span style="float: right;">ゲストスピーカー 久保田翠</span>          ・知的障がい者自立支援について</p> <p>第9・10回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）①② <span style="float: right;">&lt;担当教員全員&gt;</span>          ・オリエンテーション          ・事例の生活の理解1</p> <p>第11・12回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）③④ <span style="float: right;">&lt;担当教員全員&gt;</span>          ・事例の生活の理解2          ・支援についての理解1</p> <p>第13回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）⑤ <span style="float: right;">&lt;担当教員全員&gt;</span>          ・支援についての理解2</p> <p>第14回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）⑥ <span style="float: right;">&lt;担当教員全員&gt;</span>          ・学びの発表</p> <p>第15回：地域包括ケアにおける看護の機能と役割 <span style="float: right;">ゲストスピーカー 保健師</span>          まとめ <span style="float: right;">&lt;担当教員全員&gt;</span></p>



アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッションやPBLによる課題解決学習を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	WebCass を用いて、投票や質問・疑問への回答など双方向で授業を行います。 また地域包括ケアにおける事例学習（PBL）ではICTを活用して自ら課題についての学習を進めます。
評価方法	第1-5回授業の事後提出物 20%、第6-8回・15回の授業内容小レポート 20%、 第9-14回PBLへの取り組みおよびレポート 50%、中間テスト 10%、 地域包括ケアにおける事例学習（PBL）および小レポートは、ルーブリックを用いて評価 します。ルーブリックの内容は授業中に提示します（WebClass に掲載）。
課題に対する フィード バック	毎回の授業での質問については、WebClass 掲示板への記載、および次回授業で全体に対して回 答します。また資料等も随時 WebClass にアップします。 PBLにおいては、各グループの担当教員がその都度、質問に対応します。事例学習の発表に おいても講評を述べ、全体にフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	河原加代子「在宅看護論」医学書院（「在宅看護学概論」指定図書） 野村陽子編「保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社（「保健医療行政論」指定図書） 他使用テキストについては講義前に担当教員から随時連絡します。
事前・ 事後学修	【1～5 回目の授業】事前学修内容を、WebClass タイムラインに提示するので、各自取り組んで 授業に臨むこと。関連知識として、1年次の公衆衛生看護学概論、地域看護学実習、2年次春セ メスターの老年看護学概論、精神看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、成人看護学 概論等で学修した内容が役立ちます(1時限あたり 20 分程度)。事後学修は、配布資料等を見直 してわからなかったことを調べて、学びを定着させて下さい。また第1回の授業で提示した「基 本用語学習」について、各自課題に取り組むこと。その内容から中間テストを出題する。事後 学修内容は、第9回目以降の「地域包括ケアにおける事例学習（PBL）」において必要になる 内容です(1時限あたり 20 分程度)。 【6～8 回目の授業】事前学修内容を、WebClass タイムラインに提示するので、各自取り組んで 授業に臨むこと(1時限あたり 10 分程度)。事後学修は「地域包括ケアの実際例の話題を受けて の学び」について、小レポートを作成してください(1時限あたり 30 分程度)。 【9～15 回目の授業】事前学修としては、WebClass に示した「地域包括ケアにおける事例学習 （PBL）」の事前資料を読み、学習目標を理解して参加する。学習に必要な参考図書や文献・ 資料を自分で選択し、グループでの自己学習成果の報告にむけた準備を行う。（1時限あたり 20 分程度)。事後学修としては、PBLにおける不明点についてグループ・個人で調べる。各回 のPBLでの学びを整理し、次のPBL時に報告する。(1時限あたり 20 分程度)。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により変更の可能性もあるため、事前に e-mail で 連絡してください。 科目責任者：酒井昌子 3410 研究室：masako-s@seirei.ac.jp(月曜 12-13 時は比較的在室) 宮谷 恵(看護学部) 1713 研究室：megumi-m@seirei.ac.jp 黒野智子(看護学部) 1709 研究室：tomoko-k@seirei.ac.jp 小平朋江(看護学部) 3401 研究室：tomoe-k@seirei.ac.jp 兼子夏奈子(看護学部) 1261 研究室：kanako-s@seirei.ac.jp 岩瀬美保(看護学部) 3413 研究室：mihi-i@seirei.ac.jp 木村暢男(看護学部)
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師・助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点から教授す る科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とします。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として、 科目担当教員の他 1 名を配置し、質疑応答等に対応します。また、授業時間に授業担当教員が 教室間を移動して、直接質疑応答に応じます。

科目名	看護倫理
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	生命倫理、看護倫理の歴史と主要な概念を学習し、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。看護実践で直面する倫理的ジレンマに対する倫理意思決定の方法を学び、専門職としての倫理規定について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護倫理および生命倫理について説明できる。</li> <li>2. 看護実践に関わる倫理原則、概念を説明できる。</li> <li>3. 実習での経験を振り返り自らの専門性における倫理的責務を説明できる。</li> <li>4. 倫理的意思決定のプロセスを説明できる。</li> <li>5. 受精から終末期における看護に関わる倫理的課題を説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 看護倫理と倫理の基本原則 <span style="float: right;">大石 ふみ子</span>  看護倫理とは  ・看護と倫理  ・看護専門職と職業倫理（日本看護協会倫理綱領）  生命倫理とは  ・生命倫理の研究領域  倫理上の基本原則  看護における倫理的問題・ジレンマ</p> <p>第2回 倫理的意思決定のプロセス <span style="float: right;">大石 ふみ子</span>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理的判断のよりどころ</li> <li>2. 倫理的意思決定のプロセス</li> <li>3. 看護師の倫理的責務</li> </ol></p> <p>第3回 患者の権利と倫理に関する基本概念（用語） <span style="float: right;">大石 ふみ子</span>  患者の権利に関するリスボン宣言  倫理に関する基本概念  アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持 など</p> <p>第4回 母性看護における倫理的課題 <span style="float: right;">藤本 栄子</span></p> <p>第5回 小児看護における倫理的課題 <span style="float: right;">市江 和子</span></p> <p>第6回 精神看護における倫理的課題 <span style="float: right;">入江 拓</span></p> <p>第7回 老年看護における倫理的課題 <span style="float: right;">齋藤 直志</span></p> <p>第8回 成人看護における倫理的課題 <span style="float: right;">大石 ふみ子</span></p>

アクティブ ラーニング	事例の活用、授業内での演習、webclass 等による事前学修課題の提示と授業内でのフィードバックを行い、専門職としての責務と実習での内省を促していく。
授業内の ICT 活用	課題提出に使用
評価方法	最終課題レポート 50% (第 1~3 回の内容を受けて作成)、第 4~8 回のレポート 50% レポートで評価するが、ルーズリックは用いない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーや毎回のレポートで対応が必要なコメントや質問については、webclass を用いて回答し、共有する。
指定図書	なし
参考図書	日本看護協会監修(2013 ). 新版 看護師の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理, 日本看護協会出版会. 他は授業中に随時連絡します。
事前・ 事後学修	① 授業前課題: webclass または前回授業の最後に、次回授業までの課題を提示する (事前学修 40 分 2~8 回)。 ② 授業後課題: 各講義後に提示される課題に回答/レポート提出をすること (各 40 分×5 回) 最終学年の授業のため、領域別の各看護実習や統合実習などで体験した事例を事前に復習して参加する。また、授業終了時のレポートにおいて看護倫理について考えを深めて提出する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。オムニバスで講義を担当する教員については、講義後に質問の時間を設けることを基本とします。 大石ふみ子(1219)研究室:fumiko-o@seirei.ac.jp)、水曜日 12:00~13:00 藤本栄子 (1714 研究室: eiko-f@seirei.ac.jp)、入江拓(3403 研究室: taku-i@seirei.ac.jp)、市江 和子(1712)研究室: kazuko-i@seirei.ac.jp) 斎藤直志(1614 研究室: tadashi-s@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として、伊東千世子準教員、長山有香理準教員、寺田康祐助手を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	看護管理論 I																		
科目責任者	鶴田 恵子																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5 セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP6 専門																		
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。																		
科目概要	看護の対象となる人々に最も有効で良質な看護を提供するための「しくみ」について学び、その内容や方法についての理解を深める。組織における看護の機能と看護活動のあり方や、看護の質管理および改善への取り組みを学修し、自律し協働できる看護マネジメントスキルを備えた看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護管理学の知識体系である看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメント、看護組織と管理、人的資源管理における基礎的な知識や考え方を学修する。看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識を考察する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理学に含まれる要素についての概略を理解する。</li> <li>2. 看護のマネジメントが必要とされる場について理解する。</li> <li>3. 看護職の提供する看護ケアのマネジメントについて理解する。</li> <li>4. 看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解する。</li> <li>5. 看護サービスのマネジメントの対象と範囲について、マネジメントサイクルと関連して理解する。</li> <li>6. 看護組織と管理の基礎について理解する。</li> <li>7. リーダーシップ・メンバーシップについて理解する</li> <li>8. 人的資源管理の基礎について理解する。</li> <li>9. 看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識について述べることができる。</li> </ol>																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</td> <td style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</td> </tr> <tr> <td>第 1 回： 看護とマネジメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 2 回： 看護ケアのマネジメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回： 看護業務の実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回： 看護サービスのマネジメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回： 看護組織と管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回： リーダーシップ・メンバーシップ</td> <td style="text-align: right;">&lt;榎原理恵&gt;</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 人的資源管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8 回： フォーラム 「看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識」</td> <td></td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回： 看護とマネジメント		第 2 回： 看護ケアのマネジメント		第 3 回： 看護業務の実践		第 4 回： 看護サービスのマネジメント		第 5 回： 看護組織と管理		第 6 回： リーダーシップ・メンバーシップ	<榎原理恵>	第 7 回： 人的資源管理		第 8 回： フォーラム 「看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識」	
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第 1 回： 看護とマネジメント																			
第 2 回： 看護ケアのマネジメント																			
第 3 回： 看護業務の実践																			
第 4 回： 看護サービスのマネジメント																			
第 5 回： 看護組織と管理																			
第 6 回： リーダーシップ・メンバーシップ	<榎原理恵>																		
第 7 回： 人的資源管理																			
第 8 回： フォーラム 「看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識」																			

アクティブラーニング	グループワーク：授業中に10分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に、リアクションペーパーとして、授業への質問・意見・感想をWebclassに登録する。
授業内のICT活用	Webclassによる小テストの実施、リアクションペーパーの登録、最終レポートの登録
評価方法	授業への取り組み24%、小テスト21%、最終レポート55%
課題に対するフィードバック	1. 最終レポートのコメントはwebclassに登録 2. リアクションペーパーのフィードバックは、次回の講義開始時に行う。
指定図書	1. 手島恵、藤本幸三編集、看護学テキストNICE 看護管理学（改定第2版）、南江堂、2021
参考図書	なし
事前・事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の12:00 から12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	看護管理論Ⅱ
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	看護管理学の科学的かつ実践的な知識を深め、看護単位の運営に関する諸原則を学び、質の高い看護実践を可能にするための看護サービス管理のしくみを構築する方策について学修する。臨地実習で体験した看護サービス管理上の現象について分析を行い、看護単位における看護管理プロセスの思考方法を枠組みとして改善策の立案について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護単位の運営に関する諸原則を理解する。</li> <li>2. 質の高い看護の提供に関わる要因を理解する。</li> <li>3. 看護サービス管理上の現象を分析する。</li> <li>4. 看護単位における改善策を考案する。</li> <li>5. 組織変革について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第 1 回：看護サービス管理の基礎</p> <p>第 2 回：看護管理プロセス</p> <p>第 3 回：看護の質マネジメント</p> <p>第 4 回：働きやすい職場環境づくり</p> <p>第 5 回：看護サービス管理における現象の分析（グループワーク）</p> <p>第 6 回：看護単位における改善策の考案（グループワーク）</p> <p>第 7 回：改善策の発表</p> <p>第 8 回：組織変革</p>

アクティブラーニング	<p>グループワーク：授業中に10分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。</p> <p>講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。</p> <p>第5～7回はグループワークと発表、討議</p>
授業内のICT活用	
評価方法	授業への取り組み 24%、課題発表 24%、課題レポート 52%
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートにコメントを記載して返却</li> <li>2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。</li> </ol>
指定図書	1. 手島恵 藤本幸三編集：看護学テキストNICE 看護管理学、南江堂、2021.
参考図書	
事前・事後学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。</li> <li>2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること</li> </ol>
オープンエデュケーションの活用	
オフィスアワー	<p>鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の12:00～12:45）</p> <p>連絡先 <a href="mailto:keiko-t@seirei.ac.jp">keiko-t@seirei.ac.jp</a></p>
実務経験に関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	国際看護論	
科目責任者	大山 末美	
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4・8 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP7 専門	
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。	
科目概要	世界の健康格差や在日外国人患者への理解を通して、国際看護実践の基盤となる異文化間感受性を高めます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的な健康課題とその背景を理解できる。</li> <li>2. 国際協力における看護の取組みについて理解できる。</li> <li>3. 異文化間感受性を向上させ、国内における国際看護のあり方について考えることができる。</li> </ol>	
授業計画	<p><b>導入</b></p> <p>第1回：「国際化と看護」を学ぶ意義 第2回：世界の健康格差と保健医療</p> <p><b>国際協力の実際</b></p> <p>第3回：ガーナでの看護活動の実際（JICA）</p> <p><b>国内における国際看護</b></p> <p>第4回：健康を看護の枠を超えて考える 第5回：医療通訳の立場から見た国際看護 第6回：国内における国際看護の実践 第7回：経済連携協定と外国人看護師への理解 第8回：異文化間感受性への気づき</p>	<p>大山末美 西川浩昭 谷 彩 小川美農里 松田愛香 堀内美由紀 大山末美 大山末美</p>



アクティブ ラーニング	第7回と第8回ではグループワークを行い、ディスカッション、プレゼンテーションを行い学びのシェアリングを行います。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	各授業の事前課題 30%, 総合レポート 50%, リアクションペーパー10%, グループワークへの参加 10%
課題に対する フィード バック	次の授業前に、全体にフィードバックします。
指定図書	大橋一友・岩澤和子編『国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして』 メディカ出版
参考図書	授業時に随時紹介する。
事前・ 事後学修	事後学修は、各時間のキーワードとなる内容を国際関連機関のホームページなどで確認してください。その内容を第7、8回でプレゼンテーションしていただきます。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者：大山末美（看護学部）1213 研究室 メールアドレス：suemi-o@seirei.ac.jp オフィスアワーは、基本的に水曜日Ⅲ限目としますが、いつでも相談に対応します。ご用の方はメールでご連絡ください。
実務経験に 関する記述	本科目は看護師・保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	・同時双方向型メディア授業 2 教室に分かれて実施します。担当教員が 1 教室で対面授業を行いその様子を別教室に TV 会議システムで配信する形となります。各教室 3 回づつメディア授業となります。各教室に教員を配置し、質疑応答などに対応します。

科目名	災害看護論
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	災害看護とは、災害が人々のいのち・健康と生活に及ぼす影響を可能な限り少なくする看護活動である。具体的には平常時の減災・予防活動、発災時の緊急対応、さらに発災後の復旧復興における中・長期活動等である。高齢化社会の今、各々の「時間軸」および「場」における看護活動は益々、期待されている。授業では看護活動の特性に焦点をあて、災害看護の基礎知識と技術および多職種との連携・協働について具体的に理解し学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の歴史の変遷および災害・災害看護の定義を理解し、災害の種類による健康問題の特性を理解できる。</li> <li>2. 災害各期（準備期・発災時・発災後急性期・復旧復興・長期）における看護活動について理解できる。</li> <li>3. 災害時における「場」における看護の特徴 避難所・救護所・仮設住宅等での看護活動や要配慮者に対する支援について理解できる。</li> <li>4. 災害時における被災者および救援者の心身の反応を理解し、健康管理およびケアを深める。</li> <li>5. 災害対応に関する法的側面および行政の役割について理解できる。</li> <li>6. 災害時における地域の対応のシステム・要配慮者の理解と対応の実際を理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>科目担当教員 若杉早苗、小池武嗣、臼井千津</p> <p>第 1 回：オリエンテーション・災害看護概論・災害の歴史的概観 若杉 災害・災害看護の定義・災害看護の特性・災害の種類と健康問題・対応システム</p> <p>第 2 回：災害各期（準備期・発災時・急性期・慢性期・中・長期的）における活動 臼井</p> <p>第 3 回：災害時における「場」における看護の特徴：現場・救護所・病院・避難所・福祉避難所・施設他 臼井</p> <p>第 4～5 回：災害時の緊急支援活動／災害時に必要な基本的看護技術 小池・若杉（臼井） 一次救命措置（BLS トリアージ等） 救護所開設机上訓練（HUG）/減災・災害への備え</p> <p>第 6 回：災害医療に関する国の政策と法律・活動根拠・国・都道府県町村の取り組みと 若杉 現行の課題</p> <p>第 7 回：災害時における看護職（保健師・看護師・助産師等）の取り組み 若杉</p> <p>第 8 回：災害時における被災者および救援者の心身の反応の理解と健康管理の実際 若杉 予防から以後のケア/災害看護 まとめ</p>

アクティブラーニング	事前・事後学習及び授業の教材として、メディカ AR コンテンツの動画視聴をおこない、ディスカッションをおこなう。指定図書の学習を主体的に行う。動画視聴により、災害看護の実践場面をイメージし、テキストにある知識との繋がりを修得する。
授業内のICT活用	レポート課題の提出及び授業内容等に応じた確認テストはWebclass を用いて行う。 神奈川県で作成した「映像で災害を体験しよう（津波編、火山編、水害編）の視聴 <a href="https://www.pref.kanagawa.jp/docs/j8g/saigai_movie.html">https://www.pref.kanagawa.jp/docs/j8g/saigai_movie.html</a> を行い、災害時における災害看護の役割や課題、自ら学ぶ意義を理解する。
評価方法	レポート課題 100%で評価する ※事前・事後課題の未提出は総合点から減点します。 ：若杉 (50%_災害時の保健師活動 他)、臼井 (25%)、小池 (25%_災害時の緊急支援活動) 合計 100% ※レポート課題はルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	事前学習課題については、課題提出週の授業内に解説する。
指定図書	酒井明子 長田恵子 三澤寿美(編) ,看護の統合と実践(3) 災害看護 第5版 メディカ出版 2022年
参考図書	授業時適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学習 授業内容と密接に関連する下記の項目について、授業進度に応じて学習してください。 ①災害に関する法律 ②災害サイクルとは ③CSCATTT について ④災害時要配慮者について ⑤救護所・避難所・福祉避難所について ⑥ASD・PTSD・サバイバーズギルトについて ⑦災害に関連する感染症について ⑧災害時の多職種連携について  事後学習 授業終了時に、授業内容に応じた確認用のチェック問題（Webclass 等）を提示する。
オープンエデュケーションの活用	医学中央雑誌 Web
オフィスアワー	授業終了後、臼井講師は非常勤講師控室にて 30 分待機しています。可能な限り、あらかじめメールにて面談の予約をお願いします。(usui-kobe-1951@docomo.ne.jp) 若杉：sanae-w@seirei.ac.jp 小池：takeshi-k@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「保健師及び看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	2 教室間での遠隔授業とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として科目担当教員（若杉若しくは ICT 補助教員伊藤先生）を配置し、直接質疑応答に対応する。また、授業時間に科目担当教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	看護研究 I																														
科目責任者	檜原 理恵																														
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP4 専門																														
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探索し、多面的に考察することができる。																														
科目概要	必要な文献や情報を検索し、関心のあるテーマに関する看護研究論文を読むことを通して、看護における研究の役割・意義について考える。自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し考察する能力を育成する。調べたい事柄に関する文献や情報を探す方法を理解するとともに、研究過程の概要を理解する。また、看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方、自分の設定した研究に適した研究方法について学修する。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調べたい事柄に関する文献や情報を探す方法を理解する。</li> <li>2. 文献整理の方法を理解する。</li> <li>3. 研究過程の概要（研究課題の明確化、研究計画の立案、データの収集・分析）理解する。</li> <li>4. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方を理解する。</li> <li>5. 自分の設定した研究に適した研究方法を理解する。</li> </ol>																														
授業計画	<p style="text-align: center;">担当：檜原理恵、佐久間佐織、清水隆裕</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; width: 60%;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left; width: 40%;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：看護における研究</td> <td>檜原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：リサーチクエスチョンから研究課題へ</td> <td>檜原</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：学術誌に触れる 文献・情報の探し方 課題：図書館を探索する *数グループに分かれる</td> <td>檜原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：研究論文の読み方</td> <td>檜原</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：医学中央雑誌による文献検索 研究課題（仮）：調べたいテーマを決めて文献を探す</td> <td>檜原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：看護研究における倫理</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：研究デザイン</td> <td>檜原</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：量的研究デザイン</td> <td>檜原</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：質的研究デザイン</td> <td>清水</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：文献の整理 ー文献クリティーク</td> <td>檜原</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：テーマを決めて研究論文を探す グループワーク</td> <td>檜原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：クリティークした文献をまとめる グループワーク</td> <td>檜原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td>第 13・14 回：クリティークした研究論文を発表する</td> <td>檜原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法 *詳細は第 1 回目に伝えます</td> <td>檜原、佐久間、清水</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：看護における研究	檜原、佐久間、清水	第 2 回：リサーチクエスチョンから研究課題へ	檜原	第 3 回：学術誌に触れる 文献・情報の探し方 課題：図書館を探索する *数グループに分かれる	檜原、佐久間、清水	第 4 回：研究論文の読み方	檜原	第 5 回：医学中央雑誌による文献検索 研究課題（仮）：調べたいテーマを決めて文献を探す	檜原、佐久間、清水	第 6 回：看護研究における倫理	佐久間	第 7 回：研究デザイン	檜原	第 8 回：量的研究デザイン	檜原	第 9 回：質的研究デザイン	清水	第 10 回：文献の整理 ー文献クリティーク	檜原	第 11 回：テーマを決めて研究論文を探す グループワーク	檜原、佐久間、清水	第 12 回：クリティークした文献をまとめる グループワーク	檜原、佐久間、清水	第 13・14 回：クリティークした研究論文を発表する	檜原、佐久間、清水	第 15 回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法 *詳細は第 1 回目に伝えます	檜原、佐久間、清水
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																														
第 1 回：看護における研究	檜原、佐久間、清水																														
第 2 回：リサーチクエスチョンから研究課題へ	檜原																														
第 3 回：学術誌に触れる 文献・情報の探し方 課題：図書館を探索する *数グループに分かれる	檜原、佐久間、清水																														
第 4 回：研究論文の読み方	檜原																														
第 5 回：医学中央雑誌による文献検索 研究課題（仮）：調べたいテーマを決めて文献を探す	檜原、佐久間、清水																														
第 6 回：看護研究における倫理	佐久間																														
第 7 回：研究デザイン	檜原																														
第 8 回：量的研究デザイン	檜原																														
第 9 回：質的研究デザイン	清水																														
第 10 回：文献の整理 ー文献クリティーク	檜原																														
第 11 回：テーマを決めて研究論文を探す グループワーク	檜原、佐久間、清水																														
第 12 回：クリティークした文献をまとめる グループワーク	檜原、佐久間、清水																														
第 13・14 回：クリティークした研究論文を発表する	檜原、佐久間、清水																														
第 15 回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法 *詳細は第 1 回目に伝えます	檜原、佐久間、清水																														

アクティブ ラーニング	図書館や文献検索サイトを利用し、自らの興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行う。自分のテーマに合致する文献についてグループワークを行い、グループで成果を発表する。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	グループワークの発表は ppt を使用します 授業内で医学中央雑誌 Web サイトを活用します
評価方法	授業中の提出物 40%、グループワークへの参加度 10%、課題レポート 50%、 提出物、課題レポートで評価するがルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	授業中の提出物について、次回の授業中に全体へのフィードバックを行う。
指定図書	坂下 玲子／宮芝 智子／小野 博史 (2021). 系統看護学講座 別巻、看護研究, 医学書院
参考図書	南裕子, 野嶋佐由美編(2017). 看護における研究 第2版、日本看護協会出版会
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関する文献を読んでください。授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医中誌 web
オフィス アワー	榎原理恵 : 1616 研究室 <a href="mailto:rie-k@seirei.ac.jp">rie-k@seirei.ac.jp</a> 佐久間佐織 : 1618 研究室 <a href="mailto:saori-s@seirei.ac.jp">saori-s@seirei.ac.jp</a> 清水隆裕 :
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	看護研究Ⅱ
科目責任者	藤浪 千種
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7・8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し考察する能力を身につける。選択した看護学領域において、これまでの学修のなかで関心をもった事象について、先行研究や関連文献を幅広く検討し、研究課題を明確にし、現実的・具体的な研究計画書を作成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心を持った事象について、系統的に文献を探すことができる。</li> <li>2. 関心を持った事象について、先行研究や関連文献を整理し、研究課題を明らかにすることができる。</li> <li>3. 研究課題を明らかにするための研究計画書を作成することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>担当教員：藤浪千種、看護学部教員</p> <p>これまでの看護学の学修において、関心をもった事柄やアイデアに関して、系統的で理論的な思考により、問題としてのように明確化する過程を学ぶ。</p> <p>さらに、明確化された問題、研究課題についてどのような方法で明らかにするのか、目的と方法を学修する。</p> <p>4～7 月 選択した研究領域において、これまで学習した看護学のなかで関心をもった事柄について、研究課題を明確化する。</p> <p>必要時、関心のある対象やフィールドに関する情報収集、および研究課題に関する基礎的な学習を行う。</p> <p>7～11 月 研究課題に関連した先行研究や関連文献を幅広く検索して文献検討を行い、研究課題の明確化のプロセスや研究の意義を記述することができる。</p> <p>11 月第一週の金曜日 課題レポートの提出</p>

アクティブ ラーニング	自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行い、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	文献検索、文献学習では大学図書館 HP を活用し、データベース検索、電子ジャーナル、学術情報リポジトリなどを活用します。
評価方法	看護研究への取り組み 20%、文献学習 40%、課題レポート 40%
課題に対する フィード バック	各領域で、ゼミ等により研究課題の進捗状況に合わせ担当教員からフィードバックを行う。
指定図書	坂下 玲子／宮芝 智子／小野 博史 (2020). 系統看護学講座 別巻、看護研究, 医学書院
参考図書	南裕子編(2016). 看護における研究、日本看護協会出版会
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関し、文献を探しまとめたもの等をもとに、教員と学修を進めていきます。そのため、事前・事後学修については、担当教員と話し合いの上、行ってください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	*テキスト、ナーシングスキル ( <a href="https://nursingskills.jp">https://nursingskills.jp</a> エルゼビアジャパン) の動画視聴など
オフィス アワー	藤浪千種 : 1208 研究室 chigusa-f@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	看護統合セミナー
科目責任者	大山 末美
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 7・8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探索し、多面的に考察することができる。
科目概要	統合実習で選択した看護学実習の領域において自己の課題を明確にして、保健・医療・福祉の現状にあわせて看護実践を発展していくための能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合実習で必要となる学習内容について、主体的に自分の課題解決に向けて取り組むことができる。</li> <li>2. 統合実習で選択した看護学実習の領域において、理論的知識や先行研究の成果を活用して、テーマについて関連する文献を用いて考察できる。</li> <li>3. 統合実習での経験を踏まえて、多角的な見方や論理的な考え方を深め、地域包括ケアにむけての看護実践をさらに発展させるための方策について考えを深めることができる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜担当教員名（各看護学実習領域の責任者）＞ 急性期看護学、慢性看護学、老年看護学、 小児看護学、母性看護学、精神看護学、 在宅看護学、公衆衛生看護学（養教課程含む）</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：看護学実習領域別のオリエンテーション（4 月）  第 2～5 回：統合実習にむけての事前学修・演習（4～7 月 統合実習前）  第 6～8 回：関連する文献等を用いた課題レポート作成（7～9 月 統合実習後）  第 9～15 回：看護学実習領域における事後学修（グループワーク・演習）（10～11 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、統合実習と連動しながら学修を展開する。（学生は、統合実習で選択した看護学実習領域で履修する）。</li> <li>・統合実習の場・対象者の特性などを踏まえて、統合実習前に実習に必要な知識・技術について、主体的に自らの課題解決に向けた学修に取り組む。</li> <li>・統合実習後に、統合実習での経験を振り返り、多角的な見方や論理的な考え方を深めて、テーマについて関連する文献等を用いた課題レポートを作成する。</li> <li>・統合実習での経験をもとに、保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢の変化にあわせて、地域包括ケアにむけて必要な看護実践をさらに発展させるための方策について、演習・グループワーク等を通して考えを深める</li> </ul>



アクティブ ラーニング	グループワーク等の演習科目です。主体的に課題解決に取り組んでください。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	事前学習記録 20%、課題レポート 40%、グループワーク・演習における提出物 40% 看護学領域によって異なります。ガイダンス時に確認してください。
課題に対する フィード バック	ガイダンス時に示します
指定図書	1年次～4年次に使用した教科書
参考図書	詳細はガイダンス時に示します
事前・ 事後学修	看護の学修に関心を持った内容に関する文献を読んでください。 授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医中誌 web
オフィス アワー	大山末美：1213 研究室 suemi-o@seirei.ac.jp (水曜日 11：45-13：00 ただし事前に連絡をいただければ調整します)
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	国際看護研修
科目責任者	小出 扶美子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	アメリカの医療施設における看護実践の見学を通して、国際的な視野で保健医療福祉制度、看護師の役割・実践、他職種の役割について学ぶことを目的としている。事前研修、現地研修（講義・シミュレーション演習・病院での看護師シャドイング・施設見学等）、事後研修で構成され、並行して、課題に個人及びグループで取り組む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) アメリカにおける保健・医療制度をふまえて、看護職が担う役割と看護実践について、日本との違いや共通点を考える。</li> <li>2) 患者・利用者の治療・ケアに関わる様々な専門職の役割を知る。</li> <li>3) 異文化体験を通して、アメリカの人々の暮らし・社会・多様な価値観などを理解する。</li> <li>4) 日本の文化、価値観、家族のありようなどを見直す。</li> <li>5) 英語によるコミュニケーションを積極的に行う。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 小出扶美子、炭谷正太郎、渥美陽子、引率担当教員</p> <p><b>事前研修:</b></p> <p>第 1 回: オリエンテーション 心構え、研修の進み方、課題について  第 2 回: 渡航準備について① 参加者の役割など、英語学習について  第 3 回: 渡航準備について② アメリカの基本情報など  第 4 回: 保健・医療制度、看護基礎教育に関する講義、「質問リスト」の確認  第 5 回: 渡航準備について③アメリカ入国認証 ESTA 申請登録など  第 6 回: 看護シミュレーション演習と英会話トレーニング  第 7 回: 課題発表 (40 分)、渡航準備について④ 出発前最終確認</p> <p><b>現地研修:</b></p> <p>第 8 回～第 14 回  保健医療制度の講義、シミュレーション演習、病院施設見学、シャドーウィング等を実施する。</p> <p><b>事後研修:</b></p> <p>第 15 回: 看護研修全体の振り返りと報告会準備</p>

アクティブ ラーニング	研修参加にあたっては、日米の保健医療・看護教育制度、文化、社会・歴史的背景、健康問題、看護の現状と課題等に関する基本的な理解と議論を深め、自分なりの視点と課題を明確にしておく。そのために4つの事前課題に、個人及びグループで取り組み成果を発表する。研修後には学びを振り返り、①は現地で得た回答をまとめ、②～④についてはレポートを作成する。全体の振り返りで学びを共有・整理し、報告会の実施によって体験と学修を統合する。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて、事前課題の提出と理解度の確認を行う。
評価方法	事前研修 35%、現地研修 50%、事後研修 15%
課題に対する フィード バック	事前事後学修の各課題に対し、履修者全員が研修の目的・目標に到達できるまで、各担当者が個別・グループ指導を行う。
指定図書	「看護師たまごの英語 40 日間トレーニングキット ワークブック（基礎編）」アルク
参考図書	随時、紹介する。
事前・ 事後学修	4つの課題を課す。①質問リスト（英文）作成、②日米の医療や看護教育等に関する調べ学修、③研修先（施設）の概要に関する事前学修、④英会話・看護英語のセルフ・トレーニング 課題内容により異なりますが、週平均 1～2 時間の自己学習が必要です。④については毎日、30 分以上の語学学習を習慣づけてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	厚生労働省、「2020 年海外情勢報告」（本文）、第 1 章 欧米地域にみる厚生労働施策の概要と最近の動向、第 1 節 アメリカ合衆国（United States of America）(2) 社会保障施策 <a href="https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/">https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/</a>
オフィス アワー	月曜日午後（2713 研究室）。実習などで不在にすることもあります。その場合には、メール <a href="mailto:fumiko-k@seirei.ac.jp">fumiko-k@seirei.ac.jp</a> でご連絡ください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	国際看護実習
科目責任者	小出 扶美子
単位数他	2単位 (90時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	日本での事前学習やシンガポールのリハビリテーション病院を中心とした保健医療施設での看護実習を通して、日本とシンガポールにおける社会文化的背景、健康のニーズ、保健・医療・看護の相違について学び、国際社会における看護専門職の役割と、専門職として貢献するための研鑽のしかた・将来の活動の方向性について考察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本とシンガポールの生活習慣、文化、健康課題、保健・医療システム、看護教育制度の相違点について説明できる。</li> <li>2. 臨地におけるシャドーイングを通して、シンガポールの健康課題と看護専門職の役割、看護実践、人々の健康を支援するための健康教育等のアプローチについて理解できる。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護専門職として倫理的行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 患者のプライバシーを尊重し、得られた情報を守秘する。</li> <li>② 意欲的に学習に取り組み、謙虚に学ぶことができる。</li> <li>③ 問題解決のために積極的に行動し、報告・連絡</li> </ol> </li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 小出扶美子、 引率担当教員 &lt;対象学生&gt; 看護学部4年次生 2名</p> <p>【実習前課題学修】 4～8月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本とシンガポールにおける生活習慣、文化、主な健康課題、保健・医療システム、看護教育制度についての文献学習・レポート作成</li> <li>2. 関心のある保健・医療・看護に関するテーマについて学ぶための実習計画書の作成</li> <li>3. 上記2で取り上げたテーマに関する英語によるプレゼンテーション資料の作成</li> <li>4. 語学学習 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国際交流センター主催の英語講習への参加 (1回/月)</li> <li>② TOEIC受験: Listening &amp; Reading Test (実習までに1回受験)</li> </ol> </li> </ol> <p>【臨地実習 (2週間)】 9月 (シンガポール ナンヤン理工学院・保健医療施設等)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ナンヤン理工学院看護教員による保健・医療・看護に関する講義の受講 1日</li> <li>2. 【事前課題】 3で作成した資料を用いた英語によるプレゼンテーション</li> <li>3. shadowing 実習 (例) <ol style="list-style-type: none"> <li>① TTSH Ang-Mo Kio-Thye Hua Kwan Hospital (リハビリテーション病院): 4日間</li> <li>② Tan Tock Seng Hospital (タントクセン病院) Dover Park Hospice(ホスピス) Health Promotion Board (シンガポール健康省管轄 健康増進協会) 5日間 Home Nursing Foundation (訪問看護), Polyclinic 等</li> </ol> </li> </ol> <p>※上記の施設で慢性看護、急性期看護、在宅看護、公衆衛生看護等の実習を行う。 学生の実習目標によっては、実習施設は変更になることもあります。</p> <p>【実習後課題学修】 9-11月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学びの振り返り <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実習前・実習中の学修内容をもとに、関心のあるテーマをとりあげ、シンガポール看護実習における学びについて、考察を加えてレポートにまとめる。</li> <li>② 国際的な観点から看護専門職の役割を考え、その役割を担うために、専門性を深め主体的・継続的な研鑽の計画を具体的にまとめる。</li> </ol> </li> <li>2. 国際看護実習報告会で、実習の学びについてのプレゼンテーションを行う。</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	シンガポールの医療保障制度、健康指標データを調べる、現地でのプレゼンテーションの資料を作成するために ICT を活用する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート（事前文献学習レポート、英語によるプレゼンテーション資料、振り返りレポート、報告会プレゼンテーション資料を含む） 40%</li> <li>・臨地実習の目標達成度 40%</li> <li>・事前・事後課題学修及び臨地実習に対する取り組み 20%</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 100%</p> <p>※実習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いません。</p>
課題に対する フィード バック	実習前・後の課題学修では、個人または履修学生全体に対し、課題レポートへのコメントの記載やディスカッションでの意見・助言を通して、課題とその成果に対するフィードバックを行います。臨地実習では、1週目の3日間、担当教員1名が実習をサポートしながら、課題とその成果に対するフィードバックを行います。またナンヤン理工学院看護教員による実習評価の内容について、担当教員がフィードバックを行います。
指定図書	『知って考えて実践する国際看護』第2版, 近藤麻理著, 医学書院, 2018
参考図書	『目で見える国際看護 vol. 1 国際看護の現状/vol. 2 グローバルヘルス』西川まり子監修, 医学映像教育センター, 2012. その他、実習前の文献学習や語学学習に役立つ文献・情報源について授業で随時紹介します。
事前・ 事後学修	<p><b>【実習前課題学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習前の4～8月に、提示された課題について、各自、自己学習を行ってください。また語学学習①～③への参加・受講を必須とします。レポート作成等、時期により課題の量が異なりますが、週平均1～2時間の自己学習が必要です。そのほか、毎日、30分以上の語学学習を習慣づけてください。</li> </ul> <p><b>【臨地実習中】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実習の内容の振り返りをまとめる。実習目標をふまえ、実習で学習したいことや質問したいことなどを英語で準備する。毎日、1～2時間程度です。</li> </ul> <p><b>【実習後課題学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習後の10～11月に、提示された課題について、各自、レポートを作成してください。</li> </ul>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省. 統計情報・白書. 2020年海外情勢報告より 第2章 東及び東南アジア地域にみる社会保障施策の概要と最近の動向、第3節 シンガポール共和国 (Republic of Singapore) <a href="https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/">https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/</a></li> <li>・世界保健機構. Global Health Observatory (GHO) data Singapore. <a href="https://www.who.int/singapore/">https://www.who.int/singapore/</a></li> </ul>
オフィス アワー	科目責任者：小出扶美子（看護学部）2713研究室 メールアドレス：fumiko-k@seirei.ac.jp オフィスアワーは、基本的に月曜日午後としますが、いつでも相談に対応します。ご用の方はメールで連絡してください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	基礎看護学実習Ⅱ
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	2単位 (90時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	受け持ち患者への看護実践活動を通し、患者の療養生活を理解し、援助のための基本的な看護技術と看護過程の基礎を学修する。また、対象者に必要な療養生活援助のための計画を立案し、看護技術を実践する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者を尊重し、援助的な人間関係を構築することができる</li> <li>2. 患者の情報を整理・統合し、療養生活の援助を中心とした看護過程を展開することができる</li> <li>3. 展開した看護過程に基づき患者に必要な看護ケア計画を立案し、評価の視点が理解できる</li> <li>4. 看護職に必要な態度を持ち、主体的に行動できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 基礎看護学領域教員</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 5月：OSCE 8月：学内実習、臨地実習、実習のまとめ</li> <li>2. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松医療センター、浜松ろうさい病院、北斗わかば病院</li> <li>3. 実習展開 OSCE、学内実習、臨地実習、実習のまとめで構成する</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	特になし
評価方法	実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度50%、自己評価に基づく振り返り30%、 実習記録10%、課題レポート10% 実習の到達目標に合わせ、項目ごとにルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	実習当日に実習記録等を基に担当教員と面談の時間をもち、自己の課題と解決方法についてフ ィードバックを行います。
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2021. 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院、2021. 三上れつ・小松万喜子編集：看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント（改訂第 2 版）臨床実 践能力を高める、南江堂、2019.
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、基礎看護技術論 I ・基礎看護技術演習 I で学修してい る内容を復習します。加えて、看護過程の学修では事例を展開するために1コマあたり事前20分、 事後20程度、1年次に学修した解剖学、生理学の学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル： <a href="https://nursingskills.jp/">https://nursingskills.jp/</a> , エルゼビアジャパン
オフィス アワー	炭谷正太郎： 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	本科目は遠隔授業の実施科目ではありません。

科目名	急性期看護学実習
科目責任者	氏原 恵子
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7 セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	急性期（周術期）にある人とその家族の全体像を理解し、必要な看護実践を行うための知識・技術・態度を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周術期にある患者とその家族に関心を寄せ、適切な援助関係を築くことができる。</li> <li>2. 周術期にある患者とその家族の特徴を理解し、看護過程を展開できる。</li> <li>3. 周術期にある患者とその家族に対し、根拠に基づいた看護を実践できる。</li> <li>4. 看護学生として責任ある態度で実習できる。(健康管理、礼儀、報告・連絡・相談、約束を守る)</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 大石ふみ子、藤浪千種、乾友紀、氏原恵子、(寺田康祐) ほか</p> <p><b>【実習期間】</b> 3週間</p> <p><b>【実習施設】</b> 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の成人外科系病棟、学内等</p> <p><b>【実習方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床における受け持ち患者（家族）への看護実践</li> <li>・患者事例を用いた看護過程の展開</li> <li>・術前・術後看護のシミュレーション演習</li> <li>・臨床自習指導者とのカンファレンス（病棟指導者、手術室看護師）</li> <li>・周術期看護の必要な看護技術演習 等</li> </ul> <p>詳細は『急性期看護学実習要項』『臨地看護学実習の手引き』をもとに、実習オリエンテーションで説明します。</p>



アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	・ルーブリックで評価します。 看護実践：50% 実習記録：40% 課題レポート：10%
課題に対する フィード バック	実習前学修、日々の計画、実践、記録、週毎の自己評価、自己学習、実習への取り組みに対し、話し合いやカンファレンスでのコメント、記録へのコメント等で個人およびグループに対して成果や課題等をフィードバックしていきます。
指定図書	林直子他「成人看護学概論」南江堂、矢永勝彦他『臨床外科看護総論』医学書院 「成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護援助論演習」で使用した教科書（「成人看護学2～10」「臨床検査」医学書院など）
参考図書	・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2019。 ・任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2019。 *その他：実習病棟ごとに随時提示します。
事前・ 事後学修	周術期患者の看護には、解剖学、生理学、健康障害論をはじめ成人看護学の授業で学んだすべての内容を活用する必要があります。1年次からの学修の振り返りと事前学習ワークブックで知識の確認をするとともに、患者ケアに必要な看護技術を再確認しておいてください。周術期患者の状態変化は非常に早いので事前準備の内容が実習成果に大きく影響します。日々の実習では、経過記録と振り返り・まとめ、自身の課題の確認<約60分>、知識、技術の再確認、看護過程の展開、翌日の行動計画立案<約120分>など少なくとも毎日の3時間の自己学修を習慣にしてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	看護実践に必要な基本的知識、技術の復習に活用してください。 「ナーシングスキル日本語版 (Elsevier)」 <a href="https://www.nursingskills.jp/">https://www.nursingskills.jp/</a> 「VISUALEARN CLOUD」
オフィス アワー	質問や相談などは事前にGmailでアポイントを取ってください。 科目責任者：氏原恵子 1210研究室 keiko-u@seirei.ac.jp 各実習担当者への連絡方法は、初日のオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	Zoomを使用したカンファレンス等を行う場合があります。

科目名	慢性看護学実習
科目責任者	天野 薫
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	慢性疾患を有する対象と家族を総合的に理解し、病をもって生活することに対する看護実践に必要な知識・技術・態度を演習、実習を行うことで学びます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性疾患が有する対象と家族の生活に与える影響を、身体的、心理的、及び社会的側面から総合的に捉えることができる。</li> <li>2. 慢性疾患の特徴を理解し、長期的視点で必要な看護を理解できる。</li> <li>3. 病をもって生活する対象と家族の療養上の問題を抽出し、看護過程を展開できる。</li> <li>4. 病をもって生活する対象と家族が、自立した生活を送るための支援を理解し、看護を実践できる。</li> <li>5. 慢性疾患を有する対象への看護の看護実践を通して、病をもって生活することに対する看護者としての考えを深める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; : 天野 薫, 大山末美, 兼子夏奈子, 河野貴大, 山崎淑恵 他</p> <p><b>【実習期間】</b> 3 週間</p> <p><b>【実習施設】</b> 聖隷浜松病院, 聖隷三方原病院の成人内科系病棟</p> <p><b>【実習方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目標を達成するために、本科目では、演習→実習→演習を行い学修します。</li> <li>・病棟実習では、慢性疾患を有する対象を受け持ち、対象と家族に対する看護を実践します。</li> <li>・実習における注意点、実習施設の所在地は「臨地看護実習の手引き」を、学修進度、詳細な実習方法、事前学修に関しては「慢性看護学実習要項」を熟読してください。</li> <li>・具体的な学修方法・内容・進度などは実習初日の学内オリエンテーションで説明します。</li> </ul>

アクティブ ラーニング	実習科目です。 (授業に関する情報は、Web Class の慢性看護学実習に掲載しています)
授業内の ICT 活用	Web Class を使用し、提出物、課題、出欠管理を行います。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリックで評価します。</li> <li>対象理解：20%，看護問題の抽出と実践（倫理観含む）70%，レポート10%</li> <li>・実習中盤、最終日にルーブリックを用いて学生個人と教員で形成的評価、総括的評価を面談を通して行います。</li> </ul>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修課題については、実習ガイダンス（全体）時に提示します。WebClass にも掲載します。</li> <li>・実習中の記録は担当教員が毎日確認し、看護実践場面、カンファレンス等も含めて、個人・グループに対して成果や課題をフィードバックします。</li> <li>・演習に関しては、メンバーとディスカッションすることで学びの共有を行うとともに、教員からフィードバックを行います。</li> </ul>
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学 慢性期看護 南江堂（成人看護援助論Ⅲで購入済）</li> <li>・成人看護学1 成人看護学総論，成人看護学2～8 医学書院 （「成人看護学概論，成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，成人看護援助論演習」「健康障害論」で購入済み）</li> </ul>
参考図書	対象に応じ学修に必要となるものを提示します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された事前学修課題を実習・演習前に取り組み、既習の知識を整理する。看護技術については安全で安楽な援助（フィジカルアセスメント含む）が提供できると確信できるまでセルフトレーニングを実施してください。</li> <li>・実習中の事前・事後学修は、その日の看護の振り返り、翌日のケアに対する目的、安全性・根拠に基づいた計画、指導者・教員から提示された学修、ケアを提供するためのアセスメントなどを行うため、180分/日程度の学修が必要です。</li> </ul>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・ナーシングスキルを活用し安全で安楽な看護技術が実施できるようにセルフトレーニングを行ってください。
オフィス アワー	科目責任者：天野 薫（看護学部）1215 研究室：kaoru-a@seirei.ac.jp 各実習担当教員への連絡方法は、実習オリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は、「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	感染予防対策などの必要性がある場合、遠隔で実施することもあります。その際、実習目標に到達するために、病棟単位の小集団でのシミュレーション演習を行います。

科目名	老年看護学実習 I
科目責任者	木村 暢男
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	介護保険サービスを利用している高齢者とのコミュニケーションを通して、老年期を生きる人々への理解を深め、高齢者の尊厳や自立について学修する 介護保険サービスを提供する施設での実習を通して、介護保険制度を理解する
到達目標	1. 高齢者に関心を持ち、対象者に合わせたコミュニケーションの方法を用いて関係を築くことができる 2. 高齢者が生きてきた時代背景を踏まえ、老年期を生きる人々の生活歴を理解できる 3. 介護保険（デイサービス・デイケア）を利用する高齢者が受けるサービス内容について説明できる
授業計画	<p>担当教員名 木村暢男 山田紀代美 齋藤直志 加藤貴子 他</p> <p>内容 実習オリエンテーション デイサービス・デイケアでの実習 全体意見交換会（学内）</p> <p>実習施設 指定されたデイサービス デイケア</p> <p>実習期間 2023 年の指定された 1 週間</p> <p>詳細は老年看護学実習 I 実習要項参照</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目標の到達度 90% (実習要項の実習評価表参照)</li> <li>・実習に臨む態度 10% (事前学習内容、意見交換会での発言等)</li> <li>・ルーブリックは用いない</li> </ul>
課題に対する フィード バック	提出された実習記録に、担当教員がコメントを記載し、本人へ返却する
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版 鳥羽研二 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 第9版 北川公子 医学書院
参考図書	高齢者生活年表 1925-2000 年増補 河島修, 厚美薫, 島村節子 日本エディタースクール出版部 2001
事前・ 事後学修	別記する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	研究室 時間はオリエンテーション時に説明します 連絡先
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	実習科目です

科目名	老年看護学実習Ⅱ
科目責任者	加藤 貴子
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7 セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	高齢者施設で生活する高齢者の援助の実践を通して、高齢者看護に必要な基本的知識・技術・態度を身につけることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に関心を持ち、適切なコミュニケーションの方法を用いて関係を築くことができる。</li> <li>2. 老化による身体的・心理的変化及び社会的役割の変化を理解することができる。</li> <li>3. 疾病や障害を持ちつつ自立を目指しながら生きる高齢者についての理解を深められる。</li> <li>4. 高齢者の身体的・精神的・心理的・社会的な特徴をふまえ、健康上・生活上の課題のアセスメントができる。</li> <li>5. 入居者（患者）を1名担当し、個別性の考慮・自立を目指した高齢者の生活支援を計画することができ、根拠に基づく適切な技術の実践及び評価ができる。</li> <li>6. 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムの現状を知り、看護の役割が理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p><b>【担当教員名】</b> 加藤 貴子 山田紀代美 齋藤直志 木村暢男</p> <p><b>【実習期間】</b> 臨地実習3週間（実習前学内演習含む）</p> <p><b>【実習施設】</b> 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 介護付き有料老人ホーム</p> <p><b>【実習方法】</b> 実習初日：学内でのオリエンテーション 実習2日目：演習（高齢者疑似体験） 実習3日目：施設内オリエンテーション・受け持ち対象者の決定・情報収集 実習4日目以降 高齢者1名を受け持ち、看護過程を展開し、実践し評価する。 Shadow Nursing：実習第2週目・半日。（午前または午後 施設で異なる）</p> <p>日程は祭日などで変更することがあります</p> <p><b>【記録・課題レポート】</b> 実習前の事前学習レポート 実習前の学内演習レポート 実習中の看護実践・記録（看護過程・日々の学びと振り返り） 実習後のレポート（老年看護学実習を通しての学びと課題）</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です 施設ごとに毎日カンファレンスを行い、実習最終日は各施設での学びの内容を発表し 全体で意見交換を行います
授業内の ICT 活用	高齢者の疾患の特徴や看護について又はカンファレンスのテーマに関する必要な知識について、インターネットを利用して調べます。
評価方法	1. 目標達成度 90% 老年看護学実習Ⅱの実習評価参照（実習記録・実習態度含む） 2. 実習前学習 10% （事前学習課題レポート・演習及び演習レポート） 3. 実習のレポートに関してはルーブリックを用いない
課題に対する フィード バック	・実習記録へのコメントの記載、カンファレンスでの指導・助言、個別面談を行います ・実習終了後（記録提出時）に個別で面談しフィードバックを行います
指定図書	系統看護学講座専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院
参考図書	参考書等は、随時紹介します
事前・ 事後学修	事前課題は別紙配布し、実習オリエンテーションで説明します。 （約 320 分） 実習前学内演習は、高齢者体験装具を着用し疑似体験しその学びをレポートにまとめます。 （約 120 分）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	加藤貴子：看護学部 研究室：1707 研究室 e-mail:takako-k@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があるため、領域の 初回オリエンテーション時に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	実習科目です 施設ごとに毎日カンファレンスを行い、実習最終日は各施設での学びの内容を発表し 全体で意見交換を行います

科目名	母性看護学実習
科目責任者	村松 美恵
単位数他	2単位 (90時間) 必修 6・7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱで習得した知識や技術を活用し、妊産婦、新生児（胎児）、夫（パートナー）、家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護過程を用いて、親となり（あるいは新たな役割を引き受けて）新たな家族形成を必要とする人々に対する看護を学修する。また、ハイリスク新生児に接してその特徴を知り、児とその家族に対する看護を学修する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する知識の普及など生涯にわたる女性の健康の保持と増進について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産婦と新生児の特徴を理解し、看護の対象に積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもと五感を用いて対象のニーズの特定、看護過程の展開ができる。</li> <li>2. 妊産婦と家族の権利を擁護し、看護者としての倫理を実践できる。</li> <li>3. 対象のタイミングを考えて、母性看護に特有な看護技術を実践できる。</li> <li>4. 妊産婦と家族に必要な関係職種の専門性を生かした連携・協働、看護職に期待されている役割が理解できる。</li> <li>5. 妊産婦との関わりを通して生命の尊厳について考えることができる。</li> <li>6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する知識の普及など生涯にわたる女性の健康の保持と増進について考えることができる。</li> <li>7. 緊急時（災害も含む）の看護職の果たす役割を理解できる。</li> <li>8. 自ら進んで、労を厭わず多面的な経験をし、看護の概念の理解を深めることができる。</li> <li>9. 学生間でメンバー・リーダーの役割を担うだけでなく、保健・医療・福祉チームの一員としての役割と責任が自覚できる。</li> <li>10. 自己の健康管理を行い、看護専門職となるため自己を律して責任ある実習態度をとることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 村松美恵、藤本栄子、黒野智子、神崎江利子、室加千佳</p> <p>実習実習：聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の2施設と地域での子育て支援ひろば等である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥・新生児看護実習：1組の母子を1～2名の学生で、継続して受け持つ。</li> <li>2. 産婦看護実習：選択実習とし、選択者は事前に課題レポートを提出する。WebClassで、選択希望調査および課題内容の提示する。帝王切開分娩を受け持つこともある。</li> <li>3. 妊婦看護実習・子育て（育児）支援実習：助産外来、出産準備クラス（母親学級など）、母乳外来、地域の子育て支援事業等に参加し、妊娠中や退院後の母児（およびその家族）の理解につなげると共に看護者と関連職種との連携についても学修する。</li> <li>4. ハイリスク新生児看護実習：聖隷三方原病院NICU、聖隷浜松病院NICU・GCUにて、シャドウイング実習をする。</li> <li>5. ハイリスク妊産婦実習：聖隷浜松病院MFICUにて、シャドウイング実習や褥婦を継続して受け持つ実習を行う。聖隷三方原病院C2病棟にて妊婦を継続して受け持つこともある。</li> <li>6. 妊産婦の日常生活を考え、保健指導案を作成する。</li> <li>7. 緊急時（災害も含む）における妊産婦への支援について考える。</li> <li>8. 地域の男女共同参画の現状や課題について考える。</li> </ol> <p>※実習スケジュールの詳細は、WebClassに掲載する。また、実習に関する様々な情報は、WebClassまたはg-mailで配信するため必ず確認すること。</p>



アクティブ ラーニング	自ら進んで労を厭わず多面的な経験をし学ぶ実習科目です。
授業内の ICT 活用	ICT機器を利用してカンファレンスや実習内での理解度確認を行う双方向型実習を実施します。グループ発表のプレゼンテーションは、電子黒板を利用して行います。教員が作成した視聴覚教材を使用します。
評価方法	実習姿勢・実習記録・レポートをもとに実習目標達成度についてルーブリック（自己評価表に記載された項目参照）を用いて評価します（100%）
課題に対する フィード バック	学生の疑問に対しては、日々のカンファレンスや実習のまとめ、個別面談にてフィードバックします。
指定図書	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論演習（2・3年次）で使用した教科書
参考図書	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論演習（2・3年次）で提示した書籍、その他、実習中に随時紹介します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「母性看護学 学修ノート」、「母性看護実習 事前学修ワークブック」の設問は実習までに全て取り組んでください。講義時の配布資料も活用して下さい。</li> <li>・母性看護実習室（母性領域側）の沐浴槽は、学生が自主的に練習できるように準備しています。使用希望時間を予約表に記載し、実習前までに必ず練習して下さい。沐浴槽の予約方法、使用方法等は、WebClass に掲示しています。</li> <li>・実習の手引きを WebClass に掲示しているため、事前に確認してください。</li> <li>・自主学习として、以下の URL 講座の視聴を勧めます。 NursingSkill <a href="http://www.nursingskills.jp">www.nursingskills.jp</a> MNN-009 産褥の退院指導 看護 roo <a href="https://www.kango-roo.com/mv/">https://www.kango-roo.com/mv/</a> 母性看護技術 VISUALEARN クラウド <a href="https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php">https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php</a></li> </ul>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	看護学部、2711 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示します。 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、室加千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp) 藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	同時双方向型メディア授業を1,2日間行う。実習生は、WebClass に掲載する指定期間内に事例検討を行い、各自で検討した内容をもとに、同時双方向メディア実習を行い、学びを共有する。

科目名	小児看護学実習
科目責任者	山本 智子
単位数他	2単位 (90時間) 必修 6・7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	健康な乳幼児の保育活動に参加し、子どもとの関わり方や成長・発達に適した日常生活の援助の方法を学修する。病院や医療型障害児入所施設で健康を障害した子どもや発達に障害をもつ子どもを受け持ち、生命の尊厳と隣人愛を基盤として、看護過程を展開しながら子どもとその家族を総合的に理解し、子どもとその家族への看護を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こども園実習 I <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児の成長・発達の特徴を理解するための観察の仕方を学ぶことができる。</li> <li>2) 子どもとの関わり方を学ぶことができる。</li> </ol> </li> <li>2. こども園実習 II (保育園含む) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 担当するクラスの小児の成長・発達の特徴について理解できる。</li> <li>2) 家庭・地域社会など小児を取り巻く状況を理解できる。</li> <li>3) 担当するクラスの小児の成長・発達に適した生活援助を実践することができる。</li> </ol> </li> <li>3. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 受け持ち児の成長・発達の特徴について理解できる。</li> <li>2) 受け持ち児の現在の健康レベルについて理解できる。</li> <li>3) 受け持ち児の健康障害・発達障害が理解できる。</li> </ol> </li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;山本智子、小出扶美子、宮谷 恵、市江和子 他</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園実習 I は、聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園、聖隷こども園わかば、和光こども園で行う。</li> <li>・こども園実習 II (保育園含む) は、聖隷こども園わかば、聖隷こども園桜ヶ丘、聖隷こども園ひかりの子、和光こども園、なごみこども園、ひばり保育園のうち、いずれか一ヶ所で行う。</li> <li>・病院実習は、聖隷浜松病院の小児病棟、聖隷三方原病院の小児病棟 (病棟の状況によって小児科外来または PICU の見学を含む)、聖隷浜松病院小児科外来、聖隷おおぞら療育センター (医療型障害児入所施設) のうち、いずれか一ヶ所で行う。</li> </ul> </li> <li>2. 実習期間：臨地実習は2週間行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習日 (実習オリエンテーション、記録の整理等) 2日間</li> <li>・こども園実習 I 1日</li> <li>・こども園実習 II (保育園含む) 2日間</li> <li>・病院実習 5日間</li> </ul> </li> <li>3. 実習計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園実習 I は、小児看護学実習の導入実習である。こども園実習 II (保育園含む) と病院実習に先行した時期の10月から11月、1月から3月のいずれかで行う。</li> <li>・こども園実習 II (保育園含む) と病院実習の実習計画は、事前に配布する小児看護学実習配置表に記載している。</li> <li>・状況に応じてオンラインを活用して実習する。</li> </ul> </li> <li>4. 実習内容 <p>それぞれの実習の内容についての詳細は、実習オリエンテーションで説明をする。</p> </li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目である。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、実習記録 E-2 (自己学習)、E-3 (受け持ち患児の観察項目・内容) を学修する。
評価方法	実習記録や実習に取り組む姿勢から各実習目標の達成度を実習評価表の評価基準にそって評価をする。こども園実習Ⅱはルーブリックを用いて評価を行う。
課題に対する フィード バック	事前学習課題および実習中の課題はその都度確認し、個々にフィードバックを行う。
指定図書	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書。
参考図書	実習中に随時提示する。
事前・ 事後学修	WebClass 内にある小児看護学実習のこども園実習Ⅰ・Ⅱ事前学習課題と小児看護学実習事前学習課題を行い、小児の成長・発達や小児看護実践に必要な知識と看護技術について事前学習をする。 実習中の学修は教員の指示に沿って、実習記録を進めていく。 実習用事前学習課題は 4 時間程度、実習中の日々の事前学習 1 時間、事後学習(実習の振り返り、看護過程の展開)は 1~2 時間程度とする。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	山本 智子：月曜日午後 (1218 研究室) tomoko-y@seirei.ac.jp 小出 扶美子：月曜日午後 (2713 研究室) fumiko-k@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後 (1713 研究室) megumi-m@seirei.ac.jp 市江 和子：金曜日午前 (1712 研究室) kazuko-i@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	精神看護学実習
科目責任者	清水 隆裕
単位数他	2単位 (90時間) 必修 6・7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	精神医学的問題を抱える、または精神看護的アプローチを必要とする患者・クライアント（以下対象者とする）への看護を実践を通じて学ぶ。それは対象者の置かれた状況に応じた看護過程を使った看護展開を行うことにより学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の全人的理解ができる。記録類の活用および対象者との対応等を通じ、対象者を身体/生物学的側面・精神/心理学的側面・文化/社会学的側面・実存/人間学的側面から説明ができる。</li> <li>2. 精神看護診断を行うことができる。精神看護診断の手続きを実行、表記することができる。</li> <li>3. 看護計画を立てることができる。インフォームド・コンセントに留意しながら、個々の対象に対応した援助計画を立てることができる。可能な限り対象者の同意を得た看護計画とする。</li> <li>4. 計画に基づいた日常生活の援助ができる。精神力動に留意しながら看護計画に基づいた日常生活の援助を実施することができる。</li> <li>5. 得られた結果から看護の評価、修正を行うことができる。ISOAP で看護過程を記載することにより、柔軟に情報の補充・修正、看護計画の修正を行うことができる。</li> <li>6. 治療的環境としての自己活用ができる。ペプロウの理論を参照しながら、出会いから別れまでを丁寧に営み、治療的な対人関係の基本を体験学習するとともに治療的環境としての看護師のあり方を下記を通じ学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己の内面にある偏見や価値観との葛藤を、学生のカンファレンスや教員との面接で言語化することができる。</li> <li>2) 必要時、プロセスレコードを利用し治療的態度や距離を吟味しながら、対象者へ看護を行うことができる。</li> </ol> </li> <li>7. 記録の記述、整理および活用ができる。</li> <li>8. 対象者の体験、語りを尊重した対人理解ができる。</li> </ol>
授業計画	<p>担当教員／清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希</p> <p>実習場所は聖隷三方原病院精神科急性期閉鎖病棟(C6病棟)、精神科身体合併症閉鎖病棟(C5病棟)朝山病院一般病床閉鎖病棟(3病棟)、精神一般病床準開放病棟(4病棟)精神一般病床閉鎖病棟(5病棟)の5箇所のうち1箇所にて2週間おこなう。詳細は実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習態度 40% (言葉遣い、スタッフ・患者への挨拶、積極性など) 実習内容 40% (対象者に対するかかわり、コミュニケーション、看護ケア) 実習記録 20% (提出期限や内容)
課題に対する フィード バック	日々の記録物や自己学習課題へのコメント、実習の内容を振り返る面接セッション
指定図書	精神看護学概論・精神看護援助論Ⅰ・精神看護援助論Ⅱで使用した教科書。
参考図書	実習の進行状況に合わせて、随時連絡します。
事前・ 事後学修	授業内容を復習して、実習に臨むこと。事後学修は適宜教員から示された課題を含め、記録や知識の整理等、毎日 120 分程度の自己学習を習慣づけてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	清水隆裕：看護学部 1214 研究室 e-mail : takahiro-sh@seirei.ac.jp 時間や各実習担当教員への連絡方法については、実習オリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	在宅看護学実習
科目責任者	小池 武嗣
単位数他	2単位 (90時間) 必修 6・7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	在宅看護の対象である療養者と家族の理解に努め、生活の場における看護実践の特性と看護過程を理解し、生活の場における看護技術の専門性を考察する実習を行う。在宅療養者の生活の質の向上に向けた法や制度の活用を理解し、地域包括ケアシステムの重要性、多職種の連携・協働を学ぶ実習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の対象である療養者と家族を総合的に捉え理解する。</li> <li>2. 療養者・家族の療養生活のアセスメントを行い、課題解決に向けての援助方法を理解する。</li> <li>3. 訪問看護の実際を学び、療養者と家族の生活に応じた援助方法を理解する。</li> <li>4. 地域包括ケアシステムにおける看護の継続性や多職種の連携の実際を学び、療養者・家族を支える社会資源の活用について理解する。</li> <li>5. 看護学生としての礼節を重んじ専門職種としての態度・姿勢・行動を行うことができる。</li> </ol>
授業計画	<p>担当教員名：小池武嗣 酒井昌子 山村江美子 岩瀬美保</p> <p>実習期間：2週間</p> <p>実習施設：訪問看護ステーション住吉、住吉第2、浅田、貴布祢、高丘、細江、三方原 富丘、三ケ日、坂の上訪問看護ステーションあずきもち 聖隷ケアプランセンター和、浜松、いなさ、いなさ南部、浜北、細江、三方原 坂の上在宅医療支援医院</p> <p>実習方法：実習時間は8:30～16:45である。 現地実習6日間（1日約2件 スタッフとともに同行訪問を行う）</p> <p>学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例に基づき、1時間の訪問看護実践計画を作成する。</li> <li>・訪問場面のロールプレイを通して、訪問看護の実際を体験する。 療養者・家族の思いを体験し対象の理解を深め、看護実践の援助内容を考察する。</li> <li>・訪問宅1件を選択し関連図の作成、在宅看護計画の立案</li> </ul> <p>カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニカンファレンス毎日 16:15～16:45（現地にて学生間）</li> <li>・最終カンファレンス（現地指導者、学生、教員）</li> <li>・学内のまとめ（最終日 9:00～12:00 学びの共有）</li> </ul> <p>課題レポート 2週間の実習を通し、2点について論じる（1200文字以上A4用紙2枚まで）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①在宅看護の対象である療養者とその家族に対する理解</li> <li>③ 「生活の場」における看護実践の特性と看護師の専門性</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	必要時、遠隔会議システムなどを活用したオンライン実習となります。
評価方法	実習目標の達成度 20% 日々の記録・看護過程展開（関連図、看護計画）・課題レポート 60% 実習に取り組む姿勢や態度、記録物提出の状況 20%
課題に対する フィード バック	「毎日の記録」2枚は、担当教員に提出しフィードバックを受けた後、同行訪問スタッフに提出しコメント欄の記載によってフィードバックを受ける。関連図・看護計画の作成過程において、担当教員の個人指導によりフィードバックを受けて提出用に完成をさせる。
指定図書	河原加代子（著者代表、2017）：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論第5版 医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	学年全体実習オリエンテーション時に、実習を履修するにあたっての事前課題を提示します。実習記録の「学習記録用紙」に事前課題をまとめ、実習中に資料として活用します。毎日毎回違うお宅に同行訪問をするため、同行訪問後の事後学修が必要となります。疾患や内服薬の学修、利用している社会サービスなどです。毎日の事後学修も、「学習記録用紙」に記述します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者：小池武嗣（1214 研究室）takeshi-k@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事していることが多いため、メールでの連絡をいただければこちらから返信いたします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	実習科目です

科目名	統合実習
科目責任者	大山 末美
単位数他	2単位 (90時間) 必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	<p>選択した看護学領域において、生命の尊厳と隣人愛を基盤として対象と適切な対人関係を築き、既修の知識・技能を活用し、看護実践現場の特性を踏まえて、問題解決的思考を展開しながら、看護における課題の解決に向けた実践に必要な基礎的能力を養う。また保健医療福祉チームにおける多職種連携・協働の現状について理解を深め、そこで提供されている看護の実際を経験し、保健・医療・福祉チームの中で看護専門職としての役割を考えて行動することができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで学んだ知識・技術を踏まえ、主体的に実習内容を調整し取り組むことができる。</li> <li>2. ケアの優先順位を考え、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。</li> <li>3. 体験する看護技術について自己の力量を見極め、その根拠と安全性・正確性を考慮しながら実践することができる。</li> <li>4. 看護チームおよび他職種との協働の中で、看護職としてのメンバーやリーダーの役割を体験し、チームとして働く意義を理解できる。</li> <li>5. 統合実習で学んだことを通し、保健・医療・福祉の現状について理解を深め、看護職として自己の目標や課題を明確にできる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>学生は、8つの看護学領域から1看護学領域を選択して実習する。これまでの領域別看護学実習をふまえ、現場の看護師・保健師等の専門職者とともに、それぞれの場に応じた看護実践を経験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院や施設の実習においては、1つの病棟（単位）に2～4人の学生を配置して2週間の実習を行う。病棟・施設の状況に応じて、複数患者・利用者あるいは大部屋の患者・利用者を受け持つ実習、一勤務帯を通じた実習、夜勤帯の実習などを組み込む。</li> <li>・グループによっては、外来、NICUなどの特殊部門で実習を行う。</li> <li>・公衆衛生看護学、在宅看護学領域の実習では、さまざまな看護が展開されている場で実習を行う。既修の知識・技術を基盤として、援助技術の向上、多職種や多機関との連携の理解を深める。</li> <li>・課題レポートをまとめ、8月に提出する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途示す。</li> <li>*実習を行う領域や施設は調整により決定する。</li> </ul> </li> </ul>



アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目です。</li> <li>・各領域において『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<p>目標達成度 80% (実習姿勢、実習記録 等)、課題レポート 20% で評価する。 (詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途定めます)</p>
評価方法	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
課題に対する フィード バック	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
指定図書	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
参考図書	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
事前・ 事後学修	時間については、各領域のオフィスアワーの欄に記載しています。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目です。</li> <li>・各領域において『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。</li> </ul>
オフィス アワー	<p>目標達成度 80% (実習姿勢、実習記録 等)、課題レポート 20% で評価する。 (詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途定めます)</p>
実務経験に 関する記述	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
メディア 授業の実施 について	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。

科目名	公衆衛生看護技術論
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	<p>看護学の知識や技術を基盤とし、公衆衛生看護の場面（生活の場）において、対象者の生活や価値観に深くかかわる健康問題（課題）を解決・支援するために用いる公衆衛生看護技術を理解する。</p> <p>また、対象とする人々の健康問題（課題）を支援するために、生活者の行動を理解する必要があることから、人々の行動を概念・保健行動理論やモデルを活用することで、物事を遂行するための方法や手段、目的に到達するための手順や手法の過程を理解する。</p> <p>公衆衛生看護活動を行う上で重要な理論モデルの理解は、成人保健の事例を用いて発達課題や健康課題への支援技術を、結び付けて考えることができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護の基盤となる理論を理解できる。</li> <li>2. 公衆衛生看護技術を理解できる。</li> <li>3. 成人期の人々を対象とした健康に関する法規と施策を理解する。</li> <li>4. 成人事例を基に公衆衛生看護の対象理解及び地域活動への展開が理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt; 若杉早苗、渡邊輝美、江口晶子</p> <p><b>導入 4コマ</b> . . . . . 若杉早苗</p> <p>第1回 公衆衛生看護過程の展開と技術</p> <p>第2回 公衆衛生看護の基盤となる理論① (保健行動と理論、自己効力感、ヘルスビリーフモデル、シーソーモデル)</p> <p>第3回 公衆衛生看護の基盤となる理論② (変化のステージ理論、コミュニティー・アズ・パートナーモデル)</p> <p>第4回 公衆衛生看護技術とは何か</p> <p><b>公衆衛生看護技術の展開 1 (成人事例から考える：個別・5コマ)</b> . . . . . 若杉・渡邊</p> <p>第5回 成人期の人々の理解と健康に関する主な法規、施策 . . . . . 渡邊輝美</p> <p>第6回～9回 個人・家族への支援に必要な基本的知識と技術： . . . . . 若杉早苗 健康診査、健康相談、健康教育、家庭訪問</p> <p>※反転授業を実施する。指定図書やインターネットを活用し、保健師が個人・家族に対しておこなう支援技術を整理しプレゼンする。併せて成人事例を用いて、保健師の技術を考える事で保健活動の展開を学習する。</p> <p><b>公衆衛生看護技術の展開 2 (地域組織活動の展開：集団・地域・3コマ)</b> . . . . . 若杉早苗</p> <p>第10～12回 地区／小地域への支援に必要な基本的知識と技術： 地域診断のプロセスと地域診断技術 (2コマ)、地域の健康課題を焦点化する (1コマ) ゲストスピーカー (磐田市 保健師活動の実際)</p> <p><b>公衆衛生看護技術の展開 3 (地域組織活動の展開：集団・地域・2コマ)</b> . . . . . 江口晶子</p> <p>第13～14回 住民組織／地域組織への支援に必要な基本的知識と技術： 社会資源の連携調整 (1コマ)、組織活動と事業化 (1コマ)</p> <p><b>公衆衛生看護技術まとめ 1コマ</b> . . . . . 若杉早苗</p> <p>第15回 公衆衛生看護技術のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	公衆衛生看護技術に関連した内容を取り上げる科目だが、反転授業を行い、保健師の活動の中心である「健康診断」「健康相談」「健康教育」「家庭訪問」は学生が主体的に知識をまとめて、プレゼンテーションを実施する。また、地域診断のプロセス技術、地域の健康課題の焦点化については、学生が居住する地域を診断することで、主体的な学びに繋げる。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて理解度の確認を双方向で行う。また、授業で作成した学生同士の課題をWebclass に掲載し、共有を図る。 公衆衛生看護技術論に関する授業資料・学習成果の内容を、Webclass に掲載し学生間同士の活用を促す。 保健指導リソースガイド ( <a href="http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/">http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/</a> )
評価方法	事前・事後学修 40%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	次の授業の開始時にクラス全体にフィードバックする。
指定図書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 1年次に購入済み 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院
参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 3 循環器 医学書院
事前・ 事後学修	授業前に WebClass 内の事前課題（第 2 回～15 回）に回答すること
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として下記のサイトを紹介する。  内閣府、経済産業省 地域診断分析システム RESAS <a href="https://resas.go.jp/#/13/13101">https://resas.go.jp/#/13/13101</a> 厚生労働省 HP 厚生白書、働く女性の実状 等 <a href="https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/">https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/</a> 学術機関ジポトリ <a href="https://irdb.nii.ac.jp/">https://irdb.nii.ac.jp/</a> J-Staje <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja</a>
オフィス アワー	水曜日の昼休み時間帯とします。実習、出張などで不在にすることもあります。その場合には、メールでご連絡ください。sanae-w@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	履修人数が 80 名を超えた場合は、2 教室間での遠隔授業を基本とする。 遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として【若杉早苗】【遠山大成】を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	公衆衛生看護技術論演習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	多様な対象者の健康問題を予測し、予防的に対処していくための、専門的な知識や技術の習得及び、課題解決の過程(アセスメント・分析・診断・計画・実施・評価)の6つの要素を理解し、理論に基づいた主体的に関与・支援ができる技能を身につける。さらに、公衆衛生看護活動を実践するための保健指導、健康相談、健診等に係る公衆衛生看護技術を習得する。
到達目標	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につける。 1. 多様な対象者のセルフケア能力を高める保健指導計画の立案方法を理解できる。 2. 個人・家族に対する保健指導(個人・家族の健康支援)の展開ができる。 3. 集団に対する基本的な健康教育をおこなう方法を理解すると共に、地域支援(地域の健康課題)へとつながる保健指導の展開ができる。 4. 多様な対象者と信頼関係を持って保健指導するための知識・技術・態度を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 若杉早苗、渡邊輝美、江口晶子 <b>I. 導入 (1 コマ)</b> 第1回: オリエンテーション: 公衆衛生看護の支援技術 (公衆衛生看護技術論事例の振り返り)  <b>II. 個人・家族を対象とした支援に必要な技術 (6 コマ)</b> 成人を対象(個人)の生活を捉える視点を意識しながら、顕在的・潜在的健康課題をアセスメントし、個別指導計画を作成する。  第2回: 個別の保健指導技術の展開: 家庭訪問 (講義) 渡邊 (家庭訪問対象者の理解、情報の整理、アセスメント、指導計画作成技術) 第3回: 個別の保健指導技術の展開 (演習) 教員全員 (成人を対象としたアセスメント・訪問計画の作成) ●担当学生の計画(情報整理、アセスメント、計画内容)を確認し指導をおこなう ●修正部分の確認をおこない、思考を整理する 第4~5回: 個別の保健指導技術の展開: 家庭訪問 教員全員 (成人の相談技術の実践: 学生同士のロールプレイ) ●2コマ続けて演習を開講するA・Bグループに分けてロールプレイ・リフレクション 第6回: 個別の保健指導技術: 家庭訪問の支援評価 (講義+演習) ●ロールプレイをおこなった家庭訪問を再アセスメントし指導の方向性を評価する  <b>III. 地域住民・組織を支援する公衆衛生看護技術 (3 コマ)</b> 第7回: 地域診断の方法 (講義+演習) 教員全員 第8回: 地域保健活動から地域診断をおこない事業企画をするテクニック (講義: 外部) 磐田市保健師 第9回: 地域診断の実践 (演習) 教員全員 第10回: 地域診断から地域課題の解決の計画 (学生共有) 教員全員  <b>IV. 集団を対象とした公衆衛生看護技術 (4 コマ)</b> 母子事例又は成人を対象(個人)とした特定健診結果から地域の共通した健康問題として捉える視点を持ち、集団健康教育の指導計画を作成する。 第11回: 集団の保健指導技術: 健康教育 (講義+演習) 教員全員 (個人の健康問題はその地域の問題として捉え、解決策(健康教育案)を作成する。 教育目標の設定、方法と媒体)  第12回: 集団の保健指導技術: 健康教育素案の指導 教員全員

	<p>(目的・目標を達成するための方法と媒体、<b>指導案の作成、発表準備</b>) //</p> <p>第13回：集団の保健指導技術：健康教育（実践・演習） } 連続コマで実施 //</p> <p>第14回：集団の保健指導技術：健康教育（実践・演習） } //</p> <p>●1人15分の教育指導（5～6人グループ）をお互いに講評する</p> <p>●実践した健康教育を自己評価（リフレクション）する</p> <p><b>V. 公衆衛生看護に必要な技術・まとめ（1コマ）</b></p> <p>第15回：公衆衛生看護技術のまとめ（実践の講評＋講義） 若杉</p>
アクティブラーニング	演習科目です。集団を対象とした学修は、個人ワーク、プレゼンテーションをします。個人・家族を対象とした学修では、保健師の実践技術をロールプレイにより習得していきます。
授業内のICT活用	健康教育の企画に対し、インターネットを活用して情報を収集し活用する。健康教育の発表はパワーポイントを使用し、プレゼンテーション能力向上にも活用する。演習に関する事例及び様式をWebclassに掲載し活用する。
評価方法	演習記録80%（個別支援計画：20%、地域診断計画書：20%、健康教育の実践：30%） 演習への取り組み態度 20% *演習評価は、ルーブリックを用いる（健康教育）。 *演習の到達目標は、MR自己チェック項目を提示する。
課題に対するフィードバック	ロールプレイや技術チェックの実践場面で個別にフィードバックをしていきます。講義のコマではリアクション・ペーパーの記載から到達していない課題を確認し、次回の演習でフィードバックしていきます。
指定図書	乳幼児健診マニュアル 第5版（医学書院） 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論：医学書院：購入済み 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術：医学書院：購入済み 国民衛生の動向（厚生労働統計協会編）：購入済み 国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会編）：購入済み
参考図書	公衆衛生がみえる 2020-2021：MEDICMEDIA 保健指導のリソースガイドURL： <a href="http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/kanshoku-file/">http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/kanshoku-file/</a> 東京法規出版映像チャンネルURL ： <a href="https://www.youtube.com/channel/UCbJ_8X-kZ2fys1kEefCLBFQ">https://www.youtube.com/channel/UCbJ_8X-kZ2fys1kEefCLBFQ</a> ※この他必要に応じて随時紹介します
事前・事後学修	公衆衛生看護技術論の再確認のための事前課題を教員より提示します。 特定健診・特定保健指導、医療保健制度、保険診療の仕組み（診療請求書：レセプト）について 地域の健康課題に関連する内容の質的研究及び量的研究の文献検索（各1本ずつ）
オープンエデュケーションの活用	自主学习として下記のサイトを紹介する。 内閣府、経済産業省 地域診断分析システム RESAS <a href="https://resas.go.jp/#/13/13101">https://resas.go.jp/#/13/13101</a> 厚生労働省HP 厚生白書、働く女性の実状 等 <a href="https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/">https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/</a> 学術機関ジポトリ <a href="https://irdb.nii.ac.jp/">https://irdb.nii.ac.jp/</a> J-Stage <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja</a>
オフィスアワー	研究室：1号館2階1211研究室です。不在にすることが多いため、面談・指導等が必要な場合は、事前に指導担当教員にメール（ <a href="mailto:sanae-w@seirei.ac.jp">sanae-w@seirei.ac.jp</a> ）でアポイントメントをお願いします。
実務経験に関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として、履修人数が80名を超えた場合は、2教室間での遠隔授業を基本とする。 遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として教職員1名を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	公衆衛生看護活動論
科目責任者	渡邊 輝美
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	公衆衛生看護の対象である全ての地域住民への支援において、最大限の効果を発揮するための理論と方法を学修する。各ライフステージ、あらゆる健康レベル、脆弱性・リスクを持った個人とその家族のみならず、集団・組織・地域・ケアシステムを踏まえて適切に理解しアセスメントできる力量を習得する。また、複雑化する健康課題に戦略的に対応するため、多職種間連携、市民協働、政策形成参画による包括的アプローチの意義と方法を理解する。
到達目標	1. 対象特性に合わせた地域診断から事業化までのプロセスを理解することができる。 2. 健康課題の予測と明確化に必要な情報収集とアセスメントの方法が理解できる。 3. 対象別の健康課題に合わせた支援計画・立案・評価の要点と方法が理解できる。
授業計画	<p style="text-align: right;">＜担当教員名＞ 渡邊輝美、若杉早苗、江口晶子</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：公衆衛生看護の理念 渡邊輝美</p> <p>第2回：母子（親子）保健①/ 理念と法制度、活動の動向 渡邊輝美</p> <p>第3回：母子（親子）保健② / 母性各期の健康課題と支援 渡邊輝美</p> <p>第4回：高齢者保健① / 理念と法制度、活動の動向 渡邊輝美</p> <p>第5回：高齢者保健② / 高齢期の健康課題と支援 渡邊輝美</p> <p>第6回：精神保健 / 理念と法制度、活動の動向 江口晶子</p> <p>第7回：難病対策 / 理念と法制度、活動の動向 江口晶子</p> <p>第8回：感染症対策 / 理念と法制度、活動の動向 若杉早苗</p> <p>第9回：感染症対策 / 健康危機管理の支援技術 若杉早苗</p> <p>第10回：障害者（児）保健 / 理念と法制度、活動の動向 若杉早苗</p> <p>第11回：産業保健① / 産業保健の理念と法制度、活動の動向</p> <p style="text-align: right;">ゲストスピーカー：聖隷福祉事業団保健師</p> <p>第12回：産業保健② / 産業における健康課題と支援の実際</p> <p style="text-align: right;">ゲストスピーカー：聖隷福祉事業団保健師</p> <p>第13回：学校保健① / 学校保健の理念と法制度、活動の動向 養護教諭課程教員</p> <p>第14回：学校保健② / 学校における健康課題と支援の実際 養護教諭課程教員</p> <p>第15回：まとめ 渡邊輝美</p>

アクティブ ラーニング	課題に対し、ディスカッションやグループワークを行う。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて、理解度の確認をするための双方向型授業を行う。
評価方法	課題提出物とディスカッションやグループワークの参加状況：20%、定期試験 80%
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座 1 「公衆衛生看護学概論」 医学書院 標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術」 医学書院 標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動」 医学書院 最新保健学講座 5 「公衆衛生看護管理論」 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会編 (最新版) . 公衆衛生がみえる, メディックメディア (最新版) .
参考図書	授業内で提示する。
事前・ 事後学修	事前学修：事前に配付または配信される課題を行う。 事後学修：事前学修と授業の内容の復習をする。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・ e-Stat (政府統計ポータルサイト) 統計学習コンテンツ <a href="https://www.e-stat.go.jp/understand-static-system-study-statics">https://www.e-stat.go.jp/understand-static-system-study-statics</a> ・ GIS 実習オープン教材 (科学研究費補助金 基盤研究(A) ) <a href="https://gis-oer.github.io/gitbook/book/">https://gis-oer.github.io/gitbook/book/</a>
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護活動論演習
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	本科目の目的は、公衆衛生看護実践の根拠となる既習の基礎看護技術、公衆衛生看護技術、法制度に関する知識を統合し、実践力として修得することである。各ライフステージ、あらゆる健康レベルにある全ての対象を、個人・集団・組織・地域、ケアシステムそれぞれの視点から適切にアセスメントし、これらの相互作用を踏まえたアプローチが展開できる力量形成を行う。同時に、個別・グループ学習を通じて保健師に求められる社会人基礎力を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康課題の明確化に必要な量的、質的データを多角的に収集することができる。</li> <li>2. 基本的な知識・理論を体系的に理解し、根拠に基づいてデータをアセスメントできる。</li> <li>3. 対象地域の地域特性を把握し、健康課題を予測することができる。</li> <li>4. 予測される健康課題に対する調査計画が立案できる。</li> <li>5. 予測される健康課題に対し、対象特性と健康課題に合った支援方法を計画できる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: right;">＜担当教員名＞江口晶子、若杉早苗、渡邊輝美</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：コミュニティ・アズ・パートナーモデルに基づく地域アセスメント計画の立案</p> <p>第2回：地域の概要、コア（人口集団）、サブシステムのアセスメント</p> <p>第3回：人々の健康と生活のアセスメントの判断・解釈</p> <p>第4回：人々の健康に影響を与える要因の列挙と関連性の検討</p> <p>第5回：健康課題の再検討</p> <p>第6回：モデルを用いた多角的なデータ収集とアセスメント①</p> <p>第7回：モデルを用いた多角的なデータ収集とアセスメント②</p> <p>第8回：人々の健康と生活のアセスメントからの健康課題の抽出および類型の選択</p> <p>第9回：健康課題の構造化（原因、対処力、影響の分析）と優先度の判断</p> <p>第10回：プリシード・プロシードモデルを用いた既存の政策および保健事業の評価</p> <p>第11・12回：地区踏査と地域住民への聞き取り</p> <p>第13回：健康課題解決のための対策の決定（介入の対象と支援方法）、評価計画</p> <p>第14回：調査報告会でのプレゼンテーション</p> <p>第15回：今後に向けた地域アセスメント計画立案</p>



アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を利用して授業内・外での理解度を確認する双方向型授業を行う。</li> <li>グループ発表のプレゼンテーション・フィードバックを ICT によって行う。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習記録・プレゼンテーション資料 70%、演習への取り組み状況 30%。</li> <li>発表時にはルーブリックを用いて評価を行う。内容はオリエンテーション時に示す。</li> </ul>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習担当教員が口頭または課題へのコメントによりフィードバックを行う。</li> <li>調査発表会ではコメントカードを使用して教員および学生相互にフィードバックを行う。</li> </ul>
指定図書	<p>標準保健師講座 1 「公衆衛生看護学概論」 医学書院</p> <p>標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術」 医学書院</p> <p>標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動」 医学書院</p> <p>最新保健学講座 5 「公衆衛生看護管理論」 医学書院</p> <p>国民衛生の動向, 厚生労働統計協会編 (最新版)</p> <p>公衆衛生がみえる, 医療情報科学研究所: メディックメディア (最新版)</p>
参考図書	<p>公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動 I, 医歯薬出版</p> <p>公衆衛生看護学テキスト 4 公衆衛生看護活動 II 学校保健・産業保健</p> <p>国民の介護と福祉の動向, 厚生労働統計協会編</p>
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 資料の作成、準備 (各回 40 分)</li> <li>事後学修: 教員の指導や他の学生からのフィードバックを受け資料を修正 (各回 40 分)</li> </ul>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-Stat (政府統計ポータルサイト) 統計学習コンテンツ <a href="https://www.e-stat.go.jp/understand-static-system-study-statics">https://www.e-stat.go.jp/understand-static-system-study-statics</a></li> <li>GIS 実習オープン教材 (科学研究費補助金 基盤研究(A) ) <a href="https://gis-oer.github.io/gitbook/book/">https://gis-oer.github.io/gitbook/book/</a></li> </ul>
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護総合演習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	公衆衛生看護活動展開論演習と公衆衛生看護学実習で行った地域の健康課題抽出、活動計画立案の過程より、地域の健康課題とその課題を解決するための施策を検討するための思考過程を整理する。整理された施策の内容から、対策を1つ絞って事業案を作成し、事業化のプロセスを学ぶ。その事業案を、実習市町に提案し、地域の健康課題解決に貢献することを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの公衆衛生看護活動展開論演習や公衆衛生看護学実習において、公衆衛生看護活動は、PDCA サイクルによって展開されていることを再認識できる。</li> <li>2. 今までの演習や実習で取り組んだ内容を、情報収集、健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として再度整理できる。</li> <li>3. 2で整理した過程から健康課題を明確化し、施策を検討できる。</li> <li>4. 施策を実現するための事業化案の作成により、施策と事業の位置づけを理解できる。</li> <li>5. 事業化のプロセスを述べることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>担当教員名&gt; 若杉早苗、渡邊輝美、江口晶子、遠山大成</p> <p>◇演習オリエンテーション 第1回：事業化・事業の評価の視点（講義）</p> <p>◇情報の統合と分析 第2、3回：公衆衛生看護学実習で収集した健康問題関連情報を整理し、統合して分析する。 3年次の演習・4年次の実習で得た情報を統合し、分析する。 第4回：今まで出ていた地域の健康課題を再度検討し、根拠を明らかにする。 課題解決のための既存事業の改善や社会資源の開発なども検討する。 第5回：これまでの内容を、健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として整理する。 第6、7回：地域の健康課題解決のための事業案を作成する。 事業案は、事業の目的、裏付けとなる根拠、内容、評価、予算について提案する。新規事業だけではなく、既存の事業の修正なども含み、提案する。</p> <p>◇事業案のプレゼンテーションとディスカッション 第8、9回：プレゼンテーション準備 事業企画書作成、パワーポイント作成（根拠となるデータや社会資源等）。 第10、11回：事業案をグループ毎に発表し、市町単位で情報を共有する。 第12-14回：成果報告会として、地域の健康課題解決のための事業案を発表する。 市町・保健所の実習指導者より助言を受ける。</p> <p>◇演習まとめ 第15回：これまでの事業化プロセスを、個人・グループで振り返る。 教員から演習全体を通したフィードバックを受ける。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生主導のグループ発表 / ディスカッション</li> <li>・協働学習 / 問題解決型学習</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<p>Webclass を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を行う。</p> <p>Zoom を利用してオンライン上でのディスカッションを行う。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習への取り組み (20%)</li> <li>・演習全体 (資料内容、事前プレゼンテーション等 (40%)</li> <li>・当日の発表内容 (20%)</li> <li>・各自の振り返りレポート (20%)</li> </ul> <p>発表時には、ルーブリックを用いて評価を行う。内容は、オリエンテーション時に示す。</p>
課題に対する フィード バック	<p>学生は毎回ごとに指定の課題様式を担当教員提出し、進捗状況及び目標達成状況についての確認を受け、以降の進め方について個別に指導を受ける。</p>
指定図書	<p>標準保健師講座 1 「公衆衛生看護学概論」 医学書院：(購入済み)</p> <p>標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術論」 医学書院：(購入済み)</p> <p>標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動論」 医学書院：(購入済み)</p>
参考図書	<p>「公衆衛生がみえる」 メディックメディア</p>
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護展開論演習、公衆衛生看護学実習で収集した地域アセスメントに関する情報を整理する。(第1回)</li> <li>・今まで授業で学んだ地域アセスメント、公衆衛生看護活動の計画・実践・評価のプロセスをテキストや授業配布資料等を使い復習する。文献を収集する。(第2～7回)</li> <li>・事後学修は、各回ごとに教員の助言を受け、不足する部分の内容を補う。</li> </ul> <p>いずれも所要時間は 40 分である。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-Stat (政府統計ポータルサイト) 統計学習コンテンツ <a href="https://www.e-stat.go.jp/understand-static-system-study-statics">https://www.e-stat.go.jp/understand-static-system-study-statics</a></li> <li>・GIS 実習オープン教材 (科学研究費補助金 基盤研究(A) ) <a href="https://gis-oer.github.io/gitbook/book/">https://gis-oer.github.io/gitbook/book/</a></li> </ul>
オフィス アワー	<p>各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、授業初日に提示する。</p> <p>渡邊輝美 (1209 研究室: <a href="mailto:terumi-w@seirei.ac.jp">terumi-w@seirei.ac.jp</a>)</p> <p>若杉早苗 (1211 研究室: <a href="mailto:sanae-w@seirei.ac.jp">sanae-w@seirei.ac.jp</a>)</p> <p>遠山大成 (1680 研究室: <a href="mailto:taisei-t@seirei.ac.jp">taisei-t@seirei.ac.jp</a>)</p>
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>
メディア 授業の実施 について	<p>新型コロナウイルス対策の特例として、履修人数が 80 名を超えた場合は、2 教室間での遠隔授業を基本とする。</p>

科目名	公衆衛生看護管理論
科目責任者	渡邊 輝美
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	公衆衛生看護管理は、保健師活動の質を高めるための活動であり、だれもが暮らしやすい地域になるように働きかけることであり、保健師の専門性そのものである。 この公衆衛生看護管理の機能について学び、保健師の専門性について考える。
到達目標	1. 公衆衛生看護管理がなぜ必要か、理解することができる。 2. 保健師活動における看護管理の特徴、機能を理解することができる。 3. 保健師活動の中で、公衆衛生看護管理の機能を見出すことができる。 4. 健康危機管理の視点で、公衆衛生看護活動が理解できる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜担当教員名＞ 渡邊輝美、三輪眞知子、若杉早苗、江口晶子</p> <p>＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：公衆衛生看護管理の目的と機能 渡邊輝美</p> <p>第 2 回：公衆衛生看護における管理機能（地区管理） 渡邊輝美</p> <p>第 3 回：公衆衛生看護における管理機能（組織管理、予算管理、人事管理） 三輪眞知子</p> <p>第 4 回：行政における公衆衛生看護管理 ゲストスピーカー袋井市役所保健師</p> <p>第 5 回：健康危機管理（災害） 若杉早苗</p> <p>第 6・7 回：健康危機管理（感染症） 渡邊輝美、若杉早苗、江口晶子、三輪眞知子</p> <p>第 8 回：まとめ 渡邊輝美</p>

アクティブ ラーニング	毎回、短時間のグループディスカッションを取り入れる。 ディベートを活用した授業を行う。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用して、学生が、自身の意見を述べたり、他者の意見を閲覧したりする。
評価方法	課題提出物とディスカッションやグループワークの参加状況：20%、小テスト5回80%
課題に対する フィード バック	授業の中で行う。
指定図書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」医学書院 標準保健師講座2「公衆衛生看護技術論」医学書院 標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動論」医学書院
参考図書	「公衆衛生がみえる」メディックメディア 「最新 保健学講座5 公衆衛生看護管理」メディカル・フレンド社
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容やテーマについて、指定図書のページを指定する、または、課題を提示するので、その部分を読む、課題に取り組む等、40分以上の予習をして授業に臨むこと。 事後学修：授業の内容をもとに復習の要点、各自が調べる内容を提示するので、各自その課題に取り組む。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	科目内で学習したP-Pスライドおよび事例検討におけるグループワークの意見をWebclassで閲覧できるように掲載していく。
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護学実習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	4単位 (180時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	都道府県及び政令指定都市や市町の行政責任において実施されている公衆衛生看護活動の実際を理解し、地域で生活している全ての人々を対象とした予防的意義の高い保健活動の実際を学ぶ。さらに、地域で生活している人々が安心して暮らせるための地域ケアシステム構築のための公衆衛生活動（地区活動）のあり方を考察する。
到達目標	<p>看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、主体的に多職種と連携・協働することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域診断を行い地域の健康課題を明らかにし、その解決策を検討することができる。</li> <li>2. 事業の体系として施策が理解でき、施策の策定における地域ケアシステムの機能と運営について考えることができる。</li> <li>3. 個人・家族・集団に対して健康課題解決のための公衆衛生看護技術の実践ができる。</li> <li>4. 地域の住民や関係機関と連携して活動する意義が理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 若杉早苗、渡邊輝美、江口晶子、遠山大成</p> <p>第1日目：公衆衛生看護学実習についてのオリエンテーション  実習のプロセス：家庭訪問（主体的実践）、健康教育、地域診断の3つの軸で実習をおこなう</p> <p>第2～20日目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭訪問：選定した対象者の主体的な保健指導実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家庭訪問事例の選定</li> <li>2) 保健師の家庭訪問に同行・見学</li> <li>3) 選定事例のアセスメント及び訪問計画・保健指導計画作成</li> <li>4) 主体的訪問の実践（実施）及び評価</li> </ol> </li> <li>2. 健康教育：健康課題を解決するための教育計画の作成 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護活動展開演習で抽出した健康問題に対する教育計画の作成</li> <li>2) 健康教育対象者の選定</li> <li>3) 保健師がおこなう健康教育の見学</li> <li>4) 健康教育の準備（リハーサル）</li> <li>5) 健康教育の実施及び評価</li> </ol> </li> <li>3. 地域診断：収集した健康問題の分析報告と関連する保健事業体系図の作成 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護活動展開演習で抽出した健康問題に関連する情報と収集する方法を検討し、地域診断計画を作成する</li> <li>2) 地域診断計画に沿って質的・量的情報収集をおこなう</li> <li>3) 収集した情報を分析し、健康問題を明確化する</li> <li>4) 地域診断により抽出された健康問題に対し行われている保健事業、対策を把握する</li> </ol> </li> <li>4. 地域の予防活動に関連した地区組織や自主組織活動、地域レベルでの連絡会議等に参加し、活動の意義や地域の健康ニーズに対しどのように有効に機能しているか理解する</li> </ol> <p>&lt;実習時の体験項目&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健師技術習得：家庭訪問及び健康教育の実践</li> <li>2. 地域診断：地域課題の調査及び分析</li> <li>3. 保健行政システムの理解：対象者を支援する地域ケアシステムを整理する</li> <li>4. 健康危機管理における公衆衛生看護活動の理解：集団感染症発生時の活動の聞き取り</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	実習場で健康教育の教育企画を行うにあたり、インターネットから得た情報を参考に活用しながら企画をおこなう。そのため、遠隔地において学生が共有できるパソコンの支給及びインターネット環境を確保する。ICT 機器を使用して実習成果（健康教育、地域診断）の達成度確認をおこなう双方向授業をおこなう。 公衆衛生看護学実習に関する様式等を、Webclass に掲載し活用を促す。
評価方法	実習記録 50% （家庭訪問個別支援計画 20%、健康教育 15%、地域診断 15%） 支援困難事例の検討 10% 実習に取り組む姿勢や態度 20% 実習後レポート 20%
課題に対する フィード バック	日々の実習日誌及び日々のミニカンファレンスでフィードバックをおこないます。
指定図書	『乳幼児健診マニュアル 第5版』（医学書院）：購入済み 『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』：医学書院：購入済み 『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』：医学書院：購入済み 『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』：医学書院：購入済み 『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会編）：購入済み 『国民の福祉と介護の動向』（厚生労働統計協会編）：購入済み
参考図書	公衆衛生がみえる 2020-2021：MEDICMEDIA：購入済み この他については、随時紹介します
事前・ 事後学修	公衆衛生看護に関わる法律を基本としたワーク（2020-2021 年度 公衆衛生看護実習・演習要項・記録冊子参照） 実習で参加する事業に係る事前・事後課題は随時、担当教員より紹介します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学习として下記のサイトを紹介する。  内閣府、経済産業省 地域診断分析システム RESAS <a href="https://resas.go.jp/#/13/13101">https://resas.go.jp/#/13/13101</a> 厚生労働省 HP 厚生白書、働く女性の実状 等 <a href="https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/">https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/</a> 学術機関ジポトリ <a href="https://irdb.nii.ac.jp/">https://irdb.nii.ac.jp/</a> J-Staje <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja</a>
オフィス アワー	研究室：1号館2階1211研究室です。不在にすることが多いため、面談・指導等が必要な場合は、事前に指導担当教員にメール（ <a href="mailto:sanae-w@seirei.ac.jp">sanae-w@seirei.ac.jp</a> ）でアポイントメントをお願いします。（実習担当教員のメールは2021-2022年度 公衆衛生看護実習・演習要項・記録冊子参照）
実務経験に 関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	遠隔授業を基本としない。実習配置時期の最大人数は30名程度であるため、対面による学内実習を行う際も、感染拡大の予防策を徹底し、1教室での実施とする。

科目名	健康相談活動	
科目責任者	岡田 眞江	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター	
DP番号と科目領域	教DP(2)教職	
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。	
科目概要	教科書及びその他の資料を活用しながら、学校現場で起こっている児童生徒の心身の健康問題を明らかにし、養護教諭としての健康相談活動の在り方について理解を深める。 健康相談活動の基本的な考え方とその進め方、支援体制づくりについて事例を通して学ぶ。 健康相談活動・健康相談に生かせる理論や方法を二人組やグループ演習等で実践的に学び、具体的な養護活動の展開について考察する。	
到達目標	<p>養護教諭の職務である健康相談活動について、身体的・心理学的・社会的な側面からアプローチする方法を学び、学校教育活動全体における健康相談活動・健康相談の位置づけや重要性について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童生徒の健康課題が多様化している現状を踏まえ、養護教諭が行う健康相談活動・健康相談の変遷や理論、意義及び役割について理解することができる。</li> <li>2. 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かし、児童生徒に生じた心身の健康課題に則した健康相談活動のプロセスを理解して行動することができる。</li> <li>3. あらゆる養護活動の実践を通して、心身の健康課題の発見・分析・判断し、健康問題の改善及び解決へと導く実践力を身に付けることができる。</li> <li>4. 関係者が連携して心身の健康問題の解決を図り、あらゆる機会を捉え、教育活動につなげることができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、健康相談活動・健康相談の基本的理解 (健康相談活動の定義と目的、学校教育と健康相談)</p> <p>第2回 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景 (健康の現代的課題：いじめ・不登校・自殺・児童虐待等の課題)</p> <p>第3回 養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした健康相談活動 ゲストスピーカー 三木とみ子先生</p> <p>第4回 健康相談活動・健康相談を支える諸理論</p> <p>第5回 健康相談活動に活かせるカウンセリングの技法</p> <p>第6回 健康相談活動におけるヘルスアセスメント</p> <p>第7回 健康相談活動・健康相談の進め方(基本的な流れとプロセス)</p> <p>第8回 チーム学校で進める健康相談・健康相談活動 (健康相談・健康相談活動における連携)</p> <p>第9回 健康相談活動の評価の実際 (健康相談・健康相談活動における情報管理を含む)</p> <p>第10回 健康相談・健康相談活動の記録と事例検討の方法</p> <p>第11回 健康相談活動の実際：保健室を想定した課題設定演習1 (健康の現代的課題への対応：性に関する問題・いじめ・自殺・児童虐待など)</p> <p>第12回 健康相談活動の実際：保健室を想定した課題設定演習2 (不登校・保健室登校の事例を通して考える)</p> <p>第13回 健康相談活動の進め方：事例検討会の実施1</p> <p>第14回 健康相談活動の進め方：事例検討会の実施2</p> <p>第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題</p>	<p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p> <p>岡田眞江</p>



アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。</li> <li>・第4-10回ではグループワーク・演習を行い、第11-14回ではロールプレイングを行う。</li> </ul>
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。</li> </ul>
評価方法	<p>リアクションペーパー・課題提出物 20%</p> <p>グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 (演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示す。) 20%</p> <p>筆記試験 60% 計100%</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題については、コメントを添えて返却する。</li> <li>・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気づき、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。</li> <li>・毎回実施する小テストについては、講義の中で解説を行う。</li> <li>・筆記試験の解答例の提示を行う。</li> </ul>
指定図書	三木とみ子・徳山美智子編集『養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際』（ぎょうせい）
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷尚子、鈴木美智子編「新版 養護教諭の行う健康相談」（東山書房）</li> <li>・日本学校保健会「養護教諭が行う健康相談活動の進め方」</li> <li>・日本学校保健会「子どものメンタルヘルスの理解とその対応」</li> </ul> <p>※その他、必要時応じて随時紹介する。</p>
事前・事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと。</li> <li>・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。</li> <li>・授業後に、小テストを実施すること（1～14回目）。 授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立つ。</li> <li>・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。</li> </ul>
オープンエデュケーションの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する基本的な法律・計画など <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm</a></li> <li>・学校保健、学校安全、食育 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm</a></li> </ul> <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト <a href="https://www.gakkohoken.jp/">https://www.gakkohoken.jp/</a></p>
オフィスアワー	<p>科目責任者：岡田 眞江 研究室（1711）、メールアドレス（<a href="mailto:masae-o@seirei.ac.jp">masae-o@seirei.ac.jp</a>）</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から18時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	特別支援教育概論
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP(1) 教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	様々な理由により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。
到達目標	1) 特別支援教育の制度について理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 3) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 4) 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 伊藤信寿、大須賀優子</p> <p>第 1 回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 伊藤  目標：特別支援教育とは何かについて理解する  事前学修：特殊教育と特別支援教育の違いについてまとめる</p> <p>第 2 回：発達障害や知的障害の特性について 伊藤  目標：発達障害や知的障害の特性や支援について理解する  事前学修：発達障害や知的障害の疾患名や特性についてまとめる</p> <p>第 3 回：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害の特性について 伊藤  目標：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の特性や支援について理解する  事前学修：脳性まひ、筋ジストロフィーの特性についてまとめる</p> <p>第 4 回：特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の脳の発達特性と支援 大須賀  目標：発達障害や知的障害の脳機能の特性に合わせた支援の方法について理解する  事前学修：発達障害や知的障害の子どもへの支援で疑問に思うことをまとめる</p> <p>第 5 回：特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の行動支援 大須賀  目標：ABC 分析の考え方に基づく効果的な行動支援の方法について理解する  事前学修：子どもの問題行動に対する支援の方法をまとめる</p> <p>第 6 回：特別支援教育の制度と合理的配慮の提供 大須賀  目標：特別支援教育の仕組みについて理解するとともに、ICF の視点から学校における合理的配慮の提供について理解する。  事前学修：合理的配慮とは何かまとめる</p> <p>第 7 回：特別支援教育における専門家の役割について 伊藤  目標：特別支援教育に関わる専門家とその役割について理解する  事前学修：どのような専門家がいるのかをまとめる</p> <p>第 8 回：教育、医療、福祉、家庭との連携について 伊藤  目標：医療や福祉の制度について学び、家庭を中心とした連携を理解する  事前学修：自分が考える理想の連携についてまとめる</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。 また、Think-Pair-Share を行っていきます。
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います
評価方法	小テスト (50%)、レポート (30%)、課題 (20%) レポート、課題はルーブリックを用いない
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらい、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	指定無し
参考図書	よくわかる特別支援教育[第2版] (湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房) 特別支援教育 (松浪健四郎他 監修 中山書店)
事前・ 事後学修	事前学修：事前に提示した課題を遂行する (30分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	
科目責任者	梅澤 収	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター	
DP番号と科目領域	教DP(1)教職	
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。	
科目概要	<p>(担当：米原 優)</p> <p>①道徳教育の意義、②日本における道徳教育の歴史、③『学習指導要領』における道徳教育の位置づけ、④道徳教育の基盤となる諸理論について概説する。また、いじめという現代社会において道徳教育が取り組むべき問題についても論じる。</p> <p>(担当：梅澤 収)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等について概説したうえで、指導計画の作成の考え方を養護教諭の立場から実践的に考察する。</li> <li>・特別活動の意義・目標や内容、そして主要な論点等を概説したうえで、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。</li> </ul>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における道徳（の時間）の意義や主要な論点などを理解し、児童・生徒の発達に即した道徳教育の実践について考察する。</li> <li>2. 総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等を理解するとともに、養護教諭の立場から指導計画の作成の考え方を実践的に考察する。</li> <li>3. 特別活動の意義・目標や内容を理解するとともに、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。</li> </ol>	
授業計画	<p>第1回：道徳とは何か</p> <p>第2回：道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点 米原 優</p> <p>第3回：道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材 米原 優</p> <p>第4回：道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容 米原 優</p> <p>第5回：道徳教育の理論① コールバーグの理論 米原 優</p> <p>第6回：道徳教育の理論② リップマンの理論 米原 優</p> <p>第7回：道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育 米原 優</p> <p>第8回：道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育 米原 優</p> <p>第9回：総合的な学習の時間とは？（成り立ちと学習指導要領の位置） 梅澤 収</p> <p>第10回：総合的な学習の時間の理論 梅澤 収</p> <p>第11回：総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題 梅澤 収</p> <p>第12回：総合的な学習における養護教諭の役割と可能性 梅澤 収</p> <p>第13回：特別活動とは？（成り立ちと学習指導要領の位置） 梅澤 収</p> <p>第14回：特別活動の理論と実践 梅澤 収</p> <p>第15回：特別活動における養護教諭の役割と可能性 梅澤 収</p>	

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業の中間および最終レポート(計 80%)、授業への参加度等(20%)
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	なし
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教育課程・方法論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	本講義では、教育課程の意義、編成の方法や教育の方法・技術に関して、理解・考察を深めることを目的とする。そもそも教育課程とは何か、学校教育でそれらはどういう意義を有するのかについて、諸理論や歴史的変遷を踏まえながら理解する。とくに、近年重視されるカリキュラム・マネジメントの意味について理解し、それとどう向き合うかについて探究する。さらに、教育の目的に適した指導技術を身につけるべく、教育方法の理論や教材・情報機器の活用方法について理解し、考察を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の歴史を踏まえ、教育課程の編成の目的及び方法を理解する。</li> <li>2. 学習指導要領やカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、説明できる。</li> <li>3. 教育方法の基礎的理論と実践を理解し、目的に応じた指導技術を理解し、模擬的に実施することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教育課程とは何か① 教育課程をめぐる基本的概念</p> <p>第3回：教育課程とは何か② 教育課程の意義・役割と機能</p> <p>第4回：教育課程とは何か③ 教育課程編成の原理と類型</p> <p>第5回：学習指導要領① 学習指導要領の変遷</p> <p>第6回：学習指導要領② 教科書と学習指導要領</p> <p>第7回：学習指導要領③ 社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第8回：教育方法の理論① 教育目標・評価論</p> <p>第9回：教育方法の理論② 学力論</p> <p>第10回：教育の技術① 教具・教材と授業づくり</p> <p>第11回：教育の技術② アクティブラーニングと情報機器の活用</p> <p>第12回：模擬授業の実施① 学習指導案の作成</p> <p>第13回：模擬授業の実施② 学生による模擬授業-1</p> <p>第14回：模擬授業の実施③ 学生による模擬授業-2</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	学生による模擬授業、グループディスカッション、グループワーク
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 50% 課題提出物（指導案等） 30% 授業態度（模擬授業も含む） 20%
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	授業中に配布するプリントを使用する。
参考図書	佐藤学『教育方法学』、岩波書店、2011年。
事前・ 事後学修	事後学修：授業で扱った内容について、新聞や読書を通じて理解を深める（2～15回） （事後学修の目安 1回につき80分）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	太田知実（1210研究室）tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回の授業時に提示します
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	生徒指導の理論と方法
科目責任者	太田 正義
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (1) 教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	多様化する児童生徒の状況、家庭の状況、社会の状況に対する理解を深め、生徒指導の理論を理解するとともに、具体的事例を通して生徒指導の実践力を身につける。そのために生徒指導についての理論的な理解に加え、演習を行い、実践的な技術の習得を目指す。また、事例をもとに校内の生徒指導体制の整備や他機関との連携の実際について学ぶことで実践力の涵養を目指す。
到達目標	①生徒指導の意義や原理を理解する。 ②すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 ③児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。
授業計画	第 1 回：学校教育における生徒指導の役割－生徒指導提要を読み解く 第 2 回：子どもの発達と生徒指導－生徒指導と発達課題 第 3 回：学級経営，学校行事と生徒指導 第 4 回：養護教育と生徒指導 第 5 回：問題行動と生徒指導1（いじめ・暴力など） 第 6 回：問題行動と生徒指導2（不登校・自傷行為など） 第 7 回：校則と生徒指導 第 8 回：「チームとしての学校」と生徒指導



アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	講義中のミニレポート 20%、講義中の取り組みの姿勢 20%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	なし
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教育相談の理論と方法	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター	
DP番号と科目領域	教DP(1)教職	
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。	
科目概要	学校教育場面で児童生徒の心の問題に対応する上で必要なカウンセリング(傾聴)技法についてロールプレイなどの体験学習を行う。また、不登校(保健室登校)、心身症、いじめ、児童虐待などの問題に対する知識と、実際の学校での援助のあり方(個別及び連携)について事例検討を通して理解を深める。	
到達目標	1. 教育相談の意義、及び、学校教育場面での児童生徒の心理的問題(不登校、保健室登校、心身症、いじめ、児童虐待など)について理解する。 1の心理的問題に対して養護教諭が行う支援、特に、カウンセリング技法、校内支援体制作り、専門機関との連携の仕方について、ロールプレイや事例検討を通して理解する。	
授業計画	<p>第1回：学校教育における教育相談の意義</p> <p>第2回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法1 ：傾聴技法の基本</p> <p>第3回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法2 ：傾聴技法のロールプレイ</p> <p>第4回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法3 ：カウンセリングの実際</p> <p>第5回：教育相談場面での児童生徒対応のロールプレイ</p> <p>第6回：児童生徒への関わり方についての事例検討</p> <p>第7回：不登校児童生徒の理解と支援1：心理的要因の理解</p> <p>第8回：不登校児童生徒の理解と支援2：支援のプロセス</p> <p>第9回：いじめに関する理解とその対応1：講義</p> <p>第10回：いじめに関する理解とその対応2：演習</p> <p>第11回：児童虐待の理解と支援1：基本的事項の理解</p> <p>第12回：児童虐待の理解と支援2：学校における支援</p> <p>第13回：模擬事例検討(グループワーク)1：不登校の事例</p> <p>第14回：模擬事例検討(グループワーク)2：保健室登校の事例</p> <p>第15回：模擬事例検討(グループワーク)3：心身症の事例</p>	<p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>大須賀優子先生</p> <p>大須賀優子先生</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p> <p>長峰伸治</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリング的コミュニケーション・態度に関するロールプレイを行う。</li> <li>・教育相談に関わる事例検討をグループで検討して、その内容を全体で共有する。</li> </ul>
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業への取り組み状況(ロールプレイの実施、振り返りシートへの記入、グループでの事例検討・発表など、事前事後課題など) 50%、最終レポート50%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの振り返りをシートに記入したものに対して、コメントする。</li> <li>・グループで行った事例検討の発表に対して、その場でフィードバックをする。</li> </ul>
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中に実施したロールプレイや事例検討に関して、配布された資料を基に毎回復習を行う。事後課題に取り組む。授業内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	本科目は臨床心理士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	学校体験活動
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (3) 教職
科目の位置付	(1) と (2) を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。
科目概要	学校や教員の仕事について知り、学校教員を目指す上での目的意識を高めるために、実際に学校現場に入って、教育活動の補助や児童生徒との関わりなどの体験活動を行う。
到達目標	1. 学校現場に入って教育活動の補助等、教職の実際を体験することによって、学校・教員・児童生徒についての理解を深める。 2. 学校での体験活動を通して、自らの学校教員としての適性について考え、教職に進む上での自らの課題や目標を見つける。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 長峰伸治、岡田眞江、太田知実</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>○学校体験活動に関する事前指導 (学内)</p> <p>◎聖隷クリストファー中・高等学校にて体験活動 (9月に実施予定)</p> <p>① 講話(中・高等学校の管理職、養護教諭、生徒指導主任、教育相談主任)</p> <p>② 一日保健室体験</p> <p>○学校体験活動の振り返りと事後指導 (学内)</p>

アクティブ ラーニング	学校現場において体験活動を行う。
授業内の ICT 活用	体験活動の振り返りの発表では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う場合がある。
評価方法	各回の体験活動への取り組み態度、報告・感想 80%、最終レポート（体験活動の振り返り）20%
課題に対する フィード バック	各回の体験活動について報告及び最終レポートに対して、教員がフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の体験活動ごとに報告を記述して、自分なりの振り返りを行う。少なくとも 40 分以上は行う。一通り終えた後、体験活動の振り返りに関するレポートを作成すること（最低 80 分）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 岡田眞江(看護学部) 1711 研究室 masae-o@seirei.ac.jp 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	養護実習事前事後指導
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP(1) 教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	事前指導においては、養護実習に際して必要な基本的事項に関する指導および準備活動、事後指導においては、養護実習の取り組みについての振り返りを実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。</li> <li>2. 事前指導では、養護実習の意義や目的、内容をよく理解し、実習参加にあたっての基本的な知識や態度等を身につける。</li> <li>3. 事後指導では、学校現場における様々な実習経験をもとに、自らの実践を総括し、実習の成果と課題を明らかにする。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 長峰伸治、岡田眞江、太田知実</p> <p>◎養護実習Ⅰ(4月実施)について</p> <p>&lt;実習前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・健康診断の各検査・計測についての注意事項・実施方法の講義(練習)</li> <li>・学校保健管理ソフトの使い方の演習(ゲストスピーカー:ソフト開発会社職員)</li> </ul> <p>&lt;実習後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の振り返りによる学びの共有(グループ単位で発表会)</li> </ul> <p>◎養護実習Ⅱ(9月実施)について</p> <p>&lt;実習前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育現場の現状について(ゲストスピーカー:飯田真也先生)</li> <li>・学校保健の概要、応急処置シミュレーション</li> <li>・指導案の書き方についての指導</li> <li>・発達障害児童生徒の理解 (ゲストスピーカー:深澤裕子先生)</li> <li>・実習記録の書き方</li> </ul> <p>&lt;実習後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の振り返り(個人面接)</li> <li>・実習のまとめ(発表会)</li> </ul> <p>※実施日程などの詳細についてはその都度連絡する</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護実習 I の事前指導において、学校保健管理ソフトの使い方について、ソフト開発者による指導のもと、実際にパソコンを使って演習する。</li> <li>・実習の振り返りの発表会では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う予定。</li> </ul>
評価方法	授業への取り組み態度 50%、振り返りのレポート 50%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートに関しては教員がチェックして返却する。</li> <li>・事後指導における発表や個人の振り返りの内容に対してフィードバックする。</li> </ul>
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	養護実習実施要項をよく読んでおくこと。また、それぞれの指導を受けた後は、復習や振り返りをしっかり行うこと。少なくとも 40 分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp  岡田眞江(看護学部) 1711 研究室 masae-o@seirei.ac.jp  太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	養護実習 I
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (2) 教職
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校での健康診断の補助または生徒や教職員との関わりを通して、学校保健活動や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営、養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、生徒の健康や生活実態を、実際の健康診断の補助を行うことを通して理解する。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 長峰伸治、岡田眞江、太田知実</p> <p>&lt;実習時期・期間・場所&gt; 4 年次 4 月 (1 週間) 聖隷クリストファー中・高等学校</p> <p>※健康診断補助を中心とした実習</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>



アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習のレポートは教員がチェックした後、返却する。</li> <li>・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。</li> </ul>
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導につなげる。少なくとも40分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp  岡田眞江(看護学部) 1711 研究室 masae-o@seirei.ac.jp  太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	養護実習Ⅱ
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	3単位 (135時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	教DP(2)教職
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。</li> <li>2. 学校における教育計画やその運営(学校の組織、教育目標、教育課程)、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。</li> <li>3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 長峰伸治、岡田眞江、太田知実</p> <p>&lt;実習時期・期間・場所&gt; 4年次9月(3週間) 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	なし。
評価方法	養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習のレポートは教員がチェックした後、返却する。</li> <li>・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。</li> </ul>
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも 40 分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>岡田眞江(看護学部) 1711 研究室 masae-o@seirei.ac.jp</p> <p>太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教職実践演習（養護教諭）
科目責任者	岡田 眞江
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 8 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(2) 教職
科目の 位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	養護実習で学び体験したことを総合的に学習しながら、児童生徒の健康ニーズに対応できる養護教諭に必要な基礎的な実践力を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護教諭としての使命感や責任感に基づいた確かな実践力を身に付ける。</li> <li>2. 養護実習での体験を振り返りながら、養護教諭として必要な基本的な資質（教員として使命感・責任感・教育的愛情、対人関係能力、児童生徒への理解・支援、学校保健活動、保健室経営、保健教育など）に関する自らの課題を自覚する。</li> <li>3. 実践的な演習や学校現場でのフィールドワーク等を通して、不足している知識・技術を身に付け、理解力、実践力を高める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt; 岡田眞江、長峰伸治、太田知実</span></p> <p>第1回 学校保健計画及び保健室経営計画の作成1：立案  第2回 学校保健計画及び保健室経営計画の作成2：グループ討論とフィードバック  第3回 理想の保健室づくり(レイアウト、機能：グループワーク)  第4回 保健だより及び掲示物の発表・フィードバック  第5回 健康相談活動：場面設定・事例検討  第6回 養護教諭と担任の連携  第7回 保健室での対応(主に救急処置について)1：実践  第8回 保健室での対応(主に健康相談活動について)2： 実践、フィードバック  第9回 模擬授業の実施（受講生全員一人ずつ行う）  第10回 模擬授業に対するフィードバック（グループに分かれて）  第11回 発達障害児童生徒の問題行動への支援について ゲストティーチャー：深澤裕子先生  第12回 スクールソーシャルワーカーによるレクチャー ゲストティーチャー：夏目由紀子先生  第13回 特別支援教育と性教育について ゲストティーチャー：津田聡子先生  第14回 学校現場体験（静岡県立西部特別支援学校）1：参観  第15回 学校現場体験（静岡県立西部特別支援学校）2：校長・養護教諭講話</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1～6回はグループワーク、第7・8回はロールプレイを行う。</li> <li>・第9回は模擬授業の発表を行い、第10回にはディスカッションを実施する。</li> <li>・第14～15回はフィールドワークを行う。</li> </ul>
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。</li> <li>・第9回模擬授業発表時にプロジェクターを使用して行う場合がある。</li> </ul>
評価方法	<p>授業への取り組み態度（授業中の態度だけでなく、本科目前後に実施するルーブリックによる自己評価とそれを用いた面談も評価対象になる） 50%</p> <p>事前・事後の課題（レポートなど） 50%</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後に出される課題について授業中に全体場でフィードバックする。</li> <li>・履修カルテ（ルーブリック評価）を用いて面談を行い、これまでの学修の振り返りを行う。</li> </ul>
指定図書	<p>なし</p> <p>講義資料・参考資料は、講義時に配付する。</p>
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護実習の振り返りをしながら事前課題にしっかり取り組む。</li> <li>・事後においては本授業で行ったことを養護実習での自らの課題に照らし合わせ、履修カルテに基づいて自分なりの総括を行う。少なくとも40分以上は行う。</li> </ul>
オープンエデュケーションの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照する。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する基本的な法律・計画など <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm</a></li> <li>・学校保健、学校安全、食育 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm</a></li> <li>・小学校、中学校、高等学校 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm</a></li> <li>・特別支援教育 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm</a> など</li> </ul> <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト <a href="https://www.gakkohoken.jp/">https://www.gakkohoken.jp/</a></p> <p>3 学校現場体験先ホームページ <a href="http://www.edu.pref.shizuoka.jp/seibu-sh/home.nsf/">http://www.edu.pref.shizuoka.jp/seibu-sh/home.nsf/</a></p>
オフィスアワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 <a href="mailto:shinji-n@seirei.ac.jp">shinji-n@seirei.ac.jp</a></p> <p>岡田眞江(看護学部) 1711 研究室 <a href="mailto:masae-o@seirei.ac.jp">masae-o@seirei.ac.jp</a></p> <p>太田知実(看護学部) 1210 研究室 <a href="mailto:tomomi-ot@seirei.ac.jp">tomomi-ot@seirei.ac.jp</a></p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。</p> <p>必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし